へ

へいかうみやく（並行脈）Parallel-veined 〔植〕葉を見よ。

へいかくきん（閉殻筋）Adductor muscle 〔動〕肉柱をいふ。

へいかつきんせんゐ（平滑筋纖維）Smooth muscle fibre 〔生〕不隨意筋をなす、纖維をいふ。

へいくわじゆせい（閉花受精）Clistomagy. 開花せざる、花中に、受精するをいふ。

へいけがに（平家蟹）Dorippe callida Fabr. 〔動〕十脚類に屬する、節肢動物なり、一に島村蟹といふ、第四、第五對脚は、短小にして、背に生じ、第二第三對を脚以て歩行す、甲殻面に、眉目、鼻口の如き形を露し、攝津、四國九州の近海殊に、壇の浦に産するを以て、壽永四年壇の浦の役、平氏の戰亡者の靈、この蟹に化すといふ。

へう（雹）Hail 〔理〕空中の水蒸氣が、急劇に凍結して、豆大乃至鷄卵大の塊をなして、下降するものをいふ。

へう（豹）Felis pardus 〔動〕食肉類に屬し、金形虎に似、體長四尺二三寸、高一尺に達し、體側に六乃至十列の斑紋を有し、金體は、黄色、頭尾黒、腹部、灰白色なり、亞弗利加、南亞細亞に産し、獸類を捕食す、亞米利加の産を米豹といひ、最強猛なり。

へうこうるゐ（鰾口類）〔動〕喉鰾類を見よ。

へうたけ（瓢蕈）〔植〕ハヘトリタケを見よ。

へうたん（瓢胡、胡盧、匏）Sagenaria vulgaris Ser 〔植〕胡盧科の草木なり、莖は、纏繞性、葉は、掌状、花は、單性、雌雄花を同株に生ず、その瓠果は、中央少く、兩部膨大し、乾燥して、瓢といふ、酒器を製す。

へうひ（表皮）Epidermis. 〔生〕皮膚を見よ。

へうひ（表皮）Cuticle 〔植〕植物體の表面を形成し各細胞は、密着して、上は角皮を以て、被はれ、外部の浸水を防ぎ、かつ内部の水分を、蒸發せしむる、保護をなし、植物體の成長すると共に、その厚を増す。

へうひそしき（表皮組織）〔植〕植物體の表皮をなす、織をいふ、表皮、氣孔、毛被類より成る水中植物、地下莖、根等には、氣孔を缺き、水中植物には、氣孔に代ふるに、水孔を以てす、毛被類は上皮の變形して、種々の形狀をなせる、突起即ち、毛、鱗、腺、刺等をなし以て、外界の障害物を、保護す。

へきかい（劈開）Cleavage 〔鑛〕鑛物を、破碎するときは、必ず、或一定の方向に割るゝ、結晶の特性をいふ、方鉛鑛の小き、立方體に割れ雲母の、薄板狀に剝くるをいふ、鑛物によりては、その完全なるものと、不完全なるもの不明なるものとあり。

ぺすときん（黒死病菌）〔醫〕黒死病を起す、細菌にして、西暦千八百九十四年エルザン氏の發見に係り即明治二十七年、廣東に於て、大流行をなし十四萬の生靈を奪ひ、香港に入り、後年本邦にも浸入するに至れり、桿狀菌の一種にして、これを染むれば、兩端著色す、皮膚の創傷より、染浸するものは、腺ペスト、空氣中に混在せる、ものを吸入するときは、肺ペスト、消化器より入るものを、腸ペストといひ、稀有に屬し、肺ペストは、傳播激烈にして、惡性を極む、患者は、股腺、鼠蹊腺、腋窩腺等の淋巴腺膨大し、その中に存在す、血液中に存すること稀なり、ペスト敗血症を惹起すときは、淋巴管、肺氣胞を破り、血管中に移行し、最惡症を極め、數時間乃至三日を出です、命を致すを常とす、その皮膚に、黒紋斑を生ずるを以て、黒死病といふ。

へそ（臍）Navel 〔生〕分産後に於ては、有用の器官

にあらざるも、胎生動物が、母體の子宮内に於て、胎盤より、胎兒に連絡する、臍帶（Umbilical cord）が、產出後、離脱せる、痕跡なり。

へそもみ Abies umbellata, Mayr. 〔植〕松柏科植物なり、全狀タケモミに類似するも、葉裏白色なるを以てウラジロモミともいふ、その果實も、その先端凹み、凹所の中央に、小突出物ありて、その狀、臍の如きを以て、ヘソモミともいひ、その多產地の武藏三峯山なるを以て、ミツミネモミともいふ。

へちま（絲瓜）Luffa petola, Ser. 〔植〕葫蘆科の草木なり、莖は、他物に纏繞し、果實は、瓠果、乾燥して、維管束を殘し足袋底等を製し、または洗滌用とす。

べつかう（鼈甲）〔動〕玳瑁龜、瑇瑁等の甲の上皮、角質に化したるものにして、櫛、笄、その他細工に用ひるも、象牙を鹽酸に浸し、または牛角、馬蹄を以て、僞製し得べし、牛角と同じく、溫熱を加へて、交互接合することを得べし。

べつかうばち（鼈甲蜂）Pepsis 〔動〕膜翅類に屬し觸角長く、雄の發育、雌よりも、強盛にして脚頗る長く、腹部黑色、翅の鼈甲樣の半透明體なるを以て、この名あり。

べにさんご（紅珊瑚）Corallium 〔動〕八放線珊瑚蟲類に屬し、骨は、脆硬の皮及び、石質中軸より成り、赤色なり、皮は小孔を有し、毎孔ポリプを存す、その形、樹木の如し、その皮を剝去したる、軸部は、吾人の裝飾用に供す、本邦に於ては、土佐の產を以て最とす、常に深海に棲息す。

べにばなむしよけぎく Pyrethrum roseum 〔植〕ペルシヤギク、ノミトリギクともいふ、菊科の多年生草本なり、全體シロバナムシヨケギクに似、舌狀花、赤色なり、初夏開花し、蟲

媒花なり、ペルシヤの原產、花を乾燥し、粉末とし、蚤取粉となし、蚊遣粉、または、その液を驅蟲劑とし、昆蟲を麻醉せしむ、また觀花に供す。

へびるゐ（蛇類）Ophidia 〔動〕爬蟲類の一目なり、長形圓筒狀をなし、外肢を有することなく、隨て肩帶は、必ずこれを闕き、而して、腰帶は、尚ほ、これを存するものありと雖、極めて、不完全なり、背面は、小鱗を數行に瓦列し、その頭上にあるものは、稍大なり腹鱗は半環狀にして、一行に尾に至りて、二列となる、脊椎の數は、往々四百以上に達し、肋骨の數もまた夥多なり、胸骨は存在することなし、齒は、顎縫並に、口蓋骨に列生し、皆小形なり、但し、毒蛇は、上顎に二個の長大なる、毒牙を有す、毒牙は、頰部に位する、毒線と連絡し、螫噬するの際、毒液を流出せしむ、多くは、毒牙の後に副牙ありて、その折損することあれば、これに代る、舌は、細長かつ叉裂し、自在に口外に伸出す、肛門は、橫裂狀をなし、內臟は體形に準じて、皆長形なり、而して、左右相對立すべき、器管は、或はその位置を前後に轉じ、或は、一方、例へば左肺は、常に甚だ不完全なるあり、左に類別す

（一）無毒類、（イ）狹口類、（ロ）濶口類、
（二）有毒類、（イ）溝牙類、（ロ）管牙類、

べほばち Bombus 〔動〕膜翅類に屬し、その體圓形にして大なり、かつ茸毛を密生す、その營生の狀、蜜蜂に類すと雖、地洞中に、大群をなさずして、生棲す、雌雄の外に、五十乃至二百、罕に五百の奴蜂あり、その構造蜜蜂と異にし、花粉を堆積して、その上に產卵す、故にその仔蟲孵化すれば、直に、これを食して窩狀の洞を作り、蛹となる、前年より生存する一雌、その巢の造營に、着手し、その後孵

化する所の、奴　もまた、その構造に與かり、かつ成熟せざる卵を產することあり、雌越年するも、他は、大抵秋に至り死す。

へら Salrichbys 動硬鰭類に、屬し。體長五寸内外、白、赤、黃色を綾どり、美麗なり、口吻尖らず、唇厚し、食用とすべし、アカヘラは、その一種なり。

へらさぎ（箆鷺、浸潜）Platalea 動水禽類に屬し體色、緋灰色を帶ぶるも、羽冠なく、嘴は、扁平にして、その狀恰も、箆の如し、故にこの名あり、・かつその尖端の大さ、中部に、二倍せり。

ぺりかん Pelocanus 水禽類に屬し、體長四尺内外、白色にして、老鳥は、紅色を帶ぶ、嘴は甚だ、長く、上嘴の尖端鉤曲し、下嘴の下面に、大なる、軟膜囊を垂る、故に喉囊屬の名あり、翼長大、尾短、脚また短、四趾間に蹼を具ふ、その兒を養ふには上嘴の鉤曲を以て自己の腹部を傷け、その流出する、血液を以てす、亞弗利加、南部亞細亞の熱暖地の、河海に產し、東印度に於ては、これを漁業に用ゆ。

べん（瓣）植瓣片、花瓣といひ、花被の各一片をいふ。

へんがん（片岩）鑛石英と、その他の各種の鑛物より成りて、剝げ易き性を具ふるものを、一般に片岩といふ。

べんきやくるゐ（瓣脚類）動鹹、淡二水に產する、甲殼類なるも、稀に、殼を闕くものありその脚は、瓣狀をなすを以て、この名あり、アパヌ等これに屬す。

へんけいえう（變形葉）植尋常葉に、對する、言にして、變形をなせる、葉をいふ、百合、水仙の根盤の如く、多肉なるあり、タヌキモの洗水葉は、囊狀をなし、または、瓶狀をなすもの、豌豆、カボチヤの葉の如く、卷鬚狀をなすもの、または、鱗狀をなし、または針狀をなす等、その形狀は、奈何なるも、葉の生ずべき位置になるものは、一般に、これを變形葉といふ。

へんけいがに（石蟹）Grapsus haematochus 動十脚類に屬する、甲殼類なり、山谷、溪間または、河堤等に、穴居し、甲、紫赤色なるを以てベニガニ、ヤマガニの名あり。

へんけいきんるゐ（變形菌類）植腐敗せる・植物體上に寄生し、芽胞は、菌狀の子囊中に生じ成熟する時は、その内の原形質は、纖毛を生じて、水中を游泳し、互に原形質集合して、一塊を形成し、内に芽胞を發生し、再び腐敗したる、植物體に於て、成長す、アミメの如きものなり。

へんけいし（變形枝）植枝の變形せるものにして、その植物の、保護、增殖、攀緣等の效用あるものとす、左に分つ、

保護の用をなすは、梨の針、攀緣の用には、カボチヤ、葡萄の、卷鬚、增殖をなす、匐枝（ツルマサキ）短匐枝（イワレンゲ）纖匐枝（ヘビイチゴ、オランダイチゴ）吸枝（キイチゴ、バラ）等なり。

へんさいるゐ（扁鰓類）動軟骨類と同じ。

べんさいるゐ（瓣鰓類）動瓣鰓類を見よ。

へんしゆ（變種）Variety 動原種より、その體制、形狀に多少の變化をなせる、生物の一小分種類をいふ。

へんしるゐ（扁嘴類）Samellirostres 動體は一般に肥大し、嘴は、軟皮を被り、唯その末端のみ、硬し、足は短く、かつ後方に位し、前三趾間に蹼を張り、後趾小にして自在なり、海川池沼に棲息し、羽毛は鮮澤、柔厚なり、多くは、候鳥にして、雁、鴨の類これに屬す。

へんせいがん（變成岩）鑛その成因は、水成岩に同じく、かつ同樣の層をなし、年を經る間

に、壓力と溫度により、變質して、火成岩に似て、一體に、晶質を帶ぶるものなり、故に晶質片岩ともいふ。

へんたい（變態）Metamorphosis 【動】昆蟲類は、一般、その發生中の、時期により、卵、幼蟲、蛹、成蟲等の、各狀態を異にする、四期を經歷す、これを變態といふ、卵は、その大小、形狀、色澤等を異にするも、その構造他動物の卵と異ならず、これを第一階級とし、その孵化して、第二階級の幼蟲、卽ち蛆、螟蛉、蛣蟖、烏蠋、蠐螬等、その形狀は、蠕蟲に類似し、翅は必ず、闕如し、無脚若くは、有脚その體制の成蟲と異なると、同時に習性もまた異樣なるを常とす、この期に於て、數々、脫皮し、終に食物收取を止め、第三期の蛹となる、蛹は、多少の時を經て、更に最後の階級卽ち、成蟲に羽化するものなり、但し、その第三階級の蛹は、部屬に因り、著しく、性質を異にし、時に自在に運動し、硬皮を被り六脚を突出し、或は、突出せず、往々、幼蟲は絲を紡出し、繭を營み、以て身を圍み、而して後に、蛹に變ずるものあり、形體上その幼蟲との差異は、唯體軀の稍大なると已に、小翅を生じたるとにあり、その體軀の益成長すると、共に翅の全く、啓發するときは成蟲となる、故にこの場合にありて、三階級は區劃判然ならずして、漸々相移變するなり、これを不完全變態といひ、蝗、蜻蛉等の經歷する所なり、これに反し、その他の場合にありては、蛹は、自在運動をなさず、かつその形は、幼蟲若くは、成蟲と著しく異なりて、四階級の區劃歷然たり、これを完全變態といふ、蝶、蛾、甲蟲、蜂等の經歷する所なり、蝨等の如く、卵、成蟲の二期のみなるを、不變態といふ、變態は、昆蟲類の外、兩棲類も、これを、歷るものなり（兩棲類及蛙の變態參照）

へんちうるゐ（扁蟲類）Plathelminthes 【動】蠕形動物の一綱なり、ヒラタムシと稱す、その名の如く、體軀扁平にして、多くは、單立すと雖、絛蟲類の如く、鎖狀に連りて、群體をなすものあり、腸は、唯一口を以て、外開し、絕て肛門を具有せず、また全く、食道を闕如するあり、泌尿器は、體中兩側部を走れる、細管にして、一個或は、數個の孔を以て、外開す、腦は、前端に近接しありて、左右二神經球より成り、前後に數條の神經を分出す、就中兩側部を尾の方に向つて、走れる二條は最著明なり、概れ、雌雄同體なるを以て、常とす、水中若くは、濕、に棲息し、または他動物に寄生す、渦蟲類（プラリナ）吸蟲類（ヂストマ）絛蟲類（サナダムシ）等これに屬す。

へんちたい（胼胝體）Corpus Callosum 【生】大腦の側室の、天井にあるものにして、兩半球を、連絡する、纖維體をいふ。

へんぺいそしき（扁平組織）【植】柔軟組織をいふ

へんぺいたい（扁平體）Prothallium 【植】隱花植物の、有性世代に於て、胞子、成熟落下し、母植物に似ざる、綠色の小體を發生す、扁平心臟をなす、これを扁平體または、原葉體といふ、雄株と雌株とより成る、その發生は、羊齒植物にありては、その裏面に毛茸を生じ、水液を吸收し、一定の時期に達するときは、雄器と雌器を生じ、雄器内の、雄精は粘液と共に、器外に放出し、水滴中を游泳し、雌器内の卵珠に達し、途にこれと合して、有膜の卵子となり、發育して、種々の變形を經て、始めて、嫩き、羊齒植物となる。

へんまがん（片麻岩）【鑛】花崗岩と、同種類にして、石英の如く薄く剝げ易き性あるものなり地殼、原始時代の、礦物なり、

べんまく（瓣膜）【生】心臟及動脈を見よ。

べんもうちうるゐ（鞭毛蟲類）Flagellata 【動】原生

動物の一綱なり、その外肉稍緻密にして、虚足を生ぜず、故に一定の形體をなし、極微にして、その状概ね、卵圓なり、多くは、一條稀に數條の長毛を生ず、これを鞭毛といふ、これを揮ひて、水中を游泳し、或は渦流を起し、食物を誘引す、この類中の或者は、その性、植物に疑似すと雖、或類は、裂口を有し固形食物を體中に、收容するを以て動物たる明なり、また或類は、その初生中一時、アミバの如く、虚足を伸縮して運動す、因りて、その類縁、根足類に近きを知る、また往々分體法により群體を成すものあり、夜光蟲等これに屬する、普通なるものなり。

ほ

ぼあ Boa 〔動〕闊口蛇類に屬し、身長四間に達する、巨蛇なり、能く、牛馬の如き、大動物を嚥下す、その肛門兩側に後肢の痕跡を存す、南米の産なり。

ほう(頬) Cheek 〔生〕顔面部の、鼻の左右、耳殻に至る、眼の下部をいふ。

ほう(椿象) Pentatoma 〔動〕半翅類に屬し、クサガメともいふ、三四寸の小蟲なり、その類多し、その體は多く、卵圓形をなし、頸甲及び頭を合すれば、三稜形をなし、植物の莖葉に棲み、青色なり、その嘴を以て、植物の營料を、吸取するを以て、害あり、觸る、惡臭を放つ。

ほうえきふう(貿易風) Trade wind 〔地〕風を見よ

ほうがふ(縫合) Suture 〔生〕頭蓋骨等の如く、二骨片の相接合して、動かざる、連接の有様をいふ。

ほうさうゐ 蜂巣胃 Reticulum 〔動〕反芻獸の第二胃嚢にして、内面に網状の襞襞を具ふ、瘤胃より移る、食物を、受け、再び口腔に還す

ほうしやうきん(縫匠筋) Sartorius 〔生〕腸骨より起り、腿の前面を斜に走り、脛骨の内上端に着する、全身中、最長の筋肉なり、脛を内に屈し、かつ腿を屈する用をなす。

ほうじろ(黄道眉) Emberiza 〔動〕燕雀類に屬し、雀大なり、その頬部白色の圓紋あるを以て、この名あり、嘴短く、下嘴廣闊にして、口を閉れば、上嘴を受容す、口蓋上に、數多の堅隆起ありて、穀類の殼を、去るに便にす、鳴囀好からざるも、また愛すべし。

ほうせんくわ(鳳仙花) Impatiens Balsamina L. 〔植〕鳳仙科の一年生草本、恰も飛鳥の如き形状の花を開く、紅色、白色その他八重あり夏季なり、故に栽培して、觀賞す、果實は、成熟すれば、裂開して、種子を散す、印度の原産、花を紅染に用ひ、古代これを以て爪を染めたるを以て、ツマクレナヰともいふ、印度にては、種子を食用とし、また油を搾り、食用、燈用とす。

ほうづきがひ(酸漿貝) Terebratella 〔動〕腕足類に屬する、擬軟體動物なり、殼は肉色、海酸漿に似たり、介殼、二枚より成り、双殼類の如きも、肉體の、背腹に、兩殼あるを以て、異にす、本邦沿岸に、多く産し、殼頂より、短肉柱を出して、他物に附着す。

ほうのき(浮爛羅勒) 〔植〕木蘭科の木本なり、葉は、卵狀大形なり、花もまた大形白色、美なり、材質密、印刷材、器具材とす。

ぼうふら(孑孑) 〔動〕蚊、豹脚蚊の幼蟲をいふ、濕地または、汚水中に、桿狀をなして、運動し、水動搖すれば、水底に沈む。

ほうれんさう(菠薐) Spinacea oleracea mill 〔植〕藜科の草本なり、葉は、大形は、花は、單性、雌雄同株、葉柄は、赤色を帶ぶ、葉を食用とす。

ほえざる 吼猴〔Mycetes〕動廣鼻猴類なり、全身紫褐色、頭に鬚髯を生じ、喉頭厚大にして、前肢に完全なる、拇指を有し、尾端を以て、長く、樹枝に纒持するを得べし、性情かつ法その戒慎常に、周密なり。その叫聲頗る大なるを以て、この名あり、ブラジル、ギニアの産なり。

ほがん（母岩）Country rocks 鑛鑛脈を包む、岩石を、凡て、母岩といふ。

ほかんたい（步間帶）Interambulacral zone 動棘皮動物及海膽類を見よ。

ぼくじうなう（墨汁囊）Ink-sack 動頭足類のイカの體中にある、一個の腺にして、肛門に接して、開孔し、若し、敵の襲撃を蒙むるときは、漏斗より、厚暗濃黑の、墨汁といふ、汾泌液を噴出し、周圍を晦まし以て、害を避くる、一種の保護裝置なり、セピアと稱する、一種の繪具は、該汁より製す。

ほくろ（黑子）Mole 生皮膚に、小黑點を印するものをいふ、これ粘液層に、色素の、多く集るものにして、往々長毛を生ずるは、こゝは營養の盛んなるによる。

ほごしよく（保護色）Polecting color. 動その體色、毛色が、外界の色に應じ、以てその所在を發見する能はざらしめ、敵を避け自己の保護を便にする色をいふ、氷雪中の、熊、兎の白色なる、尺蠖、棒象の背色または、褐色なる等、枚擧するに遑あらず、最この裝置の發達せるは、避役にして、伸縮自在の、各色素細胞を有し、その外界の色に應じて、黄、暗褐、黑色等に、時々體色を變す。

ほごてう（保護鳥）動益蟲等を、捕食し、人生に利益を與へるを以て、その繁殖期間を保護し、その 期に於て、捕獲を禁止する鳥をいふ、卽ちモズ、ヒタキ、セキレイ、ヒヨトリ、ハト、コゲラ、エゾヤマドリ、ヤマドリ、

キツ、ヒバリ、ムクトリ、ライテウ等にして大抵四月十六日より、八月十四日を禁止期さす。

ほし（星）Stare 天晴夜、大空を仰げば、無數の光輝ある、點あり これを星といふ、星には恒星、遊星、衛星、彗星、流星等の種類あり

ほしざめ Mustelus monazo, Bleek 動橫口類に屬する、軟骨魚なり、體は、長紡錘狀、體面に灰白色の斑點を散在す、魚市に最も多く見る所なり。

ほしひとでるゐ（星海盤車類）Stelleriden 動一に海星類といふ、棘皮動物の一綱なり、普通の海盤車を含むものにして、體は、星形なりその腕數は、五個を常さすさ雖或は、五個以上を有するものなり、而して、腕狀必ず、單一にして、幅廣く、軀幹との間に於て、判然たる區劃なし、軀幹の上面中央に、口を具へその周圍より、各腕の末端に至るまで、溝狀步帶の走るあり、而して、步帶毎に、步足を二列或は、四列に生じ、腕の尖頭に、接近して、各一個の小眼を具有す、皮膚は、表面粗糙にして、往々小棘を帶び、かつ中に、石灰質小板より成れる、骨骼を生ず、また體の上面に數多の、叉棘あるを、見る、食道及び、腸は至りて、短く、その中間に位する胃は、每腕の中に延長せる、有枝の盲囊狀肝臟を帶ぶ、呼吸器は、體の上面に散布せる、小形の胞狀體にして、この物體壁を、穿てる孔により、內部と相通ず、生殖器は、體腔中腕の股毎に、その一對を具へ、發達を終るときは、延伸して、腕內に入り、その所生物を體壁上面に、開通せる小孔により、外出せしむ、ヒトデ、イトマキヒトデ、モミヂガヒ等これに屬す。

ほせう（保礁）Barrier reef 動島を中央に圍み、環狀をなせる、珊瑚礁の一種をいふ。

ほそく（歩足）Tube feet 動水管足を見よ。

ほたい（歩帶）Ambulacral zone 動水管足は、體輻毎に、帶をなして、排列す、これを歩帶といふ、（海膽類參照）

ぼだいじゆ（菩提樹）Ficus religiosa, L. 植桑科の、熱帶産木本なり、地上の横枝より、氣根を垂れ、その先端地に入り、副幹狀をなし廣大なる、樹頭を形成し、一樹にして、三百二十の氣根を出し、面積六百　十　を領し、數千人を容るゝものあり。

ほたてがひ（海扇）Pecten yessoensis, Jay, 動双殼類に屬し、大形なり、右殼深く、凹み、左殼平たし、肉柱は、一個にして大なり、多く北海に産し、右殼を下にして、棲息す、その肉頗る美なり、右殼を以て、鍋に代用し、貝杓子を製す。

ほたる（螢）Lampyris 動甲蟲類に屬する、甲蟲なり、體長、七八分に至るものあり、胸部赤色、他は黑色なり、觸角短く、胸甲頭上に搆へ、尾下端の二節發光す、これ氣管內の酸素が、尾端に於て、酸化するにより、生殖上の目的なり、これを紗籠中に養ひ、以て、愛玩す、本邦産には、八種あり、山城宇治川、大和宇陀川等、最多く、かつ大形なり、ホタルは、火垂若くは、星垂の轉訛したる言なるべし。

ほたるいか（螢烏賊）動頭歩類に屬し、普通の烏賊の足に、吸盤あるに反して、鉤狀の變形をなせる、二寸位より以上、成長せざると、第四足の足に、三黑點あるを特徵とす、かつ眼の周圍、腹部一面、足の裏面にも、微小の黑點あり、黑點は、平素、不透明なるも、物に刺激せらるゝや、黑色素細胞は、一方に收縮し、透明體となり、その膜下に存する、物質、螢光の如く、發光し、以て他動物を威嚇す、足裏面のみ發光し、上部より見下せば、毫も、光を認め得ざるは、下層の同類に、危險の近くを報ずるためなるべし、眼邊の發光は、方向を示す、用をなす、この蟲は、二百年前、獨逸船、マダガスカル群島近海に、捕獲したるものと、本年（明治卅八年）三月米船メキシコ、パナマ、チリにて、捕へしもの、三あるのみなりしが、本年五月、本邦越中國滑川近海に發見し、渡瀬理學博士その生物に付き足の三黑點より、發光するものなるを發見し世界に珍しき、産地の發見と共に、學者社會を驚かせり。

ほたるいし（螢石）Fluorite, 鑛等軸晶系に屬し、六面體、八面體、その他尖體六面體、等脚三角廿四面體等と、種々の聚形をなし、時に、粒狀、纖維狀をなす、劈開、完全にして、八面體なり、成分は、カルシユーム五一・三、弗素四八・七より成る、硬度四、比重三乃至三・二五、無色なるを、純粹とし、白、紫、綠、青、黃色等を帶び、稀に、薔薇紅色なるものあり玻璃光澤強く、透明なり、細碎して、火中に投ずれば、螢光を放つ、故に螢石の名あり。硫酸を加へて、熱すれば、弗素を游離し、瓦斯を腐蝕せしむる、性を有す、故に硝子に、繪畫を畫くに用ゆその他、美色大塊のものは彫刻して、花瓶、燭臺その他裝飾に用ひ、または、溶樂に供し、弗酸製造、陶器製造等に必要なり、外國にては、英國、諾威、サキソニー、本邦にては、豐後の尾平、越前の面谷、能登、飛騨、伊勢等に産するを、良品とし片麻岩、雲母片岩、粘土板岩、石灰岩等に、鉛、錫鑛の鑛石をなして、産す。

ぼたん（牡丹）Paeonia Moutan, Ait. 植毛茛科の灌木なり、花は、紅、白、種々ありて、大形なり、春夏の頃開花し美麗なり、甲蟲、蟲媒花、花粉に富む、根は常に肥大す、支那の原産なり、和漢共に、觀賞す。

ほつすかひ(拂子介)Hyalonema sieboldii, Gray. 動海綿動物に屬し、その體は、圓塊狀なる、海綿質にして、下面より、玻璃質の、尾樣條束を生じ、これを深海底中に、埋めて、その體を維持す、海綿動物中の奇品なり、往々粧飾となす、條束の、上部表面には、一種の珊瑚蟲付着する常とす、相模、土佐海等に產す、今を距る、六十七年前、シーボルド氏創めて、歐洲に送致し、歐洲人大に、その珍穪を、賞し、これにHyalonema mirabile (可驚の義)の名を與へたり。

ほていちく(布袋竹、琉球竹) Phyllostachys aurea, Rivo 植禾本科の常綠稈本なり、高、十二尺、周八寸位、根部に接する節、波狀をなし、節間部短く、外方に張り、布袋の腹の如し、故にこの名あり、杖、傘の柄、釣竿等となす。

ほとしぎ(保登鴫)Scolopax 動涉禽類に屬し、その大さ、九寸、嘴は、直にして、上嘴は、下嘴より長し、嘴は、頭より長し、その二倍乃至三倍に至る、眼は、高く位し、前額及頂、灰色にして、後頭に鏽黃色の、橫斑あり、脚四趾を具へ、蹼なし、田澤の間に、生息し、虫類を捕食す。

ほとゝぎす(杜鵑)Cuculus tamsuicus 動攀木類に屬し、その色、灰色にして、白斑を雜へ、晚春より中夏に見る、候鳥なり、他類の鳥巢中に、產卵し、その孵化、その子の養育もまた、他鳥に任へ、自からする能はざるなり、嘴稍、弧圓形をなし、尾翼長し。

ほとゝぎす(郭公鳥)Cuculus canorus 動攀木類に屬す、世人多くは、この鳥を、杜鵑と同一視するも、その實は、異物なり、その性質、外貌等、杜鵑に似、かつ同類、同族なるも、その大さ、凡そ、鳩大なり、背部灰色、腹部類白色にして、褐色の橫紋あり、嘴弧圓形、尾翼、また長し、ミソサヾイ、セキレイ等の巢中に、產卵し、その孵化するや、貪食、迅に生育し、巢中の他雛を、驅逐し、その母鳥を困しむ、その鳴聲自名を呼に似、獨國にては、この名をククツクと稱し、英國にては、カツクウ、我國にたては、カク コウドリといふ。

ほとゝぎするゐ(杜鵑類)Coccygomorphae 動攀木類の一亞目なり、嘴は、種々の形狀にして舌は、短小かつ扁平なり、趾は、啄木鳥の如く、或は、三趾共に前に向ふ多くは、熱帶の產、昆蟲、魚類を食とし、樹上若くは、地中に營巢し、他禽の巢中に產卵す、杜鵑、郭公鳥、魚狗、ブッポウソウ、ヤツガシラ等これに屬す。

ほにうるゐ(哺乳類)Mammalia 動脊椎動物中、最高の一綱をいふ、卽ち獸類、人類を總括するものにして、その兒は必ず、母體乳腺の分泌に係る、乳汁を以て、哺養せらるゝを以てこの名あり、その他、この類の特徵は、前、後肢共に、同構造にして、體面に毛を生じ、頭骨は、二個の顆狀突起を有し、下顎は方骨の媒介なしに、頭蓋と關節し、心臟四房より成りて、血液は、溫暖、その赤血球は、圓盤狀かつ無核なり、呼吸は肺臟を以てし、橫隔膜ありて、體腔を、胸、腹の二腔に、隔絕し大腦兩半球は、胼胝體によりて、相連合し、胚は、羊膜、並に尿膜を生ずるを要點とす、今、細項に涉りて、說明すれば、皮膚は、他の脊椎動物と一般に、上皮及び下皮より成り大抵表面に、多少の茸毛を生ず、これ、上皮の所生物にして、爬蟲類の鱗、若くは、鳥類の羽と、相同物たり、毛は、その長短、疎密、剛柔、色澤を、異にし、時に棘狀をなすものあり、ハリネズミの如し、而して鯨、イルカ等の如く、殆んど全く、無色なるあり、上皮

は、また變狀して、角、爪、蹄等の如き、硬强物を成形す、稀に下皮の化骨して、一種の鱗甲をなす(穿山甲)ものあり、皮腺は、脂腺、汗腺、乳腺の三種なりとす、涙腺並に、肛門腺の如きは、脂腺の變化したるものなり、乳腺は、この類の特有にして、その數、位置は、種屬により、異なるも、必ず、體の下面にありて、概ね、乳頭といふ、小隆起上に開口す、但し、一穴類は、乳頭を有せず、乳腺は、單に皮面に於て、數口外開す、骨骼は、氣窩を含蓄するなく、甚だ、堅牢なり、頭の諸骨は、縫合線をなして、相連接し、その相膠着するは、稀なり、後頭に、二個の髁狀突起を具へ、以て、脊梁と關節し、下顎は、直接に、頭蓋と關節す、蓋し、彼の鳥類及び、爬蟲類に於て、頭蓋と下顎の、間に見たる、方骨は、位置を、鼓室內に轉じ、外に露出せす、脊索は、推骨發生の後、一時推間軟骨中

に、遺存すと雖、老成に至れば、全く消滅す脊梁は、大率、頸胸、腰薦及び、尾の五部より成る、然れども、游泳生活を營みて、體形魚類に似たる、鯨、海豚、海牛等の如きは、胸部以下の區分判然せず、頸推は、該部の長短に關せず、七個あるを常とするも、樹懶は九個、海牛は六個を有す、その第一頸推は、特にこれを、戴域といひ、頭の俯仰を司り、第二頸推は、これを樞軸といひ、頭を左右水平に、廻轉せしむ、胸推の數は、異同ありと雖、十二乃至十三個なるを以て、最も通常とす、必ず、皆肋骨を帶ぶるものにして、その腹端游離するものを、假肋骨といふ、所謂肋軟骨の、媒介によりて、胸壁の、前面正中に位せる、胸骨と連接せるものを、眞肋骨といふ、腰推は、通例、六乃至七個ありて、最も强壯なるものなり、薦推は、多くは、三乃至四個にして、相膠着して、單骨をなす、これ

を薦骨といふ、尾推は、該部の長短により、甚だしく、その數を異にし、四十六個の多きに達することあれども、多くは、二十個內外にして、人類の如きは、僅に四個あるのみ、四肢の形狀は、鳥類に比して、雜多なり、これ、蓋し、哺乳類は、或は地上を、奔走し或は、地中を、潜行し、または水中に游泳し、若くは、空中を飛翔する等、その習性の一樣ならざるに、起因すること明なり、而れども一個體に於ける、四肢は、前後共に、略同一の形狀なるを、常とす、但し、後肢は、稀にこれを闕如するもの(鯨、海豚)あり、肩帶を構成する三骨中、肩胛骨は、常に能く、發達すと雖、烏喙骨は、發育中、夙に、肩胛骨と合着して、啻に、その一突起たるに過ぎず(烏狀突起といふ)鎖骨は、往々甚だ、不完全若くは、全く闕如することあり、腰帶の、三骨は、常に存在し、腸骨は薦骨と固着し、而

して、恥骨の腹端は、必ず左右相接し、以て完全なる、所謂、骨盤を成形す、特り、鯨類の如き、後肢を缺くものにありては、腰帶もまた、大に萎縮し、僅に一對の、小骨ありてこれを代表するのみ、外肢中、腕骨(或は、跗骨)以下の骨數及び、形狀は、生活狀況の異なると共に、大に異同を示すものにして、指(或は趾)の數は、五個なるを常とするも、また減じて、或は四個或は三個となり、更に減じて、二個または一個となる、神經系中、腦の發達せること、他に比類なし、殊に、著大なるは、大腦にして、間腦及び中腦の上を覆ひ、以て、小腦と密接す、小腦は鳥類と等しく、常に、横皺を示し、而して大腦の外面は下等の哺乳類に在ては、平滑なるも、稍高等の者は、多少の迂曲せる、皺襞を存す、加之、その兩半球は、概ね、一の纖維體によりて、相連合す、これを胼胝體といふ、また小

腦の兩半球間にも、バロリ氏橋といふ、連合體あり、この二種の連合體は、蓋し、下等脊推動物の有せざるものなり、五官は、一般に完全を極め、その作用鋭敏なり、眼は、必ず上下の眼瞼を具ふと雖、瞬膜は、多くは、甚だ、不完全にして、內眥に於て、纔に、小形の襞積をなして、遺存するのみ、耳は、外殼を具へ、鼓室は、イフスタキ氏管により、咽頭と通じ、かつ三個の所謂耳骨（鐙骨、砧骨、槌骨）を藏す、而して、迷路の蝸牛殼と名くる、部分は、螺旋狀に廻旋せり、消食器の、初端卽ち口は、常に軟唇を具へ、而して、僅數の例外あるの外は、齒を生ず、これ、必ず上下顎緣に一列をなして、存在し、齒根は、各齒槽中に、嵌入す、概ね、齒に、乳齒、成齒の別あり、甲は、初生に生じ、早脫晚落して、乙これに代るものなり、また同列の齒は唯稀に、同大同形にして、多くは、これを門齒、犬齒、臼齒の三種に別つべし、門齒は、顎の前部に位し、その冠は、鋭稜をなして、噬斷の用をなす、犬齒は、門齒の兩隣にありて、圓錐狀をなし、以て、護身、戰敵の具となし、かつ、餌食を捕獲するに、便す、故に食肉類に、最も強壯にして、草食をなすものには、これを有せずして、間隙を存するものあり、臼齒とは、犬齒に次ぎて、位する、數齒にして、冠は、凹凸の摩擦面を呈し、專ら咀嚼を司どる、ものなり、口腔中、肉質の舌あり、また唾腺の開くありて、唾液を分泌す胃の構造及び、腸の長短は、餌食の性質によりて、異同あり、これを要するに、食肉するものは、胃單一にして、腸は、短く、草食するものは、胃、二房乃至四房より成りて、複雜の構造を呈し腸は、甚だ、長し、小腸及び大腸の區劃は、常に、判然にして、甲乙の境界に一の、盲腸を具ふ、その大小、形狀は、

また種屬によりて、一定せず、大腸は、稍下等の、脊推動物に比して、頗る長大なり、而して、排泄腔は、唯一穴類に存するのみ、その他の諸類にありては、泌尿し、生殖輸管は大腸と關係を、絕ちて、肛門の前に、特別の門を開けり、肝臟及び、脺臟は、必ず存在し各自その分泌液（膽汁、脺液）を小腸始部（十二指腸）に流出して、食物の消化を助く、呼吸器は、一對の、肺臟にして、心臟を抱擁し胸腔中にあり、各數葉より成りて、その質、海綿樣なり、氣管の咽頭に、接する所は、稍膨大にして、所謂喉頭を成形す、これ、發聲の器官なりとす、大氣の出入は、肋骨に附着せる、諸筋と、橫隔膜との作用により、胸腔を交々、擴張し、かつ收縮せしむるに、原由す、その橫隔膜とは、胸腹兩腔の間に、存する、筋肉質の、隔壁にして、哺乳類に始めてこれを見る、心臟の構造及び、血液循環の要點は、鳥類に等しく、心臟は四房より成りて大小兩循環の區別判然たり、血液は、溫暖、赤血球は、概ね、正圓、扁盤狀にして、核を含まず、腎臟は、多くは、豆形の腺體にして腹腔中、背部に、その一對を存す、必ず、膀胱を具有し、兩輸尿管、これに開口す、生殖器本部は、腹腔中に一對あり、特り、睾丸は通常、その本位置を轉じ、腹壁の一部は、囊狀をなして、これを受容す、牝牡は、往々體軀の大小、毛の狀態、角の有無等により、識別するを得、この類の卵は、小量の卵黃を含むを以て、微小なり、但し、一穴類は、例外にして、その卵は鳥卵に肖て、甚だ大、かつ卵生なり、この他は皆胎生にして、胎兒は、羊膜を被り、多くは（有袋類を除き）母體子宮の內壁と結合し、以て、滋養を受く、この結合を、媒介する所の器官を、胎盤といふ、これを有するものと、有せざるものあり。これ

を十三目に分つ。(一)猴類、猴、(二)偶蹄類。牛、(三)奇蹄類馬、(四)長鼻類、象、(五)齧齒類、鼠、(六)食肉類、猫、(七)食蟲類、鼴鼠、(八)翼手類蝙蝠、(九)游水類、鯨、(十)鰭脚類、膃肭獸(十一)貧齒類、穿山甲、(十二)有袋類、カンガルー、(十三)一穴類、鴨嘴獸。

ほね(骨) Bone 【生】人身體には、二百有餘の、骨あり、互に相連接し、骨格をなす、一身造構の幹材にして、全身の重量を、支へ、脆軟の臟器を、掩護し、筋肉と相須て、所謂、隨意運動を主る、その大小、形狀により、て、三個に分別す。

(一)長骨、圓き、長形の骨にして、首尾、厚大にして、中身の、髓管なり。

(二)短骨、毬形、帶角形の骨にして、細少、運動の部位にあり。

(三)扁骨、扁濶の骨にして、二面を有し、器官を包護し、肩胛骨を除くの外、敢て、運動をなさゞるものなり。

要するに、帶黃白色の、一形器にして、石灰質と、膠質の、有機、無機二物より成り、膠質は、彈力、腐敗、可燃の性を、石灰質は、硬固、不朽、不溶解の性を賦與す、その分量は、石灰質二、膠質一なるも、幼者は、膠質多く、曲り易く、老年に至るに、石灰質を增し、折れ易し、これを硬骨、軟骨に分つ、硬骨は普通の、骨にして、軟骨は、全部殆んど膠質より成り、石灰質少く、甚だ、彈力性に富み、稍軟なり、二骨の接合部にあり、衝突を防ぎ、耳殼、鼻頭の基礎をなす、長骨を檢すれば、兩端は、廣大、他骨と、接觸面を廣くし、その關節を強くし、脫臼を防ぎ、內部の質粗、海綿樣の、空隙を有し、中央は、細長、緻密の骨質より成り、中空を有し、以て骨の實質を輕くし、かつ堅牢ならしむ、骨髓と稱する、脂肪樣物質を含み、以て、骨を養ふ、外部は、骨膜を以て、蔽はれ、血管の入る、細孔あり、骨の連接は、關節と、固定連接による、固定連接は、錯齒形の縫合による頭骨の如く、軀幹部に於ては、或は、兩面凹凸の會合により、或は、軟骨を以て、兩骨間を、堅く、連接す、關節は、四肢骨に於て見る、今、全身の骨名及び、その數を擧ぐれば

- 頭骨
  - 頭蓋骨
    - 前頭骨、一
    - 顱頂骨、二
    - 顳顬骨、二
    - 蝴蝶骨、一
    - 篩骨、一
    - 後頭骨、一
  - 上顎骨、二
  - 下顎骨、一
  - 顴骨、二
  - 鼻骨、二
  - 顔面骨
    - 涙骨、二
    - 鋤骨、一
    - 口蓋骨、二
    - 下甲介骨、二
  - 耳骨
    - 槌骨、二
    - 砧骨、二
    - 鐙骨、二
- 軀幹骨
  - 脊骨
    - 頸推、七
    - 胸推、十二
    - 腰推、五
    - 薦骨、一
    - 尾骶骨、一
  - 無名骨
    - 腸骨、二
    - 坐骨、二
    - 恥骨、二
  - （薦骨・尾骶骨・腸骨・坐骨・恥骨）骨盤
  - 胸骨、二
  - 肋骨、二四
  - 舌骨、一

- 肢骨
  - 上肢骨
    - 肩
      - 鎖骨、二
      - 肩胛骨、二
    - 膊
      - 上膊骨、二
    - 腕
      - 橈骨、二
      - 尺骨、二
    - 手
      - 腕骨、一六
      - 掌骨、一〇
      - 指骨、二八
  - 下肢骨
    - 股
      - 大腿骨、二
      - 膝蓋骨、二
    - 脛
      - 脛骨、二
      - 腓骨、二
    - 足
      - 跗骨、一四
      - 蹠骨、一〇
      - 趾骨、二八

ほねかひ（惡鬼貝、骨貝）Murex （動）一にアクキガヒともいふ、腹歩類に屬する、海產貝なり、螺に、長濇を、具へ、かつ數多の尖突起を生す。

ほねり Bonellia （動）環蟲類に屬する蠕蟲にして、體瓢簞狀、二尖頭に、分叉せる、細長の吻を具ふるものを、雌蟲となし、雄は、微小にして、形狀渦蟲類に似て、常に、雌の生殖輸管內に、寄生す。海底に產す。

ほや（海鞘、老海鼠）Cynthia （動）被囊類に、屬し最下等の脊椎動物なり、直徑四五寸、その形卵形の、一囊にして、紫赤色を、帶び、外面に、許多の乳嘴（疣狀）突起あり、上端に、口排泄孔に相當する、二孔を開く、表皮、植物の細胞膜に特有の、物質より成り、一見植物の觀を呈す、內臟も簡單にして、一として、器官と稱すべきもの、存在せず、雌雄生殖及び、出芽法により、繁殖す、初生の時、運動し、生成後は、他物に固着す、この海道、奥州等の沿岸に產し、その內肉は、美味にして食用に供す。

ほやぬすしき（ホヤヌス氏器）Borann's organ （動）軟體動物の、泌尿器をいふ。

ぼら（鯔魚）Mugil. （動）イナともいふ、硬鰭類に屬し、一尺三四寸に達するものあり、頭、扁く、體は、側扁ならず、背部暗青色、腹部白色、河口、鹹淡水相交る、處に群をなす、そのウヌと俗稱するものは、美味なり。

ほらがひ（梭尾螺）Triton （動）腹歩類に屬し、その螺、長くして、縱襞あり、頗る大形なり、一尺に達するものあり、外面茶褐色の斑紋あり、螺口また大なり、往時、戰役に於て、音號に用ひたるものこれなり、海產なり、內肉は、食用とす。

ぽりしなう（ポリ氏囊）Polian vesicle （動）棘皮動物の、特有器官系の、一部にして、環狀水管の、歩間帶に、附屬せる、四個の、球狀囊なり、動物の移動せんとするや、該囊を、膨大し、石管を通じて、篩板より、海水を吸入し次に、該囊を收縮して、その中の海水を、放散管に送る。

ぽりぷ Polype （動）腔腸動物の、有する一種の、體形にして、圓筒體をなし、口は、體の一端に開き、他の一端を以て、他物に附着す。

ぽりぽくらげるゐ（ポリポ水母類）Polypomedusae or Hydrozoa （動）腔腸動物の一綱なり、ポリプ狀のものと、水母狀のものあり、故に、ポリポクラゲの稱あり、體軸は、概れ、四或は八、或は、數多ありて、腔腸は、單一なる腔室なるが、或はその一部は、放散狀の所謂水脈管となりて、諸部に布竹す、分つて、ヒドラ蟲類、管水母類、水母類の三目とす。

ほろにす Phoronis （動）前尾類に屬する、海產の小蟲にして、構造は、星蟲類に似たりと雖、觸手は、口の周圍に於ける、蹄鐵狀櫛突起に生じ、軀幹は、外物に固着せる角質の細管中

に收まれり、雌雄同體なり。

ほんかや　植榧を見よ。

ほんだはら（馬尾藻）Sargassum Horneri, Tar. 褐藻類にして、諸州の海濱に產す、種類多し、正月の裝りとなす、若き時は、味佳にして、食すべし。

ほんつが　植栂を見よ。

ほんのう（本能）Instinct 動動物天賦の性質をいふ、經驗習慣によりて、得たるものにあらずして、生れながらの、性をいふ。

ほんやし　植椰子を見よ。

ま

まあぢ（竹筴魚、鰺）動アヂを見よ。

まいか Sepia inermis, Hasselt 頭歩類に屬し、體は、卵圓形、背白色にして、紫褐色の、斑紋を、密散す、兩體側に、肉鰭を、附着し、全體長六寸內外、普通のイカなり、多く西海に產し、食用とす。

まうきんるゐ（猛禽類）Raptatores 動鳥類の一目なり、嘴は、強大、上嘴鉤曲して、尖銳なりその側緣に屢々、齒狀の缺刻あり、而して、嘴根は、軟皮を以て、覆へり、翼足共に、壯大にして、四趾に銳利の鉤爪を具ふ、その性鮮肉を嗜み、また腐肉を食す、この類は、雌は、雄よりも大、孳尾期に除して、双棲し、餘は、散在す、雛は微弱にして、親鳥これを哺育す、その性頗る、勇悍、視官、銳敏、飛翔迅速なり、畫中若くは、夜間に出て、、趾爪を以て、禽獸を捕獲し、而して、嚥下したる、骨、羽毛の如き、不消化物は、時々、小團塊をなして、吐出す、鷹、鷲、鳶、鴟、鴞ミミヅク等これに屬す。

まうじやうみやく（網狀脈）Reticulatedor Netted-veined 植主脈、枝脈、細脈が、網狀をなして、相連るをいふ、胡爪、栗、枇杷、桐、椒等の、葉に於て、これを見る。

まうせんごけ Drosera rotundifolia L. 植茅膏菜科の多年生、小草本なり、食蟲植物にして、葉に、腺毛あり、昆蟲その他の小動物來ればこれを、捕へ、腺毛より、消化液を分泌し、以て養料となす、葉は、紅色を帶び、群生の狀、毛氈を敷けるが如し、故にこの名あり、花は、白色、夏秋に開き、蟲媒花なり、歐羅巴、北及び、西亞細亞、北米にも分布し、濕地に產す。

まうそうちく（孟宗竹、江南竹）Phyllostachys mitis, Riv. 植禾本科の常綠喬木なり、高さ五十尺、周二尺五寸に至るものありと雖、質、硬、密ならず、その用材としては、竹中、第二位にあり、筍を以て勝れり、暖地に產し花瓶、文具等の器具を作るに用ゐる。

まうちやう（盲腸）Caecum 生大腸の始部をいふ先端に開口なき、盲囊にして、その先端に、蟲様垂を、垂る、上行結腸部にあり。

まうてん（盲點）Blend spot 生眼球を見よ。

まうまく（網膜）Retina 生眼球を見よ。

まきひげ（卷鬚）Tendril or clavicula. 植葉、或は、莖の變形したるものにして、他物に、捲纏して、莖幹を上昇せしむ。（一）上部小葉の變化したるもの（豌豆）（二）莖の變化したるもの（葡萄）（三）葉身全部の、變化したるもの（アラセートー）（四）托葉の變形したるもの（サルトリイバラ）等なり。

まくしるゐ 膜翅類 Hymenoptera 動昆蟲類の一目なり、口器は、嚙咬及び舐唯に適し、四翅あり、その變態、完全なり、頭は、大にして、自在に運動し、複眼の外に三單眼を具ふ胸環節は、皆相固着す、翅は、膜狀にして、翅脈少し、概れ、胸腹の間に多少の緊縊あり

而して、雌は尾端に産卵管或は、毒剣あるを常とす、蜂、蟻の類これなり、幼蟲は、有脚或は、無脚なり、甲は、螟蛉（アヲムシ）狀にして、樹葉に附着し、これを食す、乙は、蛆狀にして、或は他の昆蟲に寄生し、或は、巣（蜂の）中にあり、蛹は、已に脚を生じ、往々繭を被むる。

まぐろ 鮪 Thynnus macropterus 動硬鰭類に屬し、六尺に達する、大魚なり、體は、肥大し鱗皮下に隱れ、背部青黑、腹部鉛白色を帶ぶ尾の中央の兩側に大なる、軟骨板を具ふ、その肉脂肪に富む、太平洋に多く、暖時北に向ひ、寒時は、南行す、冬春の交、最美味なりその幼なるを、メヂといひ、マグロは、一名ハツといふ、仙臺沖の産最有名なり。

まくろかるばぎらげやし（マクロカルパ象牙椰子）植熱帶産の、棕櫚科なり、幹は、六尺位雌雄異株なり、六乃至九個を以て、人頭大の一團をなし、一株六乃至八團あり、各個は一個の種實にして、胚乳は、白色象牙狀、硬さも、象牙の如し、故にこの名あり、南米土人はこの果より、飲料を製す。

ます（鱒魚）Onchorhynchus peryi Hilgd. 動喉鰾類に屬し、體長二尺、背部、濃藍色に、茶褐色を帶び、腹部銀白色、横側に、楕圓形の斑紋を列す、背鰭の後に、無刺の一小鰭を具へ、常に海中に、棲息し、六月頃河川に溯り八九月頃、最清らかなる、急湍の、砂礫間に産卵す、北海道沿岸に多し、その肉滋多くして、美なるも、裂頭條蟲の仲間宿主なり、注意すべし。

まだけ（苦竹）Phyllostachys quilioi, Riv. 植禾本科の、常緑喬木なり、幹は、長さ、拾數間に達するものあり、四五十年にして、初めて開花し、無被、群生し、各花穗は大形の苞にて、包まる、花に三雄蕊あり、季節春、風媒

花なり、開花後は枯死す、五六月頃、筍を生す、その長大なるものは、味、苦し、故にニガタケともいふ、籜の表面には、紫褐色の斑紋あり、籜頂の、小葉は、長き線形をなす、幹は、竹類中、最上等にして、肉薄く、纖維眞直なるが、故に籬、籠、傘、カケヒ等その他百般の用に適し、籜は、物を包み、草履を製す、本邦南部の、温暖地に産し、大城男山の産最有名なり。

またたき 生眼瞼、瞬動して、眼球に附着する汚物を、掃ひ、または、光線、輝きて眼瞼諸筋に感應する、作用による。

またまたかめ Chelis 動龜鼈類に屬し、甲短く背甲の角板突起し、鼻長く、頭部に軟皮葉あり、その趾、水龜の如し、中央亞米利加の湖、河に産し、その肉美なり。

まだらうま（斑馬）Equus, zebra L. 動奇蹄類に屬し、體長六尺五寸、鬣直立し、白色、或は淡黄色の地に、黑褐色の環條の縞あり、南亞弗利加の原野に、自生し、性猛にして、使役し、難し。一にシマウマといふ。

まちん 馬錢子、番木鼈 Strychnos Nux vomica, L. 植馬錢科の、本木なり、無柄、對生葉、花は小、その果實はミカンに似て、堅し、その種子より、ストリキニイ子を製す、激毒薬劑なり、東印度に産し本邦にも、自生す。

まつかふくぢら（眞甲鯨）Physeter 動游水類に屬する、魚形獸なり、長さ、七丈乃至八丈に達し、牝の大さ、その半に居る、頭大、全體の三分の一を占む、前頭鈍圓なり、皮色は、背部黑色、腹部白色、頭の上方には、二個の蒸氣、噴水口會合して、一大圓孔をなし、齒は、下頤に五十四枚の、狹小なるものを具へ上頤のものは、大にして、齒槽中に、隱沒す耳、目は、極小、胸鰭は、大なる、口裂の直後にあり、背鰭は、缺如し、肛門の對側の背

の部分に、長き隆起を表し、尾は、水平に位し、二裂す、頭の、軟骨洞中に、油樣の半液體を貯蓄し、その液、死後凝結して、鯨腦を形成す、これを精製すれば、白色鮮明、無味無臭となり、傍ら黄色の鯨腦油を產す、また腸管、膀胱等の中に、香氣を放つ、小塊ありて、往々海岸に、漂着し、或は海上に、浮漂す、これをアムブラと稱し、香料に供し、煙草に、點用す、肉は食用とし、多量の、膏油を有す、太平洋及び、大西洋に群集し、多く頭歩動物を食とす。

まつげ（睫毛）Eyelashes 〔醫〕眼瞼の緣に、生ずる短毛にして、塵埃の眼に入るを防ぐ、光線の調節をなす。

まつげむしのてふ（松毛蟲蛾）Gastropacha 〔動〕鱗翅類に屬し、觸角、硬毛狀にして、二列の櫛齒あり、胸、腹肥大し、その蛉側部に、長束毛を有し、翅には、三日月形の細白紋を印すその齒大なり、幼蟲は、絨毛を密生し、松樹に生す、松葉を食し、害をなす。

まつたけ（松蕈）Armilaria edoides Berk. 〔植〕帽菌科植物にして、食用菌類中、最上品なり、菌傘、菌柄の區別、最も明にして、菌褶もまた、最規則正しく、輻射狀に列す、菌傘上面、淡黑褐色、裏面及び、傘柄菌絲共に白色なり、一種の死物寄生菌にして、赤松或は、姫松の林中、腐敗せる、松葉に寄生す、吾人の食用とする、部分は、その蕃殖器にして、その本體、松蕈菌は、地中に存する、白色、綿絲狀の細纖維、卽ち菌絲なり、その成分も、滋養分、甚少なく、消化惡き、水、八一・七、蛋白質、三・七、脂肪分〇・七、無窒有機分一二・八、灰質四・三よりなるも、一種の香氣を有し、美味なり、常に、高燥の地を好み、本邦諸國に產す、殊に山城、攝津有名なり、季節、秋なり。

まつばぼたん（松葉牡丹）Portulaca grandiflora Hook 〔植〕馬齒見科の一年草本なり、葉は、多肉にして、松葉の如く、莖、葉多少赤色を帶び、花は、紅色、黄色或は、白色、比較的大形、ボタン花の如し、故にこの名あり、季節夏、午前光線強からざる時に、滿花し、午前二時に、凋む、庭園に栽培し、イツボタン、ツメキリサウ、ヒナタサウ等の異名あり。

まつむし（金琵琶）Calyptotrylmus marmoratus 〔動〕直翅類に屬する、昆蟲にして、その外貌、大小、スズムシに似、西瓜の種子の如し、全體黑褐色、頭小、腹大、翅の背面扁平なり、かつ觸角、長し、雄は、夏季夜石垣の間に出て、翅を、直立して、チンチロリンと鳴く、鳴聲愛すべきを以て、これを捕へて、飼養す

まつよひぐさ（待宵草）Oenthera odorata Jacq 〔植〕柳葉菜科の二年生草本なり、ツキミグサに似、花の黄色なるを、異にす、春より、秋に開き、蟲媒花なり、パタゴニヤの原產、夜、花を咲くを以て、この名あり、海邊、または河岸の砂地に、自生す。

まて（馬蛤、竹蟶）Solen 〔動〕双殼類中の同柱類に屬し、カミソリガヒともいふ、殼、甚だ、長くして、その緣殆んど、並行す、外面蒼黄色、内面淡黄色を呈し、長さ二寸五分、高さ四寸内外、海底砂中に、鉛直線の孔を穿ちて、穴居す、本邦に產するもの、千餘種あり、その肉は食すべし。

まながつを（鯧魚）Siromateus 〔動〕硬鰭類に屬し、その形、鯿に似て、圓く、攝津、和泉にては多く、糟漬となして、諸國に輸出す、美味なる、海產魚なり。

まなづる（鴇雞、眞鶴）Crus antigone 〔動〕涉禽類に屬し、形狀、丹頂鶴に似、高さ、四尺位、全身灰白色、頭端、尾等、黑色、兩頰赤し。

まはぎ（鰧魚 Monacanthus 〔動〕ハゲまたは、ツユ

ンバハキともいふ、硬頭鰓類に屬し、體は八九寸、帶灰黑色なり、皮膚は、マシホウの如く、口小なり、體は、側區頭上に、長棘、背鰭後にも、短棘を具ふ、皮膚を去り、肉は食用とすべし。海産なり。

まひまひ 動蝸牛の一種なり、その形狀は、種類によりて、異なり。ミスヂマヒマヒ、Helix peliomphala コシダカマヒマヒ H. Japonicus Pfr. ヒダリマキマヒマヒ H. quaesita F'er 等あり。

まひまひかぶり Damaster 動甲翅類に屬し、全身黑色、體の諸部、延長して、蝸蝓を嗜す、この類の本邦産、六種あり。

まぶた(眼瞼) 生ガンケンを見よ。

まむし(蝮蛇)Trigonocephalus Blomhoffi, Boie 動管牙類に屬する、有毒蛇類なり、一にハメともいふ、身長一尺五寸に滿たず、普通の蛇に比し、短太なり、全身暗灰色、黑紫色の圓紋を散在す、尾端尖り、鼻、眼の間に、深窩を具ふ、毒牙は管狀をなし、平時口內に橫り、開口すれば、起立し、猛烈なる、毒液を注射す、この蛇は、子を口中より、胎生す、多く、茂草中に、棲息す。

まめだふし Cuscuta chinensis Sam. 植旋花科の一年生草本なり、莖は、黃色、蔓性、他草に寄生す、普通土中根を有せず、吸根を、寄生植物に入る、故に、その一種大なるを、ネナシカヅラともいふ、多く、豆の種類に、寄生して、害をなす、この名ある、所以なり。

まるばち Alsophila lunulata, R. Br. var. Bongardiana. Metten 植羊齒植物にして、葉柄、黑褐色にして、太く、故に漆みて、髄となす。

まるびきしくわん(マルピキ氏管)Malpighian tube 動節肢動物を見よ。

まるびきしなう(マルピキ氏囊) Malpighian

glomerules 生腎臟を見よ。

まんきやくるゐ(蔓脚類) Cirripedia 動甲殼類の一目なり、この類は、海中の岩石、杭木、介殼等に固着し、數片の石灰質堅殼を以て、身を圍繞し、肉質の柄あるものあり、また柄なきものありて、通常の硬殼類とは、甚だ、形狀を異にすと雖、その幼蟲よりして見ば、甲殼類なること、疑を容れず、幼蟲は、水中に游泳し、終に、その頭部を以て、外物に固着して、殼片を生ずるものあり、脚は、六對ありて、各二枝に岐れ、蔓狀なり、絶へず、これ殼口より、突出して、食物を捜索す、概ね、雌雄同體なり、往々別に、微小の補雄あるものありて、雌雄同體なる、體軀に寄生す藤壺、石砌、若衛兒、サクソナ等これに屬す

まんぼう(翻車魚)Orthagoriscus 動硬頭鰓類に屬し、一にウキヽともいふ、體は、卵圓形、長さ七尺、高さ四尺に達する、大魚なり、皮膚革の如く、側扁なる體は、殆んど、尾部なく、背、臀鰭は、尾鰭に連なる、頗る、異狀のものなり。

み

みかん(味感)Tasting 生水中に溶解せる、鑛物は、一種の味を有す、これを味感といふ、味感には七種あり。

(一)辛味、智利硝石の如きものに有する味
(二)酸味、硫酸の如きものに有する味
(三)甘澁味、明礬の如き味
(四)苦味、硫酸苦土の如き味
(五)澁味、膽礬の如き味
(六)鹹味、食鹽の如き味
(七)冷味、硝石の如き味

みかん(蜜柑)Citrus nobilis Sdur 植芸香科の、

常綠喬木なり、花は白色、夏開き、虻、蜂媒花なり、果實は、漿果、熟すれば、果皮黃色となる、よき接穗を、採りて、カラタチの臺木に接す、暖地に適し、紀州、雲州の產著名なり、果實は、食用とし、また、一種の飲料を製すべし。

みき(幹) 〔植〕莖幹をいふ。

みくろかるぱざうげやし(ミクロカルパ象牙椰子)Phytelephas microcarpa, R. et P. 〔植〕南米、熱帶地方に產する、棕櫚科植物なり、幹は、短小、葉を、頂に簇生す、その種子の、胚乳は、白色、堅硬、中空ありて、象牙樣なり、象牙に代用して、種々の工藝品を製す。

みくわん(味官) 〔生〕舌を見よ。

みざくら(櫻桃)Prunus cerasus L. 〔植〕薔薇科の木本なり、所謂、西洋櫻にして、果實は、サクランボと稱する、核果を生じ、熟すれば、赤色となる、歐米に於て、有用の、食料ツヤミを製し、また食用とす。

みさご(鶚)Pandion 〔動〕猛禽類に屬する、鷹の一種なり、體長一尺五寸位、背面褐黑、腹部白色なり、嘴短く、趾間に逆趾を有し、かつ自在に、外趾を、前後に回轉す、海べを、飛翔して、巧に生魚を捕へ、これを岩石間に、集積す、これをミサゴノスシといふ、多く、北半球に產す。

みしまをこぜ Uranoscopus 〔動〕硬鰭類に屬し、稍虎魚に似て、背鰭長く、その線強直なり、眼頂上に位し、二背鰭あり、その鱗、微細なり、多く、遠州三島沖に產するを以て、この名あり。

みじんこ(水蚤)Daphnis 〔動〕葉脚類に屬する、小蟲なるも、肉眼を以て、見認するを得、體軀透明にして、雙殼狀の甲殼を、被り、觸角は大にして、分岐し、嗅感を司り、大脚は、運動、小脚は、呼吸を司る、五對の脚あり、夏季は、單爲生殖、冬時は雌雄生殖との交番をなす、溝水等に、無數を生じ、人採りて、金魚の食餌とす。

みそさゞひ 鷦鷯 Anorthura 〔動〕燕雀類に屬し、その體、矮小、茶褐色を呈す、嘴長く、尾翼甚だ、短く、性快捷、能く害蟲の、卵、蛹等を、捕食するを以て、禁止鳥なり。常に、籬內、洞穴を徘徊し、三四月の交、廁陰或は溝畔を穿ちて、巢を造る。

みぞれ(霙)Sleet 〔氣〕雪の降下する、途中にて、暖溫に遭ひ、一部の融解せるものなり。

みちをしへ(斑蝥) Cicindela 〔動〕甲翅類に屬し、五寸位、觸角硬毛樣、頭の大さ、胸甲の如く眼目突出す、體は延長し、背部綠赤及び、白色の光澤、腹部金光を帶び、美麗なり、夏時砂地に產し、能く疾走し、人近けば、人の向ふ方に、飛翔すること、數回にして、人に方向を導くものゝ如し、この名ある所以にして、幼蟲もまた延長し、鉛直の砂孔中に棲す、これを藥用とす、ミチシルベともいふ。

みづ(水)Water 〔化〕水は、水素、酸素の化合物にして、地球を組成する、一大要素なり、地中より、湧出する、泉水は、涓滴の微と雖、相集りて、河となり、海に注ぎ、大洋を形成し、その一部は、漸々蒸發して、雲となり、凝りて、雨となり、雪となりて、地上に降り、地殼中に、浸潤して地下水となり、再び出でゝ、泉水の源をなし、地球の內外を、循環して、止むことなき間に、また絕へず種々の營力、即ち、破壞的の、侵蝕作用、建設的の、沈積作用、その中間なる、運搬作用をなし、これ等の作用は、器械的、或は、化學的に働くものなり、大洋の水は、地球全面積の四分の三、全容積の八百四十三分の一を占め加之、河、湖、泉、井となりて、地上、地下にあるもの、水蒸氣となりて、大氣中に、含まる

―もの、或は、他の原素と共に、有機物體、無機物體を成形するものを、合算すれば、その容積、實に驚くものあらん。水は、常溫に於て、液體なるも、攝氏零度以下の溫度に遇へば、凍結して、同形體(氷)をなし、これを熱すれば、蒸發して、瓦斯體(水蒸氣)となるこれを地球上に於ける、水の三體といふ。水は、攝氏四度以上の熱を與ふれば、溫度上昇し、共に膨脹するも、四度以下に於ては溫度上昇するも、却りて、收縮する、特有性ありかつ下壓、側壓力の外に上壓力を有し、液體通性なる、平均性を有す。純粹なるものは、無味、無色、無臭の清澄なる、中性の液にして、零度に於て、大氣より重きこと、七百七十三倍にして、諸物體比重の標準なり、卽ち比重一とす、而れども、天然純粹なる水は、極めて、鮮し。水は地上水、地下水に分ち地上水を、天水、河水、海水に區別す、天水は炭酸瓦斯を含み、河水は、炭酸石灰を混じ、海水は、百分中三・六の鹽分を、蓄へ、比重一・〇二七なり、天水卽ち、雨水は、空中の、塵埃を洗ひ、空氣を淸潔にし、降下しては、田野を灌漑し、植物を養ひ、河水となりては、交通運輸の、便利を益へ、水車または、機械の運轉をなし、海に注ぎ、海水となりては、人世必要の、食鹽を供給し、水棲動植物を、生育せしめ、水蒸氣となり、雲を起し、雨となりて、土壤を潤し、氣候を調和し、航海の便を與へ、商通に、大益を及ぼす等、その効用、筆紙の、能く盡す所にあらず、地下水はこれを、井水、泉水に分つ。(地下水參照)

みづあか 〔植〕硅藻類に屬し、水を、久しく、放置するときは、黄褐色の、顯微鏡のものを、一面に生ず、これ、無數群生するにより、單細胞植物にして、その細胞膜内には硅酸を含む。

みづぐも(水蜘)Argyroneta 〔動〕眞正の蜘蛛類に屬し、肺氣管の二器を以て、呼吸し、水中に倒鐘狀の巣を、作り、これを水草に附着し、その中に、空氣を充たす、この蟲體の周圍に空氣層を有するを以て、水中に入れば、銀色を呈す、多く、湖沼等の、淡水不動の水中に棲す。

みづくらげ Aurelia 〔動〕ポリポ水母類の水母類に屬し、何れの海にも、多く産する普通のクラゲなり、無色透明、鐘狀部、廣くかつ淺く、縁に、細觸手を垂れ、口は、鐘狀部の下面中央にあり、口の周邊は、延びて四個以上の腕手となる、鐘狀部の縮脹により、泛々、海面を浮游す、鐘狀の徑、尺餘に達するものあり

みづごけ Sphagnum Sp.〔植〕蘚苔植物なり、多溼に沼澤に生す、その構造、スギゴケに等しく、眞正の維管束、葉を缺ぐも、莖、葉の區別判然なり、不完全なる、葉の裏面より、假根を出して、地上及び岩石に附着す、この植物が腐敗して、漸々堆積し、年月を經れば、遂に泥炭となるものなり。

みづすまし(豉豆)Gyrinus 〔動〕甲翅類に屬する、水棲小甲蟲なり、全體ケンゴラウムシに似て黑色なり、水面に群棲し、迴轉運動をなす、故にマヒマヒムシともいふ、池水に産す。

みつせん(蜜腺、蜜槽)Nectary 〔植〕蜜液を分泌する、腺にして、その位置は、概ね、花の各部分にあるも、櫻の如きは、葉柄或は葉脚にあるものあり。

みつち(御土) 〔礦〕硅藻土を見よ。

みづな(水菜)Brassica Japonica Thunb 〔植〕十字科の草本なり、葉は、大形、細裂し、數多簇生す、花は黄色、莖を煮、または漬て、食用とす、日用の野菜なり

みづのうんかう(水の運行) 〔理〕水は根より、植物體内に吸取され、諸組織の内部に浸透して

常に平均せんとするが、故に、數多の原因により、不平均を生ずる、所を生じ、水は、その不平均を補はんとして、運行するをいふ。

みつば（鴨兒芹）Cryptotaenia Japonica. Hassk 繖形科の草木なり、葉は、三小葉より成る複葉なり、故にこの名あり、長き、葉柄あり花は白色、複繖形花序は、不整齊なり、常に水邊濕地に產し、葉及び莖を食用とす、香あり。

みつばち（密蜂）Apis 〔動〕膜翅類に屬し、尋常の蜂に比して、小形にして、肥大し、全形虻に近似す、その習性、蟻に、等しく、無數に群集して、規律正しき、一社會を團結し、樹洞中、または人工設置の、箱、樽中に、許多の六角小房より成る、巢を營み、その原料は、腹環節間より、分泌する、一種の軟質にして世にこれを、密蠟と稱し、種々の、製造用に供す、群中受精したる、一雌あり、後體長く刷毛を缺く、これを女王といふ、その統御の下に、僅數の、眼大にして、密接し、後體大籠毛及刷毛を缺ぐ、雄、及び、數千の職蜂、奴蜂ともいひ、その眼側方に隔たり、後脚の外面陷凹し、その周圍に、籠狀をなす、硬毛を生じ、廣濶なる、跗節の內面は、正列したる、硬毛は、刷毛形をなし、花粉を採集に便にす、これ、生殖器の發達せざる、雌なり、職蜂は、食料のため、花密を採集し、かつ造巢を司り、その性頗る、勤勉なり、これに反し、雄蜂は、從事する務なく、秋に至りて、皆死す、女王及び職蜂は、蓄藏したる、花密を、冬間の糧として、越年し、春に至りて、女王は房每に、一卵を產す、その卵に受精せざるものあり、これ、必ず雄蟲に、發生す（單爲生殖）受精なる卵は、食料供給の多寡により、女王或は、職蜂に發生す、職蜂となるべき、幼蟲も、人爲にて、飽食せしむれば、

必す、女王に化生す、產卵期終れば、女王は在來の職蜂の一部を率ひて、他に移轉し、新に造巢し、更に生殖す、故巢にありては、第一に孵化したる、新女王は、或は、自他の女王となるべき、幼蟲を滅して、獨り王位に就き、或は、群蜂の一部と共に去りて、他に新社會を組織し、故巢の王位は、これを第二に孵化する、新女王に讓るなり、女王は、孵化後必ず、一時空中に飛翔し、交尾の後自己の巢に歸る、その一生は、四五年に亘ると雖、また再び交尾することなくして、能く產卵し幼蟲は、無足、これを養育保護の任は、職蜂の務に屬す、その巢中に貯蓄する、密は、蜂密と稱し、黃白色の半液體、甘味砂糖を超へその用途は、世人の普く知る所なり。

みどりいし（石蠶）Madrepora 〔動〕珊瑚蟲類に屬し、塊狀にして枝あり、その共同骨骼突出して、無數の疣狀をなし、ポリプその內に生棲す、熱帶の海洋底に、最も、多く繁生し、珊瑚礁の一部をなすことあり。

みなしがひ（鷄心螺）Conus 〔動〕腹足類に屬する、海產、螺貝にして、食用とす

みのひき（長尾鷄）〔動〕家鷄の一變種にして、尾長し。

みのむし（蓑蟲）〔動〕蛾の幼蟲をいふ、自體より紡出する、絲を以て、木葉、木稍片を集め、以て、袋を製り、その中に棲し、これを樹枝、草間に垂下し、夜中その位置を變じ、半體を出して、木葉を食し、害をなす。

みみ（耳）Ear 〔生〕耳は、頭部の兩側にあり、露出部は、耳殼及び、外耳の初端にして、耳殼は音波を受けて、集むる用をなし、內部は、顳顬骨これを包みて、保護をなす、これを外耳、中耳、內耳に分ち、音器の、刺戟によりて外界の現象を、大腦に通ずる、聽感を司る、器官なり、外耳とは、耳殼より、細毛を生ぜ

る、外耳道より、鼓膜に達する、長さ八分程の、管道の總稱にして、軟骨質をなし、奥部は、硬骨質より成り、耳殻の外皮延長して、周布し、無數の膩腺ありて、耳膩を分泌し、こゝを濡潤す、鼓膜は、外耳道と內耳の中壁をなす、薄膜にして、恰も障子の如きものなり、內耳は、また鼓室と稱し、顳顬骨內の、岩様部にある、一小室なり、エウスタキ氏管と稱する、一小管を以て、咽頭に通じ、內に空氣を、充滿し、以て、外界の氣壓を相平均し、外耳道を經て、鼓膜に達する音響は、鼓膜を振動すると共に、空氣を振動し、以て、振動を大にす、その音響は、中耳に傳へ、中耳內には、三小骨ありて、相連りて一系をなす、卽ち槌骨は、鼓膜に附着し、その振動を受け、直にこれを、砧骨に傳へ、砧骨はこれを鐙骨に、傳へ、鐙骨はこれを、內耳に遞送す、內耳は、水様の液を含める、複雜なる、膜嚢にして、半軌管及び、蝸牛殼に分ち、二者の中間にありて、これを連絡せしむる、小嚢狀部を前庭といふ、かつ圓窓及び、卵圓窓と稱する、二小孔により、中耳に連絡す、半規管は、その數三あり、上下、左右、前後に面す、その作用は、身體の運動、音響の位置を、知覺するにあり。蝸牛殼は、細長なる、圓錐形の管を、螺旋狀に卷き、蝸牛の殼に、類似す、故にこの名あり、內腔は、上下の二段に分れ、その圓錐の尖端にて、相連絡するのみ、殼壁には、上下二の小窓あり、これ圓窓、卵圓窓なり、上窓(卵圓窓)は、中耳內の鐙骨の一端に、嵌りて、附着し、その音響を受けて、これを、殼內の液に傳へ圓窓は、單に膜にて、張り、鎖さゝるゝのみ、以て音響の壓迫を避くる用をなす、膜質內耳の、蝸牛殼管、螺旋部は、蝸牛殼の上段外緣に沿ひて位し、大腦より來る、聽神經は、扇狀に、數

千の枝に分れて、この管に入り、その末端には、特別の器官ありて、洋琴の絲の如く、大小列を正しく、並列し、水様の液、振動に感じ、高低音を、大腦に通ず、感冒のために、一時耳聾の起るは、エウスタキ氏管阻塞し、鼓室內の氣と、外氣の平較を失するによる、常に耳內を清潔にし、湯、水を入れ、洗滌せざれば、耳漏を起し、また洗滌後、水を拭はざるも同じ、かつ外耳道の細毛を剃づるは危險なり、耳垢を取るは、尖りたる金屬物等を、用ひるべからず、爲に、鼓膜を傷け、または、大砲、烟花等の如く、過度の音響も、鼓膜を傷け、終生不具となるべし。

みみくそ(耳糞) Ear-wax. 〔生〕外耳道の、皮膚の、角質層の、脫離と、汗腺より、分泌する、一種の液の固りたるものなり。

みみず 蚯蚓 Sumbricus 〔動〕環蟲類に屬する、蠕蟲なり、體は、圓筒狀、數多の環節より成り眼、觸角、鰓を缺き、口は、前端にあり、不定形の唇ありて、物を舐る狀奇なり、腹面に細小なる、刺を列生するも、至りて短く、僅にその尖頭を、體外に出すのみ、刺頭後方に向ひ、體の後退を妨げ、前進を助く、常に、腐敗物及び土壤を、喰ひ營として、細粉となり、排泄し、かつ地中を穿入して、空氣を流通せしめ、植物の成長に効あるも、その萌芽を食し、害をなす、雨天夜間等地上に露れ、燐光を發つ、この蟲は、雌雄同體なるも、春時、交尾をなす。

みみづく(鴟鵂) Scops 〔動〕夜間の猛禽類なり、全形フクロに近似し、體軀小なると、趾に羽毛なく、全身暗褐色上に、白斑を點し、耳邊に一寸許の長羽ありて、恰も耳の如くなるを、異にするのみ、一にチホコノハヅクともいふ、その一種コノハヅク(鵂鶹)は稍小形なり。

みやうが(茗荷、蘘荷) Zingiber Mioga Rosc.

〔植〕蘘荷科の草木にして、生薑に近似するも、この地下莖は、生薑の如く、肥大せず、花は穗狀に排列し、數個の鱗狀葉これを被包す、葉、花を食用に供し、一種の香氣あり。

みやうばん（明礬）Alum 〔鑛〕等軸晶系に屬し、八面體の結晶をなす、白色或は、無色透明、玻璃光澤、條痕白色、比重一・八、硬度二乃至三、その成分は、甚だ多種の鑛物より成り、硫酸カリウム、硫酸、水素、酸素等より成る、水に溶解し、その味甘く、澁味あり、かつ收斂の性を有す、その種類、甚だ多く、加里明礬、アムモニヤ明礬等、普通なるものなり、天然に產するもの、極めて、少なく、火山地方の岩石上に、土狀、纖維狀の白被、卽ち昇華となりて、生ずるのみ、播磨國揖原よりは、明礬石（Alumite）となりて產す、その用途、染料、製紙用、顏料、藥用、收斂劑及び、砂糖液、惡水を澄淸するに用ひ、その使用大なるも、大部分は、人工を以て、明礬を作る、明礬を燒き、白き孔多き塊となし、研金用、藥用に用ゆ、これを燒明礬といふ、アムモニヤ明礬は、廉價なるを以て明礬に代用す。

みやくしるゐ（脈翅類）Neuroptera 〔動〕昆蟲類の一目なり、口器は、嚙咬に適し、變態は、完全、或は不完全なり、前後の翅は、同性質にして、細に網狀脈を示し、時に、細鱗を被むるものあり、後翅は、唯稀に、疊收す、觸角は、絲狀或は、棍棒狀なり、複眼の外に往々單眼あり、腹は、細長なるを常とす、その幼蟲は、六脚を具へ、陸上或は、水中に棲息して、終に、蛹に變す、その將に、成蟲に羽化せんとするとき、已に移動力あり、蜻蛉、蜉蝣、蛟蜻蛉、クサカゲラウ、トビケラ等これに屬す。

みやくはく（脈搏）Pulse 〔生〕心臟の伸縮により、動脈管に血液を、射出し、血流に緩急を生じ

急なるときは、その壓力は、血管壁を、擴張するによる、病氣の節、醫師の脈搏を驗するは、假令、微疾たりとも雖、これを患ふるときは、心臟に、變異を來し、故に脈搏の強、弱、緩、急によりて、病の有無を診察す。

みやくらくまく（脈絡膜）Choroid 〔生〕眼球を見よ。

みやくらくまく（脈絡膜）Piamater 〔生〕腦膜を見よ。

みやこどり（都鳥）Haematopus 〔動〕涉禽類に屬し、ツバチトリともいふ、體長一尺五寸內外、嘴の長さ、頭に二倍し、かつ大に壓扁す、脚短く、趾は長く、蹼を張り、後趾を缺ぐ、背部及び、頭、黑色、腹部白色、嘴及び脚は赤色を呈し、常に水邊に棲息し、小魚小蟲を捕食す。

みやまからす（深山烏）Corvus pastinator 〔動〕烏の一種にして、その體灰色、頭翼尾のみ黑色、深山に產す。

みやましきみ（茵芋）Skimmia Japonica, Thunb 〔植〕芸香科の、有毒木本なり、幹高二三尺に過ぎず、葉は、莖と共に赤色を帶び、花は白色、枝梢に生ず、果實は赤色南天實の如くして大なり、常に、深山に生じ、葉、莖、根共に激澁あり、中毒の狀シキミの如し。

みやませうぜ（翡翠）Halcyon 〔動〕攀木類に屬し、魚狗に似て、大なり、その體は暗赤色にして光澤あり、嘴、長かつ強、趾根部廣く、その尾短なり、常に深山谿水の間に棲息す。

みらい（味蕾）〔生〕舌表の、輪廓乳頭の周圍なる溝の內面にある、玉葱狀の、小突起にして、味覺神經の末端細胞集りて成り、味を感ずる所なり。

みるがひ（水松貝）Sutraria Nultali Conrad 〔動〕双殼類に屬し、海產にして、前後の兩肉柱は同大たる、二枚貝なり。

む

むえんたん（無烟炭）Anthracite 鑛石炭中、炭化してより、最も長年月を經たる、殆んど、純粹の炭質を有する、最良の石炭なり、質堅く硬度二乃至二・五、塊狀をなして、頗る、比重一・四乃至一・七鐵黑色または黝黑色を帶び亞半屬光、或は玻璃光を放つ、炭素の九〇乃至九六を含み、揮發性または、その他の混合物、稀少なり、燃燒するときは、滿青き、炎を揚げ、烟を發せず、瀝青臭を放つことなく苛性加里液中に煮るも、染色せず、煖爐用に適當す、強熱を發するを以て、工業上必要の燃料にして、軍艦に用ひ、大速力を出し、敵の監視を避くるに、適す、北米、英國、佛國等に多量を產し、我國にては、紀伊の牟婁郡、筑豐の炭田、肥後天草等に、類似品を產す

むかご（零餘子） 植ヤマノイモ、ツクネイモ等の、腋芽にして、內質なり、恰もジヤガタライモに似、蛋白質、粘質に富み、これを食用とす。

むかで（蜈蚣）Scolopendra 動多足類に屬する、節肢動物にして、頭及び、下面は、黃褐色にして、軀幹の背面は、暗綠色、長さ 數寸、扁平にして、頭後二十個の環節を連れ、節每に一脚を具ふ、觸角十八乃至二十節より成り口器能く、發達し、嚙咬に適す、殊に、脚の顎脚に變じたるものは、甚だ、強壯にして、鉤狀をなし、その尖頭に、毒線を開く、その嚙む所となれば、劇烈の疼痛を感ず、常に床下等の、隱所に棲む。

むぎ（麥） 植禾本科の草木にして、寒地に耕作するを、四角麥、暖地のものは、六角麥中間のものを三角麥といふ、大麥、小麥、裸麥等その他數種あり。

むきぶつ（無機物）Inorganic matters 鑛器官を有せざる、物質を、意味するものにして、鑛物質をいふ。

むぎわらとんぼ 江雞 Sibellula 動脈翅類に屬し、體長一寸五分位、最普通の蜻蛉なり、雌雄體色を異にし、雌は、麥稈色に黑斑を呈し雄は、灰白色シホカラトンボ卽ちこれなり、體細長、頭、胸、腹間の境節は、緊縮す、頭部大、腹部長し、觸角はその末端、硬毛に終り、前後の兩翅、同形、同大なり、休息の時は水平により、その幼蟲は、ダイコムシと稱し、その蛹共に、貪食する、害虫なり、蛹と幼蟲は、翅鞘を有するにより別つ、不完全變態をなす、好んで、水邊に棲み、小昆蟲を、追捕して、食す。

むくて（木槿）Hibiscus syriacus 植錦葵科の灌木なり、高さ、一間半內外、花は、淡紫、淡紅、白色の種類あり、秋開く、支那、印度、小亞細亞等にも產し、本邦にては、山陰道に名產あり、人家の、籬落とす、その纖維は、美なる白色にして、袋を製す。

むくどり（椋鳥、白頭翁）Sturnus cineraceus 動燕雀類に屬し、體は黑灰色にして、眼邊に白色あり、嘴は、廣濶扁平にして、端直、翼緣の第二羽長く、尾下を蔽ひ、尾短く、翅また尾端に達す、脚長く、兩脚を交互に步行す、常に、群棲し、樹洞中に造巢し、好んで、椋實等の果實、または、害蟲を食する、保護鳥なり。

むくり（鶻鵃） 動カイツブリを見よ。

むぐら（鼴鼠）Talpa 動食蟲類に屬する小獸なり體に六七寸、鼻喙尖り、口は、その下面に開き、齒は、尖銳、切齒は下顎に六枚を有し、耳殼は、甚小にして、認知し難し、眼は、小にして、被膜を被り、前肢は短、手狀をなし大かつ堅強にして、穿堀に適し、後肢は別肢

に比し、短かつ小、その性日光を畏れ、地上に出づるときは、忽ち死す、常に、前肢と、鼻を以て、地を穿ちて、土を反轉し、作物の根を斷つも、昆蟲、蠕蟲等の害蟲を、驅除するを以て、益あり、本邦諸所に產し、毛皮柔軟、ビロウドの如く、手袋等を製し、刀劍等の破損し易きものを包む。

むげんくわじよ（無限花序）Indefinite inflorescence 〔植〕花序の一分別にして、花が、花軸の下部より、咲き初め、漸次上方に及ぶものか、または、花が、短縮せる、花軸に排列し、內、外位置し、爲に、花は、外部より、內部に向ひて、咲き及ぼすものをいふ、左の種類に分つ、

無限花序
- 長花軸
  - 無梗…穗狀花　クリ、
  - 有梗…總狀花　ナンテン
- 短花軸
  - 無梗…頭狀花　キク、
  - 有梗…繖狀花　セリ、

むげんゐくわんちく（無限維管束）Zingiber Mioga Rosc 〔植〕雙子葉莖の維管は、靭皮部、木質部の間に、新成層を有し、材質は、絕へず、增大すること、無限なり故に、これを無限維管束といふ。

むこうでうちう（無鈎條蟲）Taenia mediocanellata, Küchm 〔動〕條蟲類なる、蠕蟲なり、頭は四個の吸盤を具へ、世界中、牛肉を食する地方には、必ず多少を見る、人腸に生じ、人糞と共に、その成熟片節を外出せしめ、その腐敗するに至り、在中の卵子は、四方に散亂し、その草葉に、附着するもの、牛これを食するときは、卵は、その胃中に入りて、胚を放ち、胚は三對の、小鉤を有し、これを以て、胃壁を通過して、結組織若くは、筋肉中に入りて豆大の囊狀體に成長し、各その壁に、一個の條蟲類を生ず、これ幼蟲にして、囊蟲といふ人若し、この牛肉と共に、囊蟲の生じたる、

有生の條蟲頭を食すれば、忽ち、腸中に懸着して、續々片節を生じ、數十日を經て、長さ丈餘の、成蟲となり、人體より養料を取り、以て、人類の病患を發せしむ。

むさゝび（鼯鼠）Pteromys 〔動〕齧齒類に屬し、體は七八寸、背部暗褐色、腹部白色耳殼長く、白斑あり、尾もまた細長なり、前後兩肢間に膜を張り、夜間、樹間を、飛び、果實等を食す、秩父地方の如き、深山に棲息す。

むしとりすみれ（蟲捕菫）Pinguicula vulgaris L. 〔植〕狸藻科の小草木なり、葉は、楕圓形、裏面に、無數の腺毛あり、葉緣少しく卷旋す、花は、紫色なり、深山の濕地岩石に生じ、小蟲の葉に觸るれば、葉を卷き、これを包み、腺毛より、消化液を分泌し、これを消化して、養料となす。

むじな 〔動〕貛或は、狸の別名なり。

むしなも Aedrovanda vesiculosa 〔植〕茅膏菜科の水生草木なり、水棲小動物の、葉に觸るれば、葉身は、中央縫の、鍱鉸部より、中折して、これを挾み、數個の剛毛より、消化液を分泌して、消化す、その狀、恰もタヌキモに類す

むしば（齲齒）Carious-teeth 〔生〕齒を見よ。

むしひきあぶ Asilus 〔動〕双翅類に屬する虻族にして、體軀細長、性猛烈、他蟲を捕へその血液を吸取す、その種類多く、皆地中にありて蛹に化す。

むしよけぎく（驅蟲菊、除蟲菊）〔植〕シロハナムシヨケギク、ベニバナムシヨケギクあり皆、蚤取粉、蚊遣粉、その他の驅蟲劑を製す。

むせいせいしよく（無性生殖）〔動〕體制單一なる下等動物にのみ、行はるゝ、生殖法にして、これを二法に區別す、

（一）分體法、一個體は、竪縊により、二分して二個となる法

（二）發芽法、體壁に、芽を生じ、この物終に

新個體を發生するなり。

要するに、單性にして、兩生殖物相合、或は雌性生殖物によらずして、新個體を發生するものをいふ。

むせいせいだい（無性世代） 植一植物が、一生涯に於て、有性生殖・、無生殖、をなす、時代あるもの丶、無性生殖を以て、蕃殖する、世代をいふ。

むぜつるゐ（無舌類）Aglossa 動無尾類の一亞目なり、舌を有せず 南米產のピパの類、これに屬す。

むそくるゐ（無足類）Apoda 動兩棲類の一目なり、體は、蛇狀、四肢なく、體面は輪狀に皺壁し、皮中細鱗を含有す、眼は至りて小にして、不明なり、故にメクラヘビの稱あり、幼時は外鰓を具ふと雖、成長するに隨ひ、これを脫落し、肺を以て、呼吸し、習性蚯蚓に似常に地中を潛行す、皆熱帶の產なり。Siphonops 及び Coecilia 等これに屬す。

むどくるゐ（無毒類） 動蛇類にして、瞳子圓形、堅牢なる細齒を具へ、體は小、世界中到る處に產し、叢間陰濕の地に棲息す、昆蟲、蛙等を食とし これを、狹口類、濶口類に分つ。

むねくろちどり（胸黑千鳥）Charadrius 動涉禽類に屬し、嘴短く、尖端彎曲す、脚三趾にして、後趾なり、河岸に生息し、高聲を發して鳴く。

むびるゐ（無尾類）Anoura 動兩棲類の一目なりこれ、蛙類の全體を、總括するものにして、その已に變態を經歷したるものは、肺を以て呼吸し、尾なくして、四脚能く發達し、脊梁は、僅數の前凹脊推より成りて、肋骨を闕く後脚趾間に、蹼を張りて、遊泳に便す、眼は一種の、瞬膜を被り、概ね頭上兩側に、白色毒性の液を、分泌する 耳線あり、雄は、交尾期に際し、拇指に、瘤狀物を生じ、かつ卟囊を、膨脹して、聲を發す、水中或は、陸上に棲息し、產卵は必ず、水中に於てす、三亞目に分つ（一）無舌類、ヒパ、（二）尖指頭、山蛤、金線蛙、蟾蜍、（三）盤指類、雨蛤、金襖子等これなり。

むふくきるゐ（無腹鰭類）Apodes 動喉鰾類の一亞目にして、皆長形、電氣を發する、特性を有するものあり、鰻鱺、海鰻鱺、ハモ、ツツボ、エレキウナギ等これに屬す。

むふろん Ovis musimon 動不反芻偶蹄類に屬する、羊の一種にして、全貌山羊に似て、角大體毛赤褐色、四肢細長なり、サルジニヤ、南西班牙等の山中に產す。

むへいえふ（無柄葉）Sessile 植葉身が、直接に莖に、着坐して、葉柄を缺ぐものをいふ。

むめ 梅 Prunus Mume S. et Z. 植薔薇科の落葉喬木なり、その風姿幽緻、葉は、卵形、葉尖銳なり、花は、白色、紅色、或は、單瓣、重瓣あり、早春に咲き、蜂、虻媒花なり、香氣高し、果實は、核果、酸味あり、梅花は、雌蕋一なるものあり、二或は、三四五なることありと雖、一果實を生ずるのみこれ元來、多雌蕋なりしも、漸々淘汰の結果一大果實を生ずる、一雌蕋となりたるものならん、唯八房梅（品字梅）のみは、淘汰に漏れ、古式を存し雌蕋二乃至八ある、一花より、數個の果實を生ずるも、性を保つものならん、これを庭園に栽培し、松竹共に、瑞木とし、觀賞植物として、和漢共に、これを愛す、支那の外、朝鮮にも分布し、果實は、食用とし、これを鹽藏とし、梅干といふ、未熟果の種子には、激毒あり、材は、紅色、堅にして、緻密、細工、盆、箱、櫛、算球等とす。種類多し。單瓣、重瓣、白梅、紅梅の別あり、また一種盤

後梅は、果實頗る大、信濃梅は、果實甚だ小、漬けて、茶菓に代用す、白梅は、若芽の赤、青なるものあり、青きを、青軸といひ、子實大、核小なるを以て、貴す、青軸梅は、その花純白、蕚は、白梅く赤色ならず、早梅は、一に八朔梅といひ、冬至の頃旣に花あり

むめいこつ(無名骨)Innominate bone 〔生〕薦骨を中央に挾み、以て、骨盤をなす、二骨板をいふ、これを、腸骨、坐骨及び恥骨に分ち、各一方側は大腿骨の上端と連絡す。

むめのきごけ 〔植〕地衣類なり、扁平にして、白色に、青色を帶び、葉、莖の區別なく、老樹、古木等の表面に生ず、濕へば、柔く、乾けば、堅し、表面に胞子を作る。

むらさきしきぶ 〔植〕一にナンメイラといふは、日光地方の方言なり、馬鞭草科の落葉小木本なり、花は、淡紅色、夏開く、蟲媒花なり、秋紫色の、核果を結ぶ、山野に生ず。

むらさきすゐしやう(紫水晶)Amethyst 〔鑛〕紫色紫青色、または多少灰色を帶び、多く、晶簇をなして、産す、陸前の小原、伯耆の藤屋等有名の産地なり、下野の足尾銅山、岩代半田銀山、佐渡の相川等にも産し多く、裝飾用とす。

むろ(杜松)Juniperus rigida, S. et Z. 〔植〕枝は殆んど、三角形をなす針狀なり、葉は輪生、三葉を有す、材黃色、堪水性あり、桶材とす、蚊遣劑にも用ひ、果實より、製油す。

むろあぢ(室鰺)Caranx muroadsi 〔動〕硬鰭類に屬する、鰺族にして、體形、殆んど、鰺と異なるなきも、體肥大し、長さ三尺に達するものあり、この族中最大なり、播磨國室の海に、最多く産するを以てこの名あり。

め

め(芽)Bud 〔植〕芽は、植物體の、增殖のために、その表面に現る、莖枝の變成物なり、これを左に區別す。

- 芽
  - 定芽
    - 頂芽
    - 腋芽 } 普通なるもの、
    - 副芽 例 槭、スモヽ
  - 不定芽…胚芽 例、山毛欅

芽を保護するに、鱗狀葉、毛茸を以てすることあり、卷鬚、針等は、變形したる、一種の芽なり。

め(眼)Eye 〔動〕動物の、顏面部或は、頭部に有する、視器官にして、各動物と、外界の情狀により、構造、大小、位置 形狀、視力を異にし、全く退化して、これを具へざるあり、假令へば、飛翔鳥類は、遠距離より、食餌を發見するに便にし、水中に棲ふ、魚類は、眼球の凸度大なり、光線の屈折せしむるためにより(水の密度は、空氣に比大なり)また夜中、また暗處を、擇ぶものは、眼大、瞳孔圓大なり、或は、光線の度によりて、變形する猫の如きあり、ムグラの如く、眼球に薄膜を被むるあり、節肢動物の如く、單眼の外に、複眼を有し、最下等動物に至りては、全くこれを闕如するものあり。

めいしやうしつ(明晶質)Crystallized 〔鑛〕結晶大にして、晶質たるを、明瞭なるものをいふ。

めいきん(鳴禽) 〔動〕燕雀類中の、雄鳥は、能く鳴囀するを以て、これを、鳴禽と云ふ。

めいろ(迷路)Labyrinth 〔生〕內耳の別名あり。

めくさ(薄荷) 〔植〕ハクカを見よ。

めくはしや(海豆芽、指甲螺、女冠者)Lingula 〔動〕腕足類に屬し、その殼は、薄弱なる角質にして、扁平、長楕圓にして、美綠色を帶び、

長翅を有し、これを沙質中に、挿入して、棲息す、本邦の或地方にては、夥しく、これを産し、これを捕獲して、肥料となす。

めくらうなぎ Myxine Bdellostoma 【動】盲鰻類に屬し、體は、一尺許、鰻状なり、脊鰭を有せず、口は圓形、漏斗状をなし、口唇に、數唇を具へ生じ、鼻腔は、口腔と共通し、眼甚だ不完全にして、皮下に隱る、各側の鰓孔は、或は共同の一孔を開き、或は、各自外開す、海産にして、その口を以て、魚體に吸取し、或は、時に、その體腔中に穿入し、内部寄生を營む。

めくらぐも Phalangium 【動】長脚類に屬する、蜘蛛類にして、體は、暗黒色、小塊状をなし、腹部は、環節より成り、脚は極めて、長く、一寸に及ぶ、その過半は、細絲状をなし、觸角の用をなす、かつ脱離し易し。

めくらへび 【動】無足類を見よ。

めじろ（繡眼兒）Zosterops 【動】燕雀類に屬し、體長二寸許、背部綠黃色、腹部灰白色にして、白環ありて、眼を圍む、嘴は、圓錐状をなして尖り、多く、山中に産し、果實の熟したるを好む、その鳴聲愛すべく、これを飼養す。

めす 牝）Female 【動】またはメンともいひ、雌性の、鳥獸を呼ぶ語なり。

めだけ Arundinaria Japonica S. et Z. 【植】稈は小なり、かつ、その質軟なり、節間長く、煙草の管、筆の軸、團扇の柄、その他細工用に適す。

めなう（瑪瑙）Agate 【鑛】玉髓の、石英を混じて、塊状をなすものをいふ、その縞模様あるを、縞瑪瑙といふ、越中に産し、簪、煙草入等または、指環、ボタンの飾玉とし、または乳鉢盃等を作る。

めひしば（馬唐）Panicum sanguinale L. 【植】禾本科植物にして、チヒシバに比して、小、隨所に生ず。

めまつ（赤松）【植】アカマツを見よ。

めやに 【生】起床の時、眼病を患ふる時に、眼瞼縁に、附着する、脂肪色の、半流、半固體をいふ、これ、眼瞼縁に開口する、眼瞼線の分泌物なり。

めりの 【動】西班牙産の綿羊にして、最良の毛を産す。

めん（面）【鑛】結晶を圍む所の、平面をいふ。

めんま（綿馬、羊齒、雁齒）Aspidium Filix mas 【植】ミヤマヰノデ、チシダともいふ、羊齒類なり、その他下莖より、綿馬といふ、驅蟲劑を製す。

も

もうさいくわん（毛細管）Capillary 【生】血管が、最後に分岐したる、最後の、纖管にして、身體、各組織寸分の所にも、これを分布し、各組織に、榮料を供給し、炭酸を交換するに適る、滑皮質管なり。

もうしよう（毛茸）Hair 【植】上皮細胞の延長する硬、軟の毛状物をいふ、これを單毛複毛に分つ。

もうそくるゐ 毛足類）Chaetopoda 【動】環蟲類の一目なり、體輪なしと雖、環節分界は、外面に現はるゝを常とす、皮は、一定の位置にて、刺或は、剛毛を生じ、口は、前端に、肛門は尾端に在り、體中環節間毎に、隔膜ありて、體腔を數房に分つ、血管系あり、然れども、體腔と交通せず、生殖物は、體腔を覆ふ所の、皮膜に生じ、一旦體腔に落ち、多少變形したる、環節器により、輸出す、小形の、種類には、分體して、蕃殖するものあり、卵より發生するものあり、概ね、變態を成す、

蚰蜒、沙蠶、棘尾類に分つ。

もうはつ（毛髮）Hair 【生】頭、皮膚を被ふ、毛髮は、角質絲狀にして、皮膚の小窩底に於ける眞皮の隆起せる、小球根より、發生す、細毯狀をなせる、毛根の底面にある、皮膚の小乳嘴即ち、無數の毛細管を、組會し、これより營料を資給せらる、その粉泌せる、角質を、毛質に同化するものなり、老年に至りて、白髮を生ずるは、毛根に色素を、造成する、作用を缺ぐによる、また病患、遺傳により、壯年已に白髮となり、または恐怖、或は神經系統の刺衝により、僅微の間に、白髮に急變するものあり。身體保護の用をなす。

もうねんちう 毛蠶蟲）【動】ニキビムシを見よ。

もくねふせき 木葉石）【鑛】石灰華を見よ。

もぐさ（艾）【植】よもぎを見よ。

もくしつぶ（木質部）Xylem 【植】形成層（新生層）さ、木髓の中間にあり、水分の上昇する通路なり、導管、木質細胞、柔軟細胞より成り、木質細胞は、强硬にして、植物體を堅くす。

もくずがに（毛蟹）Grapsus Japonicus De Hann 【動】ツガニを見よ。

もくせい（木犀）Osmanthus fragrans Sour. 【植】木犀科の常綠喬木なり、花は、橙色、白色、前者を金木犀、後者を銀木犀さいひ、芳香苛烈、數丁外に香ふ、秋開き、蟲媒花なり、支那の原產、庭園に、栽培す。

もぐら、もぐらもち 【動】ムグラを見よ。

もくれん（木蘭）Magnolia obovata Thumb. 【植】木蘭科の木本なり、枝は、上に向ひ生成す、故に、樹形、高く、巾細し、花は、深紫色、白色あり、大形筒狀なり、家園に、植へ、觀賞す。

もしきくわ（模式花）Pattern flower 【植】一花にして、整齊花、具備花の資格をするものをいふ

もじごけ Graphis Sp 【植】地衣類に屬し、樹皮に

生ず、その附着せる狀、古代蝌斗文の如し、故にこの名あり、その面に、所々、不規則の黑條あるは、この雌器なり。

もず（伯勞）Sanius bucephalus pall 【動】燕雀類に屬し、體は七八寸、頭背、黄褐色、眼邊に、黑斑あり上嘴鉤狀に尖り、その側緣に、齒狀缺刻あり、長尾を有す、その營生の性狀、猛禽類と異ならず、小鳥、蟲類を捕烏し、不消化物を口より、吐出す、候鳥なり。

もちきび（黍）Panicum moliaceum L. 【植】禾本科の、草本なり、この種子より、餠を製す。

もつしよくしばち（沒食子蜂）Cynips 【動】膜翅類に屬する、蜂類なり、腹端に、短莖を有し、三稜形をなす、雌、產卵尾を以て、その卵を植物の葉莖等に、產下するを以て、この部を刺傷し、その際毒液を、注入し、膨起して、果實樣の、沒食子を結成す、卵は、成蟲となり、發達して、これを嚙み、破りて出づ。

もねら Monera 【動】原生動物の、根足蟲類に屬し鹹、淡水共に產し、構造單一なる、顯微鏡的の微塊に過ぎず、體中顆粒並に、空胞と稱する、數小滴を含有する外、器官なし、核を缺く、その體質も、所を定めずして、虛足を伸縮するのみ、故にその形は、絕へず、變形す

ものあらがひ（綠桑嬴）Limnaea 【動】腹步類に屬し、推質大にして暗色なり、介殼の下部擴張し、その尖端頓に尖る、肺を有す、常に溝渠、池中に棲み、時に出で、空氣を呼吸す、チストマの中間宿主なり。

もみ（樅）Abies firma, S. et Z. 【植】松柏類に屬し、十數丈、周二丈餘に、達するものあり、松杉科の常綠喬木なり、葉尖二分す、果實は大なる裸子、長圓柱狀なり、風媒花、材質、粗輕、建築、造船等に供し、また種々の器具を作る、暖地の、高き所に產す。

もみぢ（槭樹）Acer palmatum hunb 【植】槭樹科

の常綠喬木なり、山中に生す、葉は、五片より成る、花は、淡紅色、節脊、蟲媒花なり、果實は、翅果、風力により、種子を散布す、その紅葉は、秋日の、壯觀を呈するを以て、庭園に植へ、材また有用なり一にカヘテといふ。

もみぢかひ Astropecten 動尾海盤車類に、屬する、海產棘皮動物なり、形は、棘形狀、ヒトデに似て、海岸に近き、淺海底に、多く見る所なり。

もゝ(腿)Thigh 生髀臼と、膝との間に當る部分をいふ。

もゝ 桃)Prunus persica, S et Z. var vulgaris, Maxim 植薔薇科の、落葉喬木なり、花は、淡紅色、愛すべし、春開く、蜂、虻媒花なり支那の原產、現時歐米に植へ、庭前に栽培す果實は、食用とすべし、その種類多し。

もゝんが(鼯鼠)Pteromys momonga 動囓齒類に屬し、全形、ムサヽビに相似て、矮小なり背部暗褐色、頰圓く、尾短く、趾間に皮膜あり、樹間を飛ぶ。

もろこし(蜀黍)Andropogon sorghum. Brot. var vulgaris, Hack. subvar Japonicus Hack. 植禾本科の草木なり、葉は長形、果實は、頴果種子を、粉末として、食用とす。

もるゐ(藻類)Algae 植淡、鹹二水に產し、形狀、細長、扁平、粒狀等あり多く、葉綠素を有し、その色澤は、葉綠青に、他の色素を併有して、その綠色を、隱蔽し、紅色或は紫色、褐色、橄欖色あり、その組織は、柔軟にして、維管束なく、諸部の細胞膜の、厚薄及び細胞の大小によりて、種々の部分を生じ、緻にして堅なる部分、粗にして軟なる組織あり生殖に、分裂法、或は、無性的に胞子を生じ有性的に胞子を生ず、分って、三種とす

(一)紅藻類、は、藻紅素といふ、一種の色素

を有し、海底の最、深所に生す。

(二)褐藻類、藻褐素を有し、海底稍淺所に生す。

(三)綠藻類、葉綠素を含有し、淡水及び、海洋の淺所に生す、

もんからふく Balistes 動硬頭鰓類に屬し、體は楕圓形、三脊棘を具へ、上顎の圓錐齒二重に排列す、二白條を以て、口を圍み、背部は、白色、黑斑を散し、他は、黑色、白黄色の圓斑あり、海產なり。

や

やうししよくぶつ(羊齒植物)Filicinae 植隱花植物の一分部門なり、地下莖より、叢出し、莖、葉、根の區別は明なり、內部一帶に、柔軟組織より成り、數多の維管束を散有す、葉は、楕圓、長楕圓或は、數に分裂し、複掌狀若くは、複羽狀をなし、また表裏の區別明にして、その裏面若くは、葉脈に、芽胞房を生す、ワラビ、ゼンマイ、ウラジロ、トクサ、シノブ普通なり。

やぎ(山羊 Capra 動偶蹄類に屬し、綿羊に似、牡牝共に、洞角あり、側方に、壓扁せられ、かつ横皺(具ふ、多く、下顎に、鬚を生じ、脚短し、諸邦に、家畜せられ、乳、肉、毛等の資を受く、變種多し。

やし(椰子)Cocos nucifera, L 植棕櫚科の、禾本なり、幹は、七八丈、葉は、頂上に簇生す果實は、大形にして、滋養に富み、食用とし果殼は、食器とし、果皮より、布を製す、熱帶地方に於て、有用の樹木なり、材また、建築用等とす。

やすで(陸馬)Iulus 動多足類に屬し、體は、一寸位、黑褐、圓筒狀をなし、卷曲すれば、錢

形をなす、各環片より、二對の細脚を出し、濕地に棲し、腐敗植物質を食す、觸ろ、臭氣あり。

やつめうなぎ(八目鰻)Petromyzon 〔動〕進鰓類に屬し、長三尺程、池河水等に、産し、口軟骨環なるを以て、石或は、他魚に吸着す、鰻狀にして、七鰓孔眼の、後に列し、恰も、眼の並列するが如し、また海中に棲息し、産卵期に、鮭等に附着して、河流を溯りて、産卵す夜盲患者に、食せしむ。

やどかり(寄生蝦)Pagurus 〔動〕十脚類に屬し、螯を有し、腹部柔軟、常に、螺類の空殼に入りて、その身を保護し、その長ずるに及びて、巨殼を擇びて、移住す。

やどりぎ(槲寄生)Viscum album L. 〔植〕槲寄生科の、常綠灌木、ホヤともいふエノキ、ケヤキ、ナラ、クリ等に寄生し、果實は、鳥これを食し、種子を散布す、歐洲、北亞細亞にも分布す。

やなぎ(柳)Salix Sp 〔植〕楊柳科の木本なり、葉は長く、材は、器具を製す、常に、濕地に繁生す。世界中産せざるなり、百七十種あり。

やへつばき(八重椿) 山茶科の常綠喬木なり、花は、重瓣、野生のツバキの、變種なり、花蕊變じて、花瓣となり、多く結實せず、庭園に栽培して、觀賞す。

やまあらし(豪猪)Hystrix 〔動〕齧齒類にして、後頭、背部に、圓形の強硬なる、長棘を被り、白褐の斑輪あり、菜根、果實を食し、性惰なる、夜獸にして、穴居す。棘は、筆管とし、その肉は食用とす、南歐、亞非利加の山中に生す。

やまがら(山雀)Parus 〔動〕矮小なる、燕雀類なり脊淡赤、腹淡赤、嘴胸翼尾黑し、嘴鋭尖、活潑にして、昆蟲、種子を啄き、深山樹洞中に造巢し、立秋群飛し來る、これ馴養して、技

藝を習はしむ。

やまごばふ(商陸)Phytolacca acinosa, Roxb. var. esculenta Maxim 〔植〕商陸科の草本なり葉は大形、花は、白、紫色、果實、花等に、激毒あり。

やまざくら(山櫻) Prunus pseudo-Cerasus, sindle, var spont anea, Maxin 〔植〕薔薇科の木本なり、花は、淡紅、單瓣なり、山野谿谷に自生し、春遠見すれば、雲の棚引く如し、吉野、嵐山、小金井等または、向島にあるものこの類なり、東亞地方に分布す。

やまどり(山雉) Phasianus solnine-ringii, Tenim. 〔動〕鶉鷄類に屬し、雉に酷似し、長尾を有す、雌は美ならざるも、雄は、全身赤黃色、美色の斑を散在し、眼下に、小黑斑ありその習性も、キジに類す。

やまねずみ(山鼠)Myoxus 〔動〕齧齒類に屬し、全形、鼠に似、前肢の拇趾、萎縮し後肢に、五趾あり、その尾流蘇狀、尾毛左右に排列す、深山の古木の朽竅中に棲み、果實を食む、夜獸なり、冬眠をなす。

やまのいも(薯蕷)Dioscorea Japonica Thunb 〔植〕薯蕷科の草本なり、莖は蔓性、根肥大し、澱粉、粘質に富む、これを汁として、食用とす。

やまばち(蜂蜂)Vespa 〔動〕膜翅類に屬し、體は肥大し、密毛を生じ、全形蜜蜂に似たるも、蜂類中、最大なるものなり、雌殊に大、スヽメハチともいふ、雌雄及び無性の三種ありて、皆翅を有し、大群す、山林に多く見る所なり。

やまぶき(山吹)Kerria Japonica DC. 〔植〕薔薇科の多年生植物なり、花は黃色、重瓣、單瓣あり、槪れ、結實せず、觀賞植物として、庭園に栽培す。

やまゝひのてふ(野蠶蛾)Attacus 〔動〕鱗翅類に屬し、頗る巨大なるものにして、雄の觸角兩側

に、櫛齒を有し、雌は硬毛狀をなす、その翼廣大にして、深黄色、圓斑を有し、その幼蟲もまた大、カシ、クヌギ、ナラ等の莖を食し黄色良質の繭を作る、以て、絹絲とすべく、これを養ふ。

やもり(守宮)Platydactylus 【動】爬蟲類に屬し、身體灰白色、腹部暗灰色、全身石龍子に似、かつ同大なり、その口の尖からざるを異にす眼大にして、眼瞼なく、各肢の五趾に、吸盤樣の突起あり、故に滑汰なる、壁面と雖、巧に疾走す、夜間出でゝ小蟲を捕食す、多く熱帶の産なり、一種の聲を發す。

やんま 蜻蜓 Aeshna 【動】脈翅類に類し、體は、二寸二三分、兩眼相接す、雌雄共に、蒼綠色を帶び、雌は、その翅色油色をなす、その習性、形狀トンボに類す。

ゆ

ゆうきたく(雄器托)Antheridial receptacle 【植】雄の、葉狀體に、生ずる、盤狀體にして、柄を有し、内に雄器を具ふ。

ゆうくわ 雄花 Staminate flower 【植】雄蕊のみを具ふる花をいふ。

ゆうもん(幽門) 【生】胃の下端、小腸に接する、孔口をいふ。

ゆき(雪)Snow 【理】攝氏零度以下の、溫度に、遭遇したる、大氣中の水蒸氣が、氷結して、雪花即ち、六出または、六花と稱する六方形に結晶し、降下するものにして、純白色なり。

ゆず 【植】芸香科の、木本なり、花は、白色蟲媒花なり、果實は、漿果、熟すれば、橙黄色となる、酸汁を有し、食用とす、または、菓子に製し、香氣あり、莖に、棘あり、庭園または、籬に植ゆ。

ゆーすたきしくわん(ユースタキ氏管)Eustachian tube 【生】耳を見よ。

ゆづりは(交讓木)Daphniphyllum macropodum 【植】大戟科の、木本なり、葉は、シャクナゲに類し、實、白色なり、新年の門の飾りに、用ふるものこれなり。

ゆのはな(湯の花) 【鑛】硫黄の花ともいふ、溫泉の、浴槽等に、沈澱せる、硫黄の粉末にして綿樣にして、白色をなす、疥癬等を治するに効あり。

ゆねうくわん(輸尿管)Ureter 【生】腎の、腎門より起り、膀胱に通り、尿を、輸送する、管なり。

ゆわう(硫黄)Sulphur 【鑛】斜方晶系に屬し、斜方尖體、また塊狀、土狀をなして産す、硫黄黄色、橙黄色にして、脂肪光澤、透明または、亞透明なるあり、質脆く、軟、硬度一・五乃至二・五、比重二・〇七なり、斷口貝殼狀、性分は、硫黄、粘土または、瀝青物を混ず、攝氏百十四度に熱すれば、熔液となり、四百五十度に、沸騰す空氣中にて、熱するときは、二百七十度にて、紫青焔を擧げ、臭氣を發し、鼻喉を犯し、咳嗽を促す、銀を黒色に變ぜしめ、岩石を腐質せしむ、火口の底、溪間より採取し、また硫黄泉の附近に湯の花となりて沈澱す、火口附近の、岩石を、被ふ、細結晶をなすを、硫黄華といふ、本邦の如き、火山系地方に於ては、産額多く、陸中西岩井郡劍山を最とし、千島諸島、釧路跡佐登、羽後燒山、陸前駒ヶ岳、鬼首、越中立山、肥前溫泉岳等、有名なり、外國にては、伊多利、著名産地なり、その用途も頗る廣く、火藥燐寸、皮膚病藥、消毒、驅蟲漂白等の藥劑に用ひ、硫酸製造の原料とす。

よ

よ(夜)Night 〔天〕地球の、太陽に面せざる、部分をいふ。

よう(蛹)pupa 〔動〕變態を見よ。

ようがん(熔岩)Lava 〔地〕火山噴出に際し、流出する、熔液したる、岩石をいひ、これが、地上一面に流れ、固りて、臺地をなすを、熔岩流といひ、丘をなすを、熔岩丘といふ。

よくしゆるゐ(翼手類)Chiroptera 〔動〕哺乳類の一目にして、空中に飛行する、蝙蝠類これなり前翅は、後肢に比して、頗る大、その拇指は短く、鉤爪を有すと雖、他の四趾は甚だ、延長し、無鉤なり、後肢五趾は、同形、鉤爪を有し、以て、絶壁、樹枝等に、懸着す、諸指間並に、前後兩肢及び、尾は、一種の飛膜を以て、相連綴す、その運動法の鳥類に等しきと雖も、骨骼もまた、これに肖似する點あり即ちその質輕鬆にして、鎖骨能く、發達し、而して、胸骨は、正中に隆起線を具へ、齒は三種共に、存在し、眼小、視力鈍しと雖、その潤大なる、耳殼及び、口吻飛膜等は、觸感頗る、鋭敏なり、この類は、殆んど、全世界に分布し、殊に暖國に多く、晝間暗所に隱伏し、黄昏より、飛出す、性群居を好み、稍寒國にありては、冬眠をなす、その常食、昆蟲または果實なるも、鳥獸を害するものあり、アブラムシ、ヤマカハホリ、キクガシラ、寒號蟲等これなり。

よくほるゐ(掘歩類)Scaphopoda 〔動〕軟體動物の一目なり、管狀の單殼を有し頭部なしと雖、口中上部に、一個の顎板及び下部に、小鋭齒を列生せる、一種の舌を有す故に、双殼類、腹歩類の中間に位す、外套膜中、一種の觸絲數條を收め、自在にこれを伸出するを、得、

この物眼を具有することなし、その足は、伸出したるときは、至りて、長く、海底の沙泥を掘りて、匍匐するに適す、角貝と稱するものこれなり。

よし(蘆)Phragmites Communis. Trin var, longivalvis Miq. 〔植〕禾本科の、草本なり、常に、水澤中に生じ、莖は、簾を製す。

よたか(怪鴟)Caprimulgus 〔動〕カスヒドリともいふ、夜間燕雀類なり、體長七寸許、嘴は、短扁、口裂濶大、翼大にして、長く、夜間出て昆蟲を喰食す。

よめざらかひ(蝛)Patella 〔動〕腹歩類に屬し、その殼皿形にして、螺旋部なく、楕圓形の口あり、馬蹄狀の筋ありて、これを以て、多く、海濱岩石に付着す。

よめな(鶏兒腸)Asteromaea indica Bl. 〔植〕菊科の多年生草木なり、葉は、楕圓形、缺刻あり花は、紫色、頭上花序に排列す、蟲媒花、支那の原產なり、嫩葉を食用とし、原野到る所に產し、一にノギクといふ。

よもぎ(艾)Artemisia, vulgaria, L. var indica Maxim. 〔植〕菊科の草本なり、葉は、三または五に裂け、花は淡黄色、蟲媒花なり、原野に自生し、嫩葉を餅に混じて、食す。

ら

ら(騾)Equus mulus 〔動〕牝馬と、牡驢の間生をいふ、全形馬に類す。

らいてう(松鷄)Tetrastes 〔動〕小形の鶉鷄類に、屬し、嘴短、小羽鼻孔を覆ひ、尾廣濶なり、夏季は、褐赭色にして、冬時は白色の、保護色となる、本邦の高山北海道等に產す。

らいびやうきん(癩病菌) 〔植〕短桿狀の細菌にしてこれが、分泌する、毒素により、癩病を起し

血液を腐敗せしめ、全身に充滿するに至り、人類死するものなり、その詳細は未知なり、該病は、遺傳病なりと、思惟されしも、先年萬國會議の結果、傳染病に決せり、一八八〇年、ハンセン氏の發見に係る。

らけい(裸莖)Sterile stem 〔植〕眞正の葉なく、隨ひて、同化作用を營む、莖をいふ。

らくえふ(落葉) 〔植〕葉に、特別の防寒組織を有するもの、または、熱帶地方の植物の外、秋季、葉の脫落するは、その部に、離層と稱する、特別の層を生ずるによるものにして、畢竟、氣候寒冽、にして生活に適せず、一種の冬眠をなすため、葉中の營養分を、幹部、または貯藏部へ輸送するによる。

らくだ(駱駝)Camelus 〔動〕反芻偶蹄類に、屬し體長一丈二尺內外、高さ五尺七寸位、頸曲り尾短く、耳小、足に二趾ありて、蹠をなし。角なく、背に、亞細亞產は、二個、亞弗利加產は、一個の肉瘤あり、常に、大食暴飲して肉瘤に貯蓄し、水分は、瘤胃に、貯へ、數日間、斷食に堪ふ故に土人は、沙漠旅行に使用す、性溫和、能く、重荷を負ひ、使役に堪ふかつその肉、乳共に、滋養の効あり。

らくわ(裸花)Achlamydeous flower 〔植〕花冠、萼を缺く、花をいふ。

らしきん(裸子菌) 〔植〕全く、子囊を缺く、菌をいふ。

らししよくぶつ(裸子植物)Gymnospermae 〔植〕顯花植物の一分門にして、子房を有せず、只胚珠は、開展せる、雌蕊若くは、花托の上に生じ、花粉は、直に胚珠上に、落ち、花粉管を生じて、受胎するものにして、普通、單性花、葉は、小形簡單なるもの、多し、莖は、概ね、外方に長し、松、杉、蘇鐵等これに屬す。

らつこ(海獺)Enhydris 〔動〕食肉類に屬する、海獸にして、軀幹肥大にして、濃灰色を呈し、頭は、灰白色、臼齒上四下五、門齒六六あり尾は、殆んど、圓形、耳殼短く、足短し、故に陸行困難にして、常に海面を、游泳し、海面に眠る、性敏にして、怯、異聲を發し、頗る、四方を警戒す、能く、水中を潛行し、小魚、貝類を食す、北太平洋の沿岸に多し、その毛皮は、天鵞絨の如く、價頗る、貴く、肉もまた食べく、藥劑とす。

らつぱむし(喇叭蟲)Stentor 〔動〕纖毛蟲類に、屬する、原生動物にして、その形は喇叭狀をなし、太凡ザウリムシとフリガネムシの中間に立つものにして、或時は、その柄狀部を以て水草等に附着して、群生し、或時は、自在に運動す。

らま(羊駝)Auchenia 〔動〕反芻偶蹄類に屬し、鹿大にして、全身長毛を被り、頸聳立し、尾短く、耳殼狹大なり、南米に產し、これを飼養して駱駝と一般にこれを使役す。

らふせき(蠟石)Steatite 〔鑛〕滑石と同質にして、白、黃、灰色、剝ぎ難く、緻密なるものにして、油感あり、質柔軟なり、その一層軟なるを、臘石といふ、硬度一・五、比重二・七、備前に多產し、建築、印材、石筆文房具、置物等に用ゐる。

らみい(苧麻)Boehmeria nivea, Bl 〔植〕蕁麻科の木本なり、高さ、二三尺、雌雄同株なり、支那の原產にして、近來盛んにこれを栽培す、その靭皮纖維より、薩摩上布、越後縮、明石縮を織る。

らん(蘭) 〔植〕蘭科の草本なり、葉は、細長全邊にして、地下莖を有す、花は、極めて、不整齊の形成をなし、兩性花なり、多く、深山岩石の間に生じ、和漢これを賞し、盆栽として愛玩す、その變種には、高價なるものあり。

らんきゆう(卵球)Ospore 〔植〕胚囊の、反足細胞

の反對の隅に位する、三個の無膜細胞中の一個をいふ。

らんせい(卵生)Oviparous 【動】卵が、母體を去りて、後に、發生を始むるものをいふ。

らんせいどうぶつちうのたいせいどうぶつ(卵生動物中の胎生動物)【動】ホシサメ、シユモクザメ、ウミタナゴ、鴨嘴獸、アリマキ、腹蛇、サソリ、田螺等なり。

らんさう(卵巣)Ovary 【動】雌性動物の體內にて、卵を生ずる、所をいふ。

らんたいせい(卵胎生)Ovoviviparous 【動】その狀性、卵生にして、卵が、母體內に永く止まるため、母體內中にて、發生を始め、體內を去るときは、殆んど、胎生と同一の體を備ふるものをいふ。

らんも(藍藻)【植】藻類の一分類にして、葉綠素を有し、單細胞なるものあり、また細胞がズゲの如く、相連絡したるものあり、また盛んに、運動力を有するものあり、分裂生殖にて生殖す。

り

りうがん(龍眼)Nephelium Longana, Camb 【植】無患樹科の常綠木本なり、葉は、羽狀複葉、果實は、球形にして、肉皮は、龍眼肉と稱し甘味を有し、食用とす、熱帶の產なり。

りうきうつゝじ(白杜鵑花)Phododendron Iedifolium Don var Ieucanthum 【植】石南科の木本なり、花は、花粉に、富み、萼より、粘液を分泌し、無翅類の浸入を防ぐ、蜂、蝶媒花なり。

りうくわくわう(硫化鑛)【鑛】概れ、酸素を含まず、化合物にして、金屬と、硫黃、砒アンチモン、蒼鉛、セレニウム、テルリウム等と化

合したるものなり、多く金屬光を放ち、不透明にして、多くの鑛石は、これに屬す。

りうこつとつき(龍骨突起)Keel 【動】飛揚する、鳥類、蝙蝠類等に有する、胸骨の正中にある縱隆起にして、翼筋これに付着し、以て、飛翔に便にす。

りうじやう(流狀)Save flow 【鑛】熔岩が地上に、河流狀をなして、凝固したるものをいふ。

りうじやうが(瘤狀芽)Nodull 【植】所謂胚芽と稱するものにして、樹木皮下に、潜伏せる、芽が、次第に發達して、木質部をなし、石塊大の球形をなすものをいふ。

りうなう(龍腦)Borneo Camphor 【植】龍腦香科の木本なり、樹より、龍腦を製し、藥用とす。

りうゐ(瘤胃)Rumen 【動】反芻類の、第一胃囊にして、四胃中最大なるものなり、食物は、先づこの部に入り、甚久しく、潤濕して、第二胃囊に移る。

りくふう(陸風)Sand breeze 【鑛】夜間は、陸地は海より、冷かなるを以て、風は、陸より、海に向ひて、吹く、この軟風を陸風といふ。

りす(栗鼠)Sciurus 【動】嚙齒類に屬し、その種類百餘種あり、體毛、赤褐若くは、黑色にして腹部白く、前肢に四趾あり、拇趾萎縮し、耳長く、尾は、流蘇狀にして、側面の尾毛殊に長く、尾長全身に齊し、北米に多產し、常に樹上に棲息し、登攀巧にして、輕躁なり、前肢を以て、果實、種子を食す、性怯なり。

りねうす Lineus 【動】紐蟲類に屬し、海中に產し長さ三十尺餘に達し、着色せり、稀に双殼貝に、寄生す。

りへんがく(離片萼)Dialysepalous Calyx 【植】萼片が、各全く、分離せるものをいふ。

りべんくわしよくぶつ(離瓣花植物)【植】花瓣の相分離せる、花を開く植物をいひ、これを二十一綱七十八科に分つ。

りやうけい（兩形）Dimorphism 〔植〕一種の植物にして、二様の花を生ずるものをいふ。

りやうずゐいちやうくわ（兩蕊異長花）Heterostylism 〔植〕一花中の、雄蕊、雌蕊より、長くまたは、雌蕊、雄蕊より長きか、或は、甲乙の何れかに、中長の雄蕊を有ずるか、要するに、兩蕊の長さ、均一せざる、花をいふ。

りやうずゐいじくわ（兩蕊異時花）Dichogamous Flower 〔植〕一花中の兩蕊の、成熟期を異にする花をいふ、これを、雄蕊先熟花、雌蕊先熟花に分つ。

りやうせいくわ（兩性花） 〔植〕一花中に、兩蕊を具有する花をいふ。

りやうせいるゐ（兩棲類）Amphibia 〔動〕脊推動物の一綱にして、その水中、陸上共に棲息するを以て、この名あり、體形延長、或は、短縮にして、四肢は土上に匍匐するに適する脚あり、概ね、四脚共に存在するも、唯前脚のみを具へ、或は全く無脚なり、尾は或は長大にして、側扁或はこれを闕く、皮膚は滑澤にして、往々疣状に凸降す、而して、鱗を生ずるものは、唯稀なり、この類は、皮膚に一種の小形粘液腺に富み、また往々白色毒性の液を分泌するものあり、色素細胞は、下皮にありて、種々の體色を原由し、上皮外層は、時々脱更するものなり、骨骼は、硬骨性なりと雖軟骨部また少なからず、而して、脊推中脊索を少量に、遺留す、脊推は、下等兩棲類にありては、魚類と一般に、兩凹なるも、稍高等なるものは、後凹或は前凹なり、數は尾の有無によりて、大に異にす、肋骨及び、胸骨は概ね、發達不完全なり、頭骨は、扁濶にして二個の髁狀突起を以て、脊梁と關節す、肩帶及び、腰帶は、四脚の諸骨と　に、殆んど、完備し、前脚は四指、後脚は、五趾を具ふるを通常とす、神經系は、魚類に比して、稍高等に發生し、眼は眼瞼あり、聽官は、鼓膜、鼓室を具へ、イフスタキ氏管により、咽頭と通ず、鼻腔は、肺魚に於ける如く、口腔に開通す、凡て、空氣を呼吸する、脊推動物には、この交通ありて、鼻腔を擧ると、同時に、呼吸道となる、口は大なる、横裂にして、圓錐狀の細少なる齒は、特り、顎緣に列生するのみならず、また口蓋にも生ず、舌はカヘル類に最も、能く發達し、これを伸出して、昆蟲を捕ふるに、用ゆ、消食管諸部の區劃判然せずと雖、胃は、多少膨大し、腸は、屈曲をなす肛門直內の一部は、排泄腔にして生輸管及び輸尿管は、共にこゝに開口す。この類は、恰も魚類の如く、終生鰓を以て、水を呼吸し、また幼時のみ、鰓を有し、老成するに隨ひてこれを失ひ、更に肺を以て、空氣を呼吸す、故に脊推動物の水中に棲息するものと、陸上に棲息するものゝ、中間に居る、鰓は、總狀或は、羽狀にして、頸側に突出しまたは、一種の鰓房中にあり肺は、一對ありて、嚢狀なり、氣管は、極めて、短く、簡單なる、喉頭により、咽頭を通ず、心臟は、鰓を以て、呼吸するものにありては、恰も魚類と、一般に一心耳一心室より成り、血液循環の有樣も、また該類と相似たり、然りと雖、肺を以て、呼吸するものにありては、心耳は左右二房に區分す、こゝに於て、大小の兩循環の區劃未だ、完全ならず、卽ち、肺臟にて、氣化を受けたる、動脈血と、諸體部より、歸流する、靜脈血は、心室中に、多少混合して、渾身に分布す、腎臟及び、生殖器は、相接して位し各一對あり、睾丸は、豆狀、卵巢は葡萄狀なり、雌雄は、往々大小若くは、體色を異にし或は、その他外形上特徵あるを以て、識別するを得、卵は、蛋白樣の物質を以て、被包し或は粒々水草に、附着し、或は數多紐狀若く

は、圓塊狀をなして、水中に浮べり、卵は、黄卵に富めるを以て、不順正に分割し、終にヲタマジヤクシ(蝌斗)に發生す、この物必ず三對の外鰓を有し、かつ燒尾を具ふ、その成大するに、隨ひて、逐次四肢を生ず、或類(魚形類)は、この體狀にて、老成に至ると雖或類(蠑螈類)は早く、鰓を失ひて、更に肺臟を發達して老成す、蛙類は、變態尚ほ、一歩を進めて、尾亦全く、萎縮するに至る、この類は、昆蟲蠕蟲等を以て、食となし、冬期は概ね、土中に潜伏して、冬眠をなす、これを三目に分つ、(一)無足類メクラヘビ、(二)有尾類、鯢魚、蠑螈、(三)無尾類ヒキ、蛙等これに屬す。

りやうだうたい(良導體)Conductor 〔理〕電氣を、導き易き物體をいふ、金屬、動物體、酸類、炭、木綿等の如し。

りやうたいゆうずゐ(兩體雄蕊) Dialelphous stamens 〔植〕數多の、雄蕊が、花絲によりて、連りて、二束をなすものをいふ。

りやうひくわ(兩被花)Dichlamydeous flower 〔植〕萼及び、花冠を有する花をいふ。

りよう(稜) 〔鑛〕二面相交はる時は、その接線を稜といふ。

りようけいきん(菱形筋) 〔生〕肩胛骨と、脊柱との間にある、筋にして、肩胛骨を動かす、用をなす。

りよくがん(綠岩) 〔鑛〕斑岩にして、石基なく、粒のみ、集りたるを綠岩といひ、暗綠色なり

りよくぎよくせき(綠玉石)Beryl 〔鑛〕六方晶系に屬する、六方柱六方尖體と底面體の聚形にして、柱面に縱條線あり、稀に塊狀をなす、硅酸六六・八、礬土一九・一、酸化ベリヤム一四・一の成分、綠色を以て、普通とするも、青色黄色なるものあり、玻璃光或は、松脂光を放ち、透明なるものあり、その綠色鮮麗のもの

を、綠柱玉といひ、高價なる、寶石なり、性質脆く、硬度七・五乃至八、比重二・六五乃至二・七五、酸類に傷けられず、吹管焔にも、熔け難し、花崗岩中に現はれ、ウラル山、東西伯利亞、ブラジル、緬甸、本邦にては、甲斐、美濃、近江等に產す。

りよくしよくさうるゐ(綠色藻類)Chlorophyceae 〔植〕葉綠素を含有し、一細胞毎に核を有す、靑海苔、石蓴、海松等なり。

りよくでいせき 綠泥石)Chlorite 〔鑛〕等軸晶系に屬し、菱狀十二面體、四角廿四面體或は、これ等の聚形をなし、また粒狀、塊狀等をなす斜方晶系に近き、微細の晶系にして、鱗狀、片狀、土狀をなし、底面に沿ひて、劈開あり成分は、蛇紋石分、含水硅酸礬土と、苦土を混じたるものに、等し、黑綠または綠白色にして、眞珠光を放つ、硬度二乃至三比重二・六乃至二・九なり、綠泥片岩、滑石片岩等の性分をなし、往々火成岩中に含まる、黑雲母、輝石、角肉石等の分解による、吹管熱に溶解せず硫酸に溶解す。

りよくでいへんがん(綠泥片岩)Chlorite schist 〔鑛〕綠泥石と、石英、長石等の少量より成る、片岩にして、かつ、柘榴石、滑石、電氣石、磁鐵鑛等を含む、諸所に產し、秩父山の產は東京にて、石碑等に用ゆ。

りん(鱗) 〔動〕ウロコを見よ。

りんくわいがん(燐灰岩)Apatite 〔鑛〕六方晶系に屬し、六方柱、六方尖體等の、聚形、その他塊狀、纖維狀、乳房狀等をなす、成分は、燐酸四〇・九二、石灰五三・八〇、鹽素六・八二にして、時に鹽素の代ふるに、弗素を以てすることあり。無色或は、綠色、黄、靑、鼠色等を帶び、玻璃光または、半松肪光を放ち、透明なるものあり、硬度五、比重三乃至三・二五、性脆し、燒くときは、燐光を放ち、鹽燐灰

石、弗燐灰石の二種あり、片麻岩雲母片岩、大理石等中より、現出す、また岩石の成分をなし、顯微鏡的の小粒なり、外國にては、多産するも、本邦に於ては、甲斐近江日向羽前、羽後に産し、後來有望なり、燐酸肥料を製し、白色硝子の製造に用ゐる。

りんくわう（燐光）Phosphorescence 鑛或る、鑛物に熱を與へ、（螢石）摩擦し（石英）或は、劈開し、或は日光に曝し（金剛石）或は發電する（綠暉石）ときは、一種の光を發散す、これを燐光といふ、これを左に分つ

火性燐光	加熱のために	發する	燐光
日光燐光	日光のために	發する	〃〃
電性〃〃	電氣のために	發する	〃〃
摩擦〃〃	摩擦のために	發する	〃〃

りんくわくにうとう（輪郭乳頭）Circum-vallate papilla 生舌の基部にありて、人字形に開列し、形大にして、溝に圍まれたる、無數の突起をいふ。

りんご（林檎）Pirus Malus, L var tomentosa 植薔薇科の落木なり、葉は、卵形、花は、淡紅色なり、春開き、蜂媒花なり、その種類多し、果實は、梨果、橙實大なり、寒地に分布し、園圃に栽培し、果實は食用とし、味美なり。

りんじやうえふ（鱗狀葉）Scale leaf 植葉脚、托葉または、葉の全片が、變化して、褐色、黄色をなし、葉柄なく、直に莖に坐するものにして、保護作用をなす。

りんしるゐ（鱗翅類）Sepidoptera 動昆蟲類の一目なり、口器は、吸吮に適する、細長の管狀吻を成し、平常螺旋狀に回旋せり、四肢は、必ず密に、微細の鱗を被る、その變態完全なり、複眼は、大にして、往々その外に、二單眼を具ふるものあり、觸角の形狀一ならず、胸環節は、相固着して、一體をなし、脚は概

れ、微弱なり、翅は、通常美麗なる色を呈し、その鱗は、細粉の如く、極めて、離脱し易し、これを廓大鏡に照して、視るときは、その形圓扇に似たり、その幼蟲は、六胸足の外更に數對の腹足を具へ蛄蝸、蝎、鳥蝎、螟蛉、尺蠖等の稱あり、蛹は、繭中にあり。或は否らずして、唯硬皮を以て、覆ひ（縊女）または塵埃の被包を被り（ミノムシ）安全の處に、懸垂す、これ等は、嚙咬に適する口器を具へ、樹葉を貪食する害虫なり、蛾、蝶等これに屬し、蝶は靜息するに、左右の翅を合せて直立し、蛾はこれに反し、必ず、その翅を水平或は、屋斜狀とす。

りんせい（輪生）Verticillate 植莖の各節に、三個以上の、葉が、輪狀をなして、着坐するをいふ、アカネ、ヤヘムグラその一例なり。

りんぱ（淋巴）Symph 生淋巴液とも稱す、血液中の血漿が、毛細管の壁を滲透して、その外に出づるものにして、無色透明にして、身體の各部に充滿し、各種の組織に必用なる、滋養分を與へて、その老廢物を、去り漸次相集りて、淋巴管に入り、更に相集りて、遂に大靜脈に入り、心臟に入り、清潔なる血液となる。淋巴管參照。

りんぱくわん（淋巴管）Symphatic vessel 生血液は、血管の通るのみにて、各組織間を、一々流通するものにあらず、その各組織の養分を血管に取るは、淋巴の、二者間を媒介するによる、淋巴管は、この淋巴を集めて、靜脈に送る、不規則なる、特別の細管なり、各組織より起り、その進行中、淋巴線と稱する、淋巴管の所々に、膨大せる部分を通過し、漸々相合し、更に合して、二大淋巴管となり、靜脈に送る、下肢、腹の諸部及び左上肢、頭胸部の左側より集り來るを、胸管または、左淋巴管といひ、左側の鎖骨下靜脈及び、內頸靜

脈の合一點に、開口す、一は、右上肢及び頭胸部の右側より、集り來り、右の鎖骨下靜脈及び、內頸靜脈の合一點に開口する、稍細小なるを、右淋巴管といふ、淋巴管は、組織中にて、毛細管の吸取し能はざる　老癈物を收拾し、或は、營養分を吸收し、これを血管に送る、但し、赤血球は血管壁を滲透し能はざれば、該管に入ることなし、胃腸及び、腸壁あるものは、淋　を吸取すると共に、乳糜を吸收す、故に特に、乳糜管といふ。

りんぱせん（淋　線）Symphatic glands. 【生】淋管を見よ。

る

るりさう　【植】科の草本なり、葉は互生、花は、兩性花、種子に胚乳なく、その葉を、染料とす

るゐくわん（淚管）Sachrymal canal 【生】上下眼瞼に開口する、淚孔といふ小孔より起り、上下二條の細管合して、眼窩內角に於ける、淚囊に通ずる、短管なり、淚管相合して、太き管となるを、淚囊といふ、その下際、鼻孔に通ず、內眥に停溜せる、殘餘の淚液は、淚孔に攝取して、淚管より、鼻內に輸り、平素は、淚液の分泌と、淚管の轉輸と相適ふも、悲傷の感動等により、劇く、精神の刺衝を眼に受けたるときは、忽ち、二者不平均を來し、淚液滿溢し、或は、鼻より、逆流することあり。

るゐとつ（淚骨）Sachrymal bone 【生】眼窩を成す七骨の一にして、內側にある、一對の小骨なり。

るゐせん（淚腺）Sachrymal glands. 【生】眼窩の上外部に位する、腺にして、血液中より、淚液を取り、これを眼球面に、分泌して、これを濕潤滑澤ならしむ。

るゐゑん（類緣）【動】現今地球上に、存在する、動物は、千狀萬態にして、その種類實に夥しと、雖、皆一源同祖にして、原生の動物は、恰も、今日の最下等動物の如く、體制極めて單純なりしも、永久の星霜を經、終に、今日の如き、錯雜の動物界に分化啓達したるものなり、故に、各動物相互の間の血緣の關係を類緣といふ、これによりて、動物界を分類するものなり。

れ

れいし（荔枝）Nephelium sitchi camb 【植】無患樹科の、常綠木本なり、形狀龍眼に類し、果實の肉皮を食用に供し、また甘味あるも、果實面に小突起あるを異にす。

れいびやう（靈猫）Viverra 【動】食肉類に類する、猫族なり、亞細亞靈猫と、亞弗利加靈猫の二種あり（各項參照）每足五趾を有し、鉤爪は、稍收縮すべく、口吻尖れり、この動物主要なる、徵候は、肛門と生殖器の間に位する、二個の腺囊にして、その內に特異の香氣ある、靈猫膠といふ、濃厚の液體を分泌す、これを得るには、或はこれを飼養し、每週二三回食匙を以て、囊中より、溢するものを、掬取し、或は野にありては、樹幹に塗抹したるものを、蒐集し、以て藥用とす、その效用海狸膠に用ゆ、その他尙ほ二個の肛門腺あり、內に脂肪樣の惡臭液を藏む、美麗、活潑なる、動物にして、馴れ易く、その性イタチの如し殊に夜間出で、小獸及び、鳥類を捕食す。

れき（礫）Gravel 【鑛】石屑の、流水、飛湍等の消磨作用を受け、漸次に、稜角を失ひたるものをいふ。

れきがん（礫岩、塊岩）Conglomerate 【鑛】礫層が

長年月水底にありて、非常の壓力を受け、かつ粘土、炭酸石灰、酸化鐵、硅酸等の物質の為に、固く結んで、岩石を成すものをいひ、一に子持岩といふ。

れきようせい(礫熔性) 鑛 鑛物が、熱に遇うて溶解する性をいふ、鑛物鑑定の一方法なり。

れつか(裂罅)Fissure 鑛 地殼に生ずる、割れ目をいふ。

れつしよくしよくぶつ(裂殖植物) 植 植物界中最も、簡單なる、組成をなし、極めて、細微なる、單細胞より成るものと、また數個の細胞の集合せるものとあり、生殖法は、分裂、芽生、或は胞子により、生殖するものにして、これを二種に大別す。

(一)葉綠素を含有するものを、裂殖藻或は、藍藻といひ、

(二)葉綠素を含有せざるものを、裂殖菌或は細菌といふ。

れつぜつるゐ(裂舌類)Fissilingua 動 蜥蜴類の一亞目なり、體狀一般に、短舌類に肖ると雖舌は、恰も、蛇類と同じく細長にして、深く叉裂し、口外に伸出すること、自在なり、蛇舅母これに屬す。

れつとうでうちう(裂頭條蟲) Bothriocephalus 動 蠕形動物に、屬する、一種の條蟲にして、本邦甚だ多く、歐洲にも生ず、頭は、長楕圓形にして、二條の縱線あり、片節は他種よりも、幅廣し、その幼蟲は、無色絲狀、淡水產の魚類に寄生す、我國にては、鱒魚の肉中にあり、この魚を生食する地方は、この條蟲に罹るもの多し、幼蟲は七八寸に過ぎざるも、嚥下後三週間にして、已に、成蟲に發達す。

れんぐわのせいはふ(煉瓦の製法) 鑛 ローム、アーム、プロステイツクと稱する、三種の粘

土に水を加へ、能く捏れ、型に入れ、長方形に造り、陶器製造と同じく、十分日光に乾燥し、後竈に入れて、強熱し、冷却すること、二晝夜乃至一週間にして、取り出す。

れんこん(蓮根) 植 蓮の根なりとするは、誤れり、根は、芽及び、葉を生ずることなし、これ、葉が、根基に變形したるものなり。

れんず(レンズ)Lens 生 眼球中の水晶體をいふ眼球を見よ。

ろ

ろうと(漏斗)Infundibulum 動 頭足類の腹面に於て、頭と、軀幹との間にある、漏斗形の縱肉管にして、足の變化したるものなり、呼吸のため、外套門より入りたる水は、漏斗を通じて、噴出し、體は為に、後方に向ひて、進行す。

ろく(肋)Rib 植 葉肋といひ、大なる、葉脈をいふ。

ろくかんきん(肋間筋)Intercostal muscle 生 內外の二層互に交叉して、肋骨の間を斜に連る筋肉をいふ、內外交互の收縮により、肋骨を上下す。

ろくこつ(肋骨)Rib 生 脊椎骨十二枚の兩側より左右各十二對の、弓形に彎曲する長骨にして胸の周匝を圍み、その前端は、胸骨に附着し後端は脊椎骨の小關節窩に、嵌入す、就中上七對は、軟骨によりて胸骨に連るこれを眞肋骨といふ、その下部三對は、同じく、軟骨を以て、第七肋骨の前際に接するを假肋骨といひ、下二對は、その末端游離す、これを浮肋骨といふ、以て、胸腔を成し、肺臟心臟等の重要器官の保護をなし、この斯、兩端他骨に連り、その運動甚だ少なきも、軟骨が、兩硬

骨を媒介するを以て、胸腔を伸縮せしめ、呼吸を完全にす。

ろくなんこつ(肋軟骨)Costal cartilage 〔解〕肋骨の前際、胸骨に連る部分の、肋骨をいふ。

ろくはうしやうけい(六方晶系)Hexagonal system 〔鑛〕四軸ありて、その三軸は等長にして、互に六十度をなして、交叉し、一軸は、他の三軸と直角をなして、長若くは短なり。

ろくまく(肋膜)Pleura 〔解〕胸骨の裏面を被ふ、漿膜にして、左右別々にありて、延長して、肺臟を被覆し、以て、肺の膨大をなさしむ。

ろちやうがん(顱頂眼)Parietal eye 〔動〕蜥蜴類に往々第三の小眼を、顱頂部正中に位するものあり、この眼を顱頂眼といふ。

ろちやうこつ(顱頂骨)Parietal bone 〔解〕頭の頂蓋をなす、平皿狀骨にして、前後二枚より成る、前頭骨、後頭骨これなり。

ろーむ(壚埴、壤土)Soam 〔鑛〕粘土の一種にして砂を等分に混じ、鐵分を含む、故に植物の養料をなす、眞土にして、その色赤褐東京附近の高臺に於て見る、その砂量の多きを、砂壤土、粘土多きを埴壤土といふ。

わ

わうかくまく(横隔膜)Diaphragm 〔解〕腹腔と、胸腔の中間壁をなせる、皿狀の筋肉板をいふ、その周端を、胴の内面に附着し、血管、食道はこれを通貫す、呼吸の時は、この筋收縮して、平板形をなし、爲に、胸廓を擴張し、腹部を突出し、肺を膨大ならしむ。

わうごん(黄金)Gold 〔鑛〕金屬中、最貴重なるものにして、古く知られ、その産額も少し、等軸晶系に屬し、八面體、菱狀十二面體をなし、時に絲狀、毛狀、または塊狀砂粒をなして産す、成分は、純黄金なるも時に、銀銅鐵、蒼鉛等を混ずることあり、色は、黄金色にして特有の光澤あり、時に、その含有物により、濃淡の異を生ず、硬度二・五乃至三、比重一二乃至二〇なり、黄金の、金屬中冠たるは、延性、伸性、斷性の三性に富むによるものにして、一グラムの金は、五十六寸平方に延び、二千米突の細線に伸長す、水、空氣中、變色または、銹を生ぜず、王水の外如何なる、藥液たりとも、また華氏二千度以内の熱に熔解せず、黄鐵鑛、黄銅鑛と似るも、その晶系、硬度、柔靱性を以て區別す。石英の脈中にある、銀鑛に包まれ、また流砂に混じて、河底に沈澱す、山金、砂金の別あり、オーストラリヤのビクトリヤ州、北米合衆國のカルフオルニヤ州、北米アラスカの・ロンダイク等名の産地にして、本邦もまた産出に富み、佐渡相川、但馬生野、薩摩鹿籠、羽後院内、大隅山ケ野、砂金は、近來發見に係る、北見枝幸、石狩新十津川、瀧瀞等、前途有望なり、黄金は、軟なれば、これを細工するには、通常、銀或は、銅と混ず、本邦金貨は、十分の一の銅時計その他は、十四金乃至二十金にして、二十四匁中、純金十四匁乃至二十匁を有するの謂なり、貨幣、時計、指環等の如き、裝飾品に用ひ、鍍金、金箸、象眼に用ひ、金箔は屏風、襖、佛具に貼り、金絲は、織物、縫箔等に用ひ、金粉は蒔繪、陶器等の、繪具とす

わうじつせい(横日性)Transverse heliotropism 〔植〕向化作用を營む、器官葉が、光線放射面を旋する爲め太陽の光線を、直角に受る、性をいふ。

わうちせい(横地性)Transverse Geotropism 〔植〕一に、背地性といひ、植物が、向地する場に於て、莖は、重力に反對して、直立する、性をいふ。

わうてつくわう(黃鐵鑛)Pyrite 〔鑛〕赤鐵鑛、磁鐵鑛、褐鐵鑛等の如く、採鐵には適せざるも廣く產し、美なる結晶をなす、卽ち、等軸晶系に屬し、立方體、五角十二面體、八面體または、偏方十二面體の聚形をなす、その表面には、縱橫の條線あり、或は、塊狀、乳房狀等をなす、色は、黃金色、金屬光鏡面の如く黃金と誤るも、その色の淡きと、硬にして、脆なるを以て、區別す、硬度六、乃至六・五、比重四・八三乃至五・二、條痕黑色、劈開不完全、斷口貝殼狀或は粗面狀なり、成分は、鐵、硫黃とす、吹管熱に、熔解す、岩石分解の結果、該鑛のみ、粘土中、埋存することあり岩石の分解を促すを以て、建築に適せず、採鐵に適せざるも近來の發明により、多少製鐵原料となれり、結晶美なるは、出雲の鵜峠加賀尾小屋、尾去澤、阿仁荒川鑛山等また、小笠原島に產す、その多產するは、備中本山なりとす。

わうどう(黃銅)Brass 〔工〕眞鍮と俗稱するものなり、銅一乃至二、亞鉛一の合金にして、黃金色を帶び、その質銅より、稍硬く、延展するを得、錆び難し、烟管、鈴、その他日用の器具より、器械等に至るまで、多くこれを使用し、用途廣し。

わうどうくわう(黃銅鑛)Chalcopyrite 〔鑛〕正方晶系に屬し、結晶不完全にして、多く塊狀の雙晶をなして產す、鑛脈中に存在す、硬度三・五乃至四、比重四・一乃至四・三、成分は、銅、鐵、硫黃なり、色は、黃金色、金屬光澤を放つも、速に銹び、展延の性なく、粉末綠色なるとにより、黃金と區別す吹管熱に、易く熔解し、磁性を現す、採銅に最良の、鑛石にして、本邦に多產す、實に百五十萬にして、世界中有名なり。かつその質も良好にして、下野足尾、伊豫別子を最とし、日向日平、陸

中、尾去澤等、その他各所に產す。

わうもんきんせんゐ(橫紋筋纖維)Striped muscle fibros 〔生〕身體の、意識運動を司る、筋肉をなす、纖維にして、微細なるかつ極めて、緻密なる、橫紋ありて、進行するを見る長さ一寸、太さ一分の四百分の一に達せず。

わかめ(裙帶菜)Ulopteryx pinnatifida (Haw) Kjellm 〔植〕藻類にして、葉は羽狀に缺刻し、莖根の區別判然ならず、柔軟、褐色なり、莖梗部の傍に、厚く皺を有する、耳狀物あり、これ胞子を作る部なり、海水中岩石上に着生し、食用とす。阿波、伊勢の產有名なり。

わさび(山葵菜)Alliaria Wassabi (Maxim) Prantl Entrema Wassabi Maxim 〔植〕十字科の草本なり、葉は、三角形狀、長柄あり、花は小白色莖は多く地下にありて、多肉、辛味を有す、これを辛料とす。

わし(鷲)Aquila 〔動〕猛禽類中の、最大にして、最猛なるものなり、體長三尺、翼を張れば、六尺に達す、嘴壯大、根部正直なるも、中央より鉤曲し、尖端銳なり、翼長く、尾端に達し、飛翔力强大、脚壯大にして、羽毛を被り銳利なる、鉤爪を有し、攫取に便す、視力また强し、その性最獰猛、鮮肉を好み、能く鳥類、獸類或は、小兒を捕食す、多く高山の大樹、岩礁間に、造巢す。

わた(草綿)Gossypium sp 〔植〕錦葵科の一年生草本なり、花は、淡黃色、近來舶來の一種は白色なり、蟲媒花なり、印度の原產、桓武天皇延曆十八年、天竺人漂着してその種子、傳來せり、種子は白色の毛を有す、これを採りて紡績し絲となし、布を織る、本邦衣類の原料として、缺くべからず、種子よりは、燈火用油を搾取す。

わにるゐ(鰐魚類)Crocodilia 〔動〕爬蟲類に屬し頗る大形(二丈餘、蜥蜴形)にして、背面に骨性

の、鱗甲を被り、尾は、側扁なり、四肢短く五指四趾を具へ、趾間に蹼を張る、齒は、圓錐狀、各自齒槽中に生ず、舌は、口外に伸出せず、心臟は、二心耳、二心室より成り、肛門縱裂す、熱帶の大河に棲息し、卵は、殼甚だ、堅、鵞卵大あり、これを河岸砂中に産下す、その性凶暴、貪食、鳥獸を、水中に浸沒し、溺死するを待ちて食す、陸上運動遲緩なるも、游泳は極めて巧なり、印度のガビアル、ニール河産のクロコヂル亞米利加産のアリガトル、支那産のカイマン等あり。

わらぢむし（鼠婦）Porcellio 動節甲類に屬する小甲殼類にして、體長二三分、青灰色をなし體軀稍扁平、楕圓形にして、脚は、同形同長、濕地の石下、床下等に棲み、植物質物を食す。

わらび（蕨）Pteridium aquilinum, kuhn 植羊齒類の多年生草木なり、大形にして、缺刻ある複葉緣に子嚢を作る世界に分布し、山野向陽の地に自生す、嫩芽を食用とし、長く地下を匍匐する根莖より、ワラビコといふ、澱粉を製す。

われから（Caprella）動節甲類に屬し、四寸內外、ワラヂムシに似て、細長なり、脚は、能く發達するも、第三第四の脚は痕跡あるのみ、常に海藻中を匍匐し、これを食す。

わんこつ（腕骨）Carpus 生手頸をなす、八個の細短骨にして、二層に密列して成る、上層は、前膊骨と關節して、腕根の自在旋轉をなし、下層は、掌骨と關節して、僅微の運動をなす。

ゐ

ゐ（胃）Stomach 生橫隔膜直下にあり、食道と連續する、囊狀の器官にして、消化器中重要部

なり、普通八九合の容量あり、楕圓形にして尖端は右に向ひ、小腸に連るこの口を幽門といひ、中央の食道を承くる、口を噴門といふ內面は厚き、粘膜より成り多くの皺を有す、皺の全面に無數の胃腺といふ、細孔開口し、胃液と名くる、一種の消化液を食物の來る每に、細孔より、滲出し食物の蛋白質を變じてペプトンといふ、液體となし、胃壁を透りて身體の實質中に吸取せしむるも、脂肪澱粉の如きは、唯胃中を通過するに止まり、これを消化せず、小腸に至りて、始めて、消化吸取せらる、大食は胃壁の伸縮によりて、食物を破碎する力を弱め、間食は、胃に休憩を與へざれば、害あり。

ゐえき（胃液）Gastric juice 生胃液は他の刺戟により、二種の胃腺より分泌する、無色透明の酸性液にして、酸味及び、固有の臭氣を具へ、腐敗及び醱酵を防ぐ、その成分は、極少量の、游離の鹽酸と、胃液素と稱する、一種の有機物質なり、胃液素は鹽酸の助を得て、蛋白質を變じて、ペプトン液に化する、能を有し、ペプトンは、容易に動物膜を滲透する性ありて、能く胃壁を透りて、身體の實質中に吸取せしむ。

ゐくわんそく（維管束）Vascular bundle 植植物體の骨格とも稱すべきものにして、基本組織內にあり、外部韌皮部、內部木質部、中間に形成層を有し、纖維、導管より成立す、植物體內の、水液の通路、植物體を維持する、支柱となるものなり、植物體の幼時は、その組織單純なるも、柔組織なるも、成長するに及びて、漸々變化して、その一部は、紡錘狀の細胞なり、遂に堅硬なる、維管束をなすものなり。

ゐでん（遺傳）Inheritance 動親若くは、祖先の形質が、子孫に傳遞するをいふものにして、

子の親に似るは、親體をなせる細胞の一半が子體を形成するによるものにして、子が、親に似ず、その祖先に似るは、潜伏して、久しく現はれざりし、遺傳形質がその時代に至りて、現出したるものなり。

ゐのしし(野猪)Sus 動偶蹄類に屬し、不反芻なり、豚と同形同大、灰黑色にして、全身に硬毛を生じ。背毛長し、體は肥大し、頸短く、鼻は、象鼻形をなし、地を堀るに適し、趾に四趾あり、側の二趾萎縮して、後方に位し、牡の下顎の犬齒強大、口外に挺出して上方に向ふ、本邦諸山に產し、夜間甫園を堀り芋を食ふ、貪食す、怒るときは、硬毛を逆立し、牙齒を揮ひ、勢猛烈なり、不潔、愚鈍、その肉甚だ美味なり。

ゐもり(蠑螈)Triton 動兩棲類に屬し、四寸內外蜥蜴形の動物にして、背面黑色、腹部朱赤色にして、黑斑あり、體軀細長、尾長く、かつ側扁す、肢は步行に適せず、春時の生殖期に至れば淡水中に棲み、尾游泳を助け、皮膚呼吸及び、時々水面に出で、肺を以て空氣を呼吸す、交尾期終れば、濕地に移り、その卵を水草に附着す、幼蟲は、黑色小魚狀、發育遠ならず、三年にして漸く交接するに至る。

ゐんせき(隕石)Meteoric stone 鑛流星の破片が地上に落下したるものにして、大山幾石の如く、黑粒狀をなし、鐵を含むこと少し、橄欖石、古銅石、ニツケル鐵の合金を含む。

ゐんてつ(隕鐵)Meteoric iron 鑛隕石中に、存するものなり、暗灰色を帶び、全量鐵なると、橄欖石、古銅石、ニツケル、コボルトを含むものあり、その大塊は、我が嘉永參年、陸前氣仙村に落下せるものは、重量二拾七貫餘、南米にありては三千二百斤あるものあり、古代これを武器に製作せり。

ゑ

ゑいせい(衞星)Satellites 天遊星の引力によりその周圍を、周行する星をいふ、月は、卽ち地球の衞星なり。

ゑいせいがく(衞生學)Hygien 生人世生活の情態を知りて、その生活を全くする方法を講究する學なり。

ゑんこうるゐ(圓口類) 動囊鰓類に同じ。

ゑんじゆ(槐)Sophora Japonsea, L. 植豆科の木本なり、高四丈、周七尺位の大樹にして、春、微白毛ある、嫩葉を生じ、花は黃色なり材の中心紫色にして、木理美なり、嫩葉は、飯と雜へ、乾して、茶に代用し花は、唐木の表紙等の染料とし、材また有用なり。

ゑんさう(圓窓)Fonestra rotunda 生耳を見よ。

ゑんちうるゐ(圓蟲類)Nemathelminthes 動蠕形動物の一綱なり、その體軀は、その斷面圓形にして、紡錘狀、索狀或は絲狀なり、體面は、硬質の硝子膜を以て、被はれ、泌尿器あり、體腔は、廣濶なるを常とす、大約寄生蟲にして、雌雄異體なり、蛔蟲、鉤蟲十二指腸蟲、旋毛蟲、ハリガネムシ、エンノリング等これに屬す。

ゑんのりんぐ Echinorhynchus 動圓蟲類に屬し長さ數寸、前端に伸縮自在なる、吻狀部ありて、その表面に、無多の鉤を生じ、その狀體條蟲に似るも、片節なく、雌雄異體にして、生殖門は、尾端に開く、普通、魚鳥、豚等の腸中に、多生し、その卵は、先づ、甲殼類、昆蟲類に、呑食せられ、幼蟲となりて、更に脊椎動物に、嚥下せられ、その腸內に懸着して、老成す。

を

をつとせい（膃肭臍）Phoca 哺乳類鰭脚類に屬し、全形海驢に似、體長六尺位なり、全身濃褐色の光澤ある、軟毛を被り、頭圓く眼大、短き、耳殻を具へ、前肢の諸趾厚皮を被包し、蹠を裸出す、四肢は游泳の具となすと共に、歩行し得べし、常に、千島群島の近海に棲み、海產動物及び、水草を食す、毛皮は、防寒用、裝飾用として、高價なり、肉もまた食用とし藥用に供す。

をながさる（果然）Cercopithecus 哺乳類猴類に屬し體長二尺許、頰嗛あり、尾は、細く、長さ、往々全身に齊くす、かつ長き、四肢を具ふ、體毛種々ありて、一樣ならざるも、多くは、褐色にして、四肢黑く、額に黑帶を現はし、胸、腕の內側及び、頭頂は、頰白色なり、亞剌比亞、亞弗利加、印度臺灣にも產し、性快活、巧に尾を用ゐて、木樹間を往來す。

をみなへし（女郎花）Patrinia Scabiosa folia sinir. 薗敗醬科の草本なり、葉は小形にして稍長し、花は、黃色、これを採みて、臭へば敗醬の如し、故に敗醬ともいふ、秋の七草の一にして、原野到る所に自生す。

博物新辭典了

博物新辭典字畫索引

一畫

（一）
一角 二五
一年根 一九
一穴類 一九
一年生植物 一九

二畫

（二）
二枚貝 三二六
二年根 三二六
二强雄蕊 三二四
二頭股筋 三二五
二頭膊筋 三二五
二頭脚腸筋 三二五
二年生植物 三二六
（七）
七島 一六〇
七面鳥 一六〇
七葉樹 三〇五
七星瓢蟲 三一五
（十）
十藥 三〇四
十脚類 一六〇
十勝石 三〇二
十二指腸 一六三
十字科植物 一六三
（八）
八重櫻 四五二
八目鰻 四五二
（人）
人參 三二七
人魚 三二六
人類 一九三
人工受精 一八九
人爲分類 一九四
人爲淘汰 一九四
（入）
入水管 三二三

三畫

（三）
三尖瓣 一五一
三稜筋 一五一

三頭膊筋　一五〇
三斜晶系　一五〇
三體雌蕊　一五一
（小）
小楷　一二七
小麥　一三〇
小豆　三
小雀　一二二
小頭　二〇八
小釣　二〇九
小核　二〇八
小腦　二一一
小腸　二〇一
小循環　二一〇
小髭閥　一二八
小鸊鷉　一一七
（山）
山茶　二七六
山吹　四五三
山羊　四五〇
山雀　四五二
山梔　八九
山鼠　四五三
山櫻　四五三
山椒　一五〇
山藊豆　三二七
山茶花　一四四
山慈姑　四七
山胡桃　三三
山荊栄　四七五
（上）
上肢　一六五
上唇　一六六
上顎　一六五
上頭　一六四
上肢骨　一六五
上顎骨　一六五
（下）
下唇　四六
下肢　四五
下肢骨　四六
下顎骨　四三
（大）
大豆　二三八
大麻　二
大麥　三四
大腦　二三九
大腸　二三八
大頭　二三五
大鰐　二三六
大麻蠅　一六四
大口魚　二五〇
大理石　二四〇
大動脈　二三九

大臀筋　二三三
大腿骨　二三三
大猩々　一三一
大猩々　二三七
大鋸筋　二三五
大胸筋　二三五
大葉藻　六
大循環　二三七
大靜脈　二三六
大腸と小腸の差　二三八
（叉）
叉棘　一四二
（口）
口　八九
口腔　一一八
口器　一一八
口脚類　一一八
口蓋骨　一一八
（女）
女郎花　四八〇
（土）
土壤　三〇五
土當歸　二三五
土馬騣　一一九
土瀝青　三一〇
土地凸凹　三〇六
土地變動　三〇六
土地昇降　三〇五
（子）
子房　一六二
子囊　一五四
子葉　一六一
子房柄　一六二
子囊菌　一六一
子安貝　二四四
（子）
子　四〇五

四畫

（丹）
丹頂鶴　二五三
（心）
心耳　一九一
心室　一九一
心音　一八一
心瓣　一九三
心臟　一九八
（化）
化石　一〇二
化膿菌　一〇四
化石鳥類　一〇二
（仁）
仁　一八一
（尺）

尺骨　一六八
尺蠖　一六九
(反)
反芻類　三六五
反足細胞　三六五
(爪)
爪　二七七
(孔)
孔雀　八八
孔雀石　八八
孔邊細胞　一二一
(互)
互生　一二五
(天)
天牛　五三
(犬)
犬　二〇
(火)
火魚　四九
火山　九九
火山彈　一〇〇
火山島　一〇〇
火山砂　一〇〇
火口原　九九
火山灰　九九
火口瀨　九九
火山脈　一〇〇
火山礫　一〇〇
火成岩　一〇一
火山岩層　九九
火山地盤　一〇〇
火山の噴出　一〇〇
火山の破裂　一〇〇
火山集塊石　一〇〇
火成岩地方の景　一〇二
(太)
太陽　二四〇
太古代　二三五
太陽系　二四〇
太頸條蟲　三三五
(文)
文蛤　三六二
文鰩魚　三〇七
(不)
不知火　一八五
不定芽　三九四
不定根　三九四
不定全花　三九二
不結晶質　三九二
不整齊花　三九三
不隨意筋　三九二
不冠全變態　三九二
不反芻偶蹄類　三九五
(比)

比重　三七一
比目魚　三八三
比目魚筋　三八三
(中)
中腦　二五八
中耳　二五七
中性花　二五八
中古代　二五七
中胚葉　二五八
中心木質　二五七
中細胞層　二五七
中間動物　二五六
中間宿主　二五六
(分)
分化　三九六
分離雌蕊　三九五
(介)
介形類　三五
(内)
内耳　三一〇
内長莖　三一〇
内骨骼　三一〇
内胚葉　三一一
内細胞層　三一〇
(五)
五鈫松　一二三
五感器　一二二
五位鷺　一三一
(六)
六方晶系　四七二
(双)
双殼類　一三九
(方)
方鉛鑛　三四三
方解石　三四三
(日)
日蝕　三二五
日雀　三六七
日陰葛　三六七
(月)
月　二七二
月蝕　一一二
月歷　二七二
月見草　二七三
月季花　四一
(水)
水　四二九
水藻　二〇二
水盤　三〇八
水菜　四三一
水螅　四三一
水蚤　四二八
水仙　二〇四
水晶　二〇二

水龜　一六
水孔　二〇二
水牛　二〇〇
水銀　二〇〇
水獺　五〇
水松貝　四三七
水様液　二〇五
水中根　二〇四
水媒花　二〇五
水成岩　二〇三
水晶體　二〇二
水管足　二〇一
水母類　九三
水禽類　二〇〇
水蝕作用　二〇三
水化作用　二〇一
水の運行　四三一
水中培養法　二〇五
水成岩地方の景　二〇四
水成岩と火成岩の區別　二〇四

（木）
木賊　三〇三
木槿　四三九
木精　四四八
木蘭　四四八
木勺鯆　一六三
木賊類　三〇三

（牛）
牛　二一四
牛尾魚　一二五

（午）
午蒡　一二九

（毛）
毛茸　四四七
毛足類　四四七
毛氈苔　三二四
毛髪　四四八
毛蟹　二七二
毛蛆　四四八
毛細管　四四七

（手）
手　二七九

五畫

（甘）
甘蔗　一四五
甘草　六
甘露　一四五
甘蕉　三五九

（外）
外耳　九五
外套線　九五

外套膜　九五
外套腔　九五
外輪山　九六
外聽道　九六
外骨骼　九五
外細胞層　九五

（瓦）
瓦韋　三三四

（布）
布魚　三九三
布袋竹　四一〇

（左）
左右同形　一三六

（片）
片岩　四〇〇
片麻岩　四〇三

（母）
母岩　四〇六

（出）
出芽法　一七三

（四）
四季　一五四
四強雄蕊　一五五
四頭股筋　一六一
四半面像　一六二

（矛）
矛軟組織　一五二

（半）
半邊蛸　一九
半面像　三六六
半翅類　三六五
半月瓣　三六五
半規管　三六五

（平）
平家蟹　三九六
平滑筋纖維　三九六

（玄）
玄武岩　一一七

（打）
打象　二四五

（加）
加々阿樹　二六九

（石）
石　一六
石綿　一七
石耳　二一一
石英　二一一
石蜊　五四
石芝　八八
石筍　二一四
石榴　二一九
石膏　二一二
石南　一六九
石竹　二二〇

石油　二二二
石彈　二二〇
石墨　二二一
石蟹　四〇一
石蓮　三五八
石蒜　三六七
石鹼　三六九
石鹽　四三三
石決明　五
石刀柏　三四
石灰岩　二一三
石灰洞　二一三
石灰石　二一三
石腦油　二二一
石花菜　二八八
石竜子　三〇二
石英斑岩　二二
石灰の製法　一六
石灰岩の山　一一三
石炭の生因　二二〇
石油の應用　二二二
石油の採取法　二二二

（古）
古生代　一二五
古丁蟲　二四九

（叩）
叩頭蟲　三二七
叩頭蟲　一三〇

（幼）
幼虫　三〇

（冬）
冬穿　二九一
冬眠　三〇二

（皮）
皮膚　三七八
皮膚　三七一
皮脂腺　三七〇
皮膚組織　三八一

（白）
白目　三五一
白魚　一八四
白心　三八二
白蟻　一八五
白樫　一八四
白熊　一八六
白鷺　一八五
白鼠　一八六
白金　三四八
白鳥　三五一
白銅　三五一
白蠟　三五一
白頰鳥　一五八
白癬菌　一八四
白頭翁　四三八

白雲石　三四八
白雲母　三四八
白血球　三四八
白木質　三五一
白頭鳥　三八三
白杜鵑花　四六〇

（包）
包被　三四六

（田）
田龜　二四四
田鷸　二四九
田螺　二四八
田汁里　二四四

（甲）
甲殼類　一二八
甲蟲類　五一
甲翅類　四一
甲狀軟骨　四一

（玉）
玉珧　二四九
玉髓　七八
玉蜀黍　二四三

（主）
主軸　一七三

（生）
生代　二二二
生道　七二
生蠶　一六四
生殖　二〇六
生理學　二〇八
生石灰　二〇六
生殖板　二〇六
生殖物　二〇六
生殖器　二〇六
生殖芽　二〇六
生存競爭　二〇七

（正）
正方晶系　二〇五

（永）
永久齒　三〇

（氷）
氷　二九
氷洲石　三八三

（他）
他花受精　二四四

（世）
世代交番　二二三

六畫

（竹）
竹　二四四
竹節蟲　三一五

（自）

自閉瓣	一六三
自然瓣	一五八
自然鐵	一五八
自然淘汰	一五八
自然分類	一五九
自左細胞	一五六
自花受精	一五六
（有）	
有柄葉	一五
有肺類	一四
有毒類	一四
有蹄類	一四
有袋類	一三
有環類	一二
有爪類	一二
有尾類	一五
有腹鰭類	一五
有鉤條蟲	一五
有生世代	一三
有限花序	一四
有機鑛物	一二
有性生殖	一五
有限維管束	一五
有空體植物	一二
（耳）	
耳	四三三
耳骨	一五六
耳殼	一五四
耳聾	四三五
（血）	
血	二五六
血漿	一一一
血清	一一三
血球	一一一
血管	一一一
血液	一〇九
血液循環	一一一
（地）	
地錢	二二六
地蠟	二七〇
地變	二六五
地皮	二六四
地層	二六三
地鐵	二六四
地震	二六二
地核	二五九
地殼	二五九
地衣	二五六
地球	二六〇
地膽	二七四
地上莖	二六二
地下莖	二五九
地溼背	三一〇
地下水	二六〇

地辷地震	二六一
地熱現象	二六四
地質系統	二六一
地殼の構造	二五九
地震に伴ふ現象	二六一
（守）	
守宮	四五四
（安）	
安山岩	一一
安質母尼	一一
（交）	
交喙	一七
交讓木	四五五
交感神經	三九
（光）	
光參	八四
光澤	九七
光線石	九七
光線屈折	九七
（米）	
米	一三〇
（尖）	
尖指類	二二九
（羊）	
羊駝	四五九
羊栖菜	三六九
羊齒植物	四五〇
（年）	
年輪	三三三
年齒	四四七
（多）	
多形	二四四
多年根	二四八
多足類	二四六
多家花	二四四
多出分枝	二四六
（色）	
色	二二
色素細胞	一五四
（向）	
向地性	四二
向水性	四二
向日性	四一
向日葵	三八一
（舌）	
舌	一五八
舌虫	一五九
舌骨	二二四
舌形類	二二六
（吸）	
吸盤	七五
吸蟲類	七五
吸水運	六七

吸取作用 七五
(吃)
吃吶 三〇八
(同)
同形 二九三
同代作用 ─ 二九二
同代作用と呼吸作用の相違 二九二
(肉)
肉桂 三二四
肉冠 三二四
肉桂澱 三二四
(共)
共生 七七
共棲 七七
共同肉 七七
共同骨骼 七七
(老)
老海鼠 四一八
(衣)
衣魚 一六四
(成)
成虫 二〇七
成長 二〇七
成長點 二〇七
成長線 二〇八
成層岩 二〇七
成長運動 二〇七
(全)
全蹼類 二三一
全身循環 二二九
(合)
合蕚 五一
合歡木 三三二
(冲)
冲積土 二五八
冲積地の景 二五八
(汗)
汗 三
汗線 六四
(江)
江鷄 四三九
(牝)
牝 四四六
(托)
托葉 二四四
(犰)
犰狳 一〇
(休)
休眠胞 六七
(肋)
肋 四七一
肋骨 四七一
肋膜 四七二

肋軟骨 四七二
肋間筋
(印)
印魚 一二七
印度靈猫 一三
(曲)
曲鼻猴類 七九
(虫)
虫蜓 一〇九
(那)
那智黑石 三一四
(死)
死物寄生 一六三
(羽)
羽毛 二八
羽軸 二四
(艾)
艾 四五七
(朱)
朱鷺 三〇二

七畫

(伯)
伯勞 四四九
(夜)
夜 四五六
(床)
床蝨 三〇四
(没)
没食子蜂 四四九
(沈)
沈水莖 二七〇
沈澱岩 二七一
沈澱鑛物 二七一
沈積作用 二七〇
沈澱作用 二七一
(沙)
沙蠶 三一五
沙蚤 一二二
沙蠶類 三一六
(杞)
杞柳 一三一
(杉)
杉 一九五
(杜)
杜松 三三一
杜松
杜鵑 四一〇
杜鵑類 四一一
杜鵑花 一四五
(牡)
牡蠣 四三
牡丹 四〇九
(肘)

肘　三六九
肘關節　三六九
(肝)
肝臟　六三
肝臟　六二
肝蛭　六五
(肛)
肛門　四三
(尿)
尿　三二八
尿道　三二九
尿膜　三二九
(尾)
尾骶骨　三七三
尾閭骨　三八四
(盲)
盲點　四二〇
盲腸　四二〇
(完)
完全花　一〇六
完全葉　一〇六
完全面像　一〇七
完全變態　一〇六
(延)
延性　三二
延髓　三二
(收)
收縮胞　一五三
(里)
里櫻　一四五
(辛)
辛螺　三二四
(赤)
赤松　四四七
赤玉　一一二
赤血球　二一四
赤鐵鑛　三二〇
(走)
走禽類　三三二
(足)
足　三
(吹)
吹管分拆　二〇一
(吼)
吼猴　四〇六
(豆)
豆瓣　二九四
(芒)
芒　一九六
(芎)
芎藭　一六九
(孛)
孛　一四五
(車)
車前　二四
(卵)
卵　二四九
卵生　四六〇
卵球　四五九
卵巢　四六〇
卵生動物中の胎生植物　四六〇
(角)
角　二七四
角石　四五
角閃石　四五
角膜　四五
(形)
形體學　一〇八
形成層　一〇八
(更)
更格廬　五九
(貝)
貝　三五
貝柱　五一

八畫

(步)
步足　四〇八
步帶　四〇八
(奇)
奇蹄類　七三
(季)
季候風　七〇
(孟)
孟宗竹　四二〇
(岩)
岩鹽　五九
岩床　六三
岩株　六三
岩石　六三
岩鐘　六三
岩脈　六五
岩石の鑑定法　六四
(兎)
兎　二三
(定)
定芽　二七九
定積土　二八〇
(空)
空氣　八六
(臭)
臭魚　二五〇
臭竹　九四
(味)
味感　四二七
味蕾　四三七
味官　四二八
(呼)

呼吸 一二二
呼吸器 一二三
呼吸作用 一二四
（咀）
咀嚼筋 一三四
咀嚼器 一三四
（知）
知覺神經 二五九
（卓）
卓面 二四四
（昆）
昆蟲類 一三三
（長）
長石 二六六
長辛螺 三四
長鼻類 二六七
長翼類 二六七
長脚類 二六六
長葉五葉 二八一
（辰）
辰砂 一九一
（受）
受精 一七三
受精囊 一七三
（舍）
舍利鹽 一七〇
（金）
金 八三
金魚 八四
金絲燕 八四
金絲梅 八五
金花鼠 一六四
金鐘兒 一九七
金琵琶 四二五
金剛砂 一三二
金剛石 一三二
金龜子 一二二
金線蛙 三〇七
金翅雀 三七七
金襖子 四六
金屬礦物 八五
（含）
含羞草 三二
（具）
具備花 九〇
（兩）
兩形 四六二
兩性花 四六二
兩導體 四六四
兩棲類 四六二
兩被花 四六四
兩體雄蕊 四六四
兩蕊異時花 四六二
兩蕊異長花 四六二

（雨）
雨 七
雨蛤 六
（玫）
玫塊 三六二
（臥）
臥松 三六〇
（表）
表皮 三九六
表皮 三九七
表皮組織 三九七
（爬）
爬蟲類 三五三
（亞）
亞麻 六
亞鉛 一
亞鬼貝 一
亞弗利加猫 六
亞細亞靈猫 三
亞米利加駝鳥 八
亞弗利加駝鳥
亞刺比亞駱駝 八
（放）
放射相對 三四六
放射同形 三四六
放散對稱 三四五
（怪）
怪鴟 四五七
（面）
面 四四七
面皰 三二四
（非）
非晶體 三七〇
非金屬礦物 三六八
非金屬光澤 三六八
（並）
並行脈 三九六
（芽）
芽 四四五
芽生 四七
（芥）
芥 五六
（芭）
芭蕉 三五二
（芙）
芙蓉 三九五
（莞）
莞青 三六六
（花）
花 三五
花貝 三五八
花柏 一四七
花粉 一〇四
花被 一〇四

花桂 一〇三
花托 一〇三
花序 一〇一
花蕊 一〇一
花軸 一〇〇
花絲 一〇〇
花冠 九九
花梗 九九
花瓣 九九
花蓋 九八
花色素 三五九
花蜜花 一〇四
花粉花 一〇四
花崗石 九九
花斑鳥 五二
花粉の傳播 一〇四
（拂）
拂子介 四一〇
（狒）
狒々 三七八
（林）
林檎 四六六
（枇）
枇杷 三七七
（松）
松鷄 四五七
松蕈 四二四
松露 一七五
松根油 二八七
松葉牡丹 四二五
松毛蟲蛾 四二四
松柏科植物 一七五
（板）
板鰓類 三六五
（肢）
肢 一五二
枝角類 一五四
枝垂柳 一六〇
（明）
明礬 四三六
明松 三七七
明晶質 四四五
（底）
底面 二八〇
（夜）
夜光蟲 三六七
（乳）
乳糜 三三三
乳頭 三三三
乳齒 三三三
乳管 三三三
乳果 三三二
乳糜管 三二四
乳頭突起 三三三

乳酸醱酵 三三三
（青）
青魚 三二四
青銅 二〇八
青花魚 一四七
青森椴 一〇
青頭菌 三五七
（波）
波薐 四〇五
（泥）
泥鰌 三〇六
泥流 二八〇
泥炭 二八〇
泥板岩 二八〇
泥灰岩 二八〇
（河）
河豚 三八六
河貝子 三二六
（沼）
沼蝦 三二七
（泌）
泌尿器 三七三
（泡）
泡沸石 三四七
（油）
油菜 三一四
（肩）
肩帶 一一六
肩胛骨 一一四
（果）
果實 一〇一
果然 四八〇
果柄 一〇四
果實の種類 一〇一
（虎）
虎 三〇八
虎杖 一八
虎頭沙魚 三三〇

九畫

（信）
信天翁 四
（保）
保礁 四〇七
保護鳥 四〇七
保護色 四〇六
保護鼬 四〇
（侵）
侵蝕作用 一九一
（後）
後肢 一一九
後頭骨 一二〇
（待）
待宵草 四二五

(枯)
枯死　一二五
(柏)
柏心　三八二
柏槙　三八二
(柃)
柃　三六九
(枸)
枸杞　八八
(柿)
柿　四三
(柊)
柊　三六六
(栂)
栂　二七二
(柘)
柘榴　一四三
柘榴石　一四三
(桂)
桂頭　一五八
桂面　二五九
(相)
相似　一三九
相稱　一四〇
相同　一四〇
(柔)
柔魚　一九八
(茄)
茄子　三一四
(苦)
苦竹　四二二
(苞)
苞　三四三
(苔)
苔蘚植物　一三六
(苘)
苘麻　八二
苘蔴　一七四
(苧)
苧麻　五八
苧蔴　四五九
(胚)
胚　三三七
胚葉　三三八
胚芽　三三八
胚珠　三四二
胚乳　三四三
(胸)
胸腺　七八
胸骨　七七
胸腔　七七
胸管　七七
胸推　七七
胸甲類　七六
胸黑千鳥　四四二

胸鎖乳頭筋　七七
(肺)
肺臟　三三九
肺臟　三四一
肺蛭　三四三
肺活量　三三八
肺炎菌　三三
肺魚類　三三八
肺靜脈　三四一
肺循環　三四二
肺動脈　三四三
肺結核菌　三三九
(胎)
胎座　二三六
胎生　二三七
胎盤　二三九
(胞)
胞子　三一五
胞子蟲類　三四五
(珊)
珊瑚草　三六二
珊瑚樹　一四九
珊瑚礁　一四九
珊瑚菜　一五〇
珊瑚虫類　一四九
(活)
活物寄生　一〇三
(海)
海豹　二
海鰻　四
海豚　二一
海膽　二二五
海馬　三三六
海風　三三六
海綿　三三六
海象　二〇五
海膽類　二二六
海百合　二二八
海椰子　二二八
海狸膠　三三八
海百合類　二二八
海綿動物　三三七
海州骨碎補　一六二
(咳)
咳嗽　二二一
(珈)
珈琲樹　一二一
(拮)
拮抗筋　七二
(挺)
挺骨　二八〇
(砂)
砂　一九七
砂濾　一四七

砂金	一六八
砂岩	一六八
砂層	一七〇
（砒）	
砒素	三七一
（胃）	
胃	四七六
胃液	四七七
（星）	
星海盤車類	四〇七
（室）	
室鯵	四四四
（穿）	
穿山甲	二三九
（姬）	
姬小松	三八一
（疥）	
疥癬蟲	三七一
（尿）	
尿	三九五
（風）	
風	四六
風景	三八五
風蝕	三八六
風媒花	三八六
風解作用	三八五
（飛）	
飛生虫	五二
（直）	
直腸	二六九
直翅類	二六九
（原）	
原油	一一四
原腸	一一六
原形質	一一五
原素鐵	一一六
原始礦物	一一五
原生動物	一一六
（厚）	
厚嘴類	一一九
厚舌類	一一九
厚角組織	一一七
（重）	
重油	二六九
重屈折	一五二
重晶石	二六八
重瓣胃	二六九
（毒）	
毒砂	三〇三
（扁）	
扁鰓類	四〇一
扁嘴類	四〇一
扁蟲類	四〇三
扁平體	四〇三

扁平組織	四〇三
（美）	
美人蕉	三七〇
（卷）	
卷丹	三三三
卷鬚	四二二
（日）	
日性	三四一
（背）	
背針	三四一
背水性	三四二
背地性	三四二
（恒）	
恒星	一一九
（南）	
南天	三三三
南京虫	三三〇
（虹）	
虹	五
（咽）	
咽頭	二三
（食）	
食蟻	九
食鹽	一七六
食道	一七七
食蟲類	一七八
食肉類	一七九
食火雞	三六八
食蟲植物	一七八
食果蝙蝠	一七六
食道周神經	一七七
食蟲蝙蝠類	一七八
（幽）	
幽門	四五四
（盃）	
盃狀軟骨	三四一
（刺）	
刺	三〇四
刺糸胞	一五七
（香）	
香蒲	五三
（炭）	
炭化	二五〇
炭田	二五四
（狐）	
狐	七三
狐猴	七三
（除）	
除虫菊	四四一
（紅）	
紅鶴	三〇二
紅珊瑚	三九八
紅娘瓢蟲	二八八
（缸）	

紅魚	二四五
（指）	
指骨	一五六
（胡）	
胡瓜	六八
胡麻	一二九
胡孫眼	一四八
胡蘿蔔	三二七
胡麻海豚	一三〇
（秋）	
秋光魚	一五一
（春）	
春蘭	一七五

十畫

（神）	
神經	一八八
神經系	一八八
神經叢	一八八
神經鎖	一八八
神經節	一八八
神經中樞	一八九
（埋）	
埋木	二八
（揷）	
揷木	一四四
（捕）	
捕鳥蜘	三〇九
（根）	
根	三二七
根莖	三三〇
根莖	一三二
根冠	一三三
根瘤	一三五
根毛	一三五
根極	一三三
根出葉	一三三
根壓力	三三一
根頭類	一三五
根足虫類	一三三
根生花梗	一三三
根成長點	三三三
根吸取作用	三三一
（桃）	
桃	四五〇
（梛）	
梛	四五二
（桔）	
桔梗	六八
（桐）	
桐	八二
（核）	
核	四二

（秩）	
秩鷄	九〇
（狹）	
狹口類	一一三
狹鼻猴類	一一三
（狠）	
狠	三三
（狸）	
狸	二四八
狸藻	二四八
（豹）	
豹	三九六
（浮）	
浮石	五八
浮石	三九三
浮爛羅勒	四〇五
（海）	
海松	二八一
海藏	三三七
海狸	三七七
海蛆	三九四
海扇	四〇八
海鞘	四一八
海獺	四九八
海盤車	二四五
海盤車	三七三
海豆芽	四四五
海盤車類	三七三
（消）	
消化器	二〇九
消化液	二〇九
消化腺	二〇九
（酒）	
酒精醱酵	九
（流）	
流狀	四六一
（脈）	
脈搏	四三六
脈翅類	四三六
脈絡膜	四三七
脂肪組織	一六二
（胼）	
胼胝體	四〇三
（粉）	
粉蝶	一八六
（射）	
射出木髓	一六九
（耻）	
耻骨	二六一
（砥）	
砥石	二八九
砥粉	三〇七
（砧）	
砧骨	二七〇

(珠)
珠芽 一七二
(班)
班節蝦 四九
(蚋)
蚋 三九五
(蚎)
蚎蚭 三五二
(蚌)
蚌貝淡貝 三〇八
(針)
針 三六三
針魚 一四八
(紙)
紙 五三
(紐)
紐蟲類 三八二
(退)
退化 二三五
退蟹 一四八
(迷)
迷路 四四五
(脊)
脊髓 二一四
脊索 二一四
脊骨 二一四
脊梁 二三三
脊推骨 二一五
脊美鯨 三三七
脊髓神經 三一五
脊推動物 二一六
(骨)
骨 四一六
骨骼 一二五
骨髓 一二六
骨盤 一二六
骨膜 一二六
骨膜液 一二六
(臭)
臭 一五二
(夏)
夏芽 四三
(眞)
眞皮 一九三
眞鍮 一九三
眞甲鯨 四二三
眞獸龍類 一九二
眞正蜘蛛類 一九一
(氣)
氣管 六九
氣孔 七〇
氣囊 七一
氣道 七二
氣胞 七四

氣[illegible] 七四
氣門 七六
氣管支 七〇
氣生根 七一
氣體の運行 七二
(桑)
桑 九〇
(馬)
馬 二七
馬蠅 二一七
馬蛤 四二五
馬唐 四四六
馬鮫魚 一四七
馬鈴薯 一六八
馬鹿貝 三四七
馬尾蜂 三六〇
馬尾藻 四二〇
馬錢子 四二三
(烏)
烏 五六
烏賊 一五
烏蔘 五七
烏瓜 五六
烏芋 九四
烏蘞 三六二
烏喙骨 二三
(蚤)
蚤 三三四
(扁)
扁柏 三七六
(展)
展性 二八八
(隼)
隼 三六三
(麥)
麥 四三八
麥角 三四八
(栗)
栗 九三
栗鼠 四六一
(家)
家雞 二六四
家雞 三二六
家猪 三九三
(雁)
雁皮 六五
冠毛 一〇七
(草)
草綿 四七五
(茶)
茶 二六五
茶の製法 二六八
(茵)
茵芋 四三七

(茌)
茌 三〇
(草)
草入水晶 八八
(荔)
荔枝 四六九
(帶)
帶魚 二四七
(前)
前肢 二二九
前庭 二三〇
前頭骨 二三一
(翅)
翅 一五一
(豖)
豖木鳥 七二
(哺)
哺乳類 四一二
(冈)
冈亞鉛鑛 二六
(侯)
侯鳥 一二〇
(鈌)
鈌面像 一一三
(郭)
郭公鳥 四五
郭公鳥 四一〇
(陶)
陶土 二九四
陶器製法 二九一
(陳)
陳倉胡桃 三八一
(陸)
陸馬 四五一
陸風 四六一
(陷)
陷落地震 一〇七

十一畫

(梅)
梅 四四二
(梭)
梭尾螺 四一九
(梧)
梧桐 一〇
(商)
商陸 四五三
(猛)
猛禽類 四二〇
(雪)
雪 四五四
(副)

副芽 三八七
(豉)
豉豆 四三二
(琉)
琉球竹 四一〇
(都)
都鳥 四三七
(被)
被蘂類 三七五
被子植物 三七〇
(蛋)
蛋 三八三
(貧)
貧齒類 三八五
(眼)
眼 四四五
眼球 六〇
眼筋 六二
眼瞼 六二
眼瞼 四二六
(軟)
軟骨 三二〇
軟鰭類 三一九
軟骨類 三二〇
軟體動物 三二〇
軟滿俺鑛 三二二
(粘)
粘土 三三二
粘質層 三三二
粘板岩 三三二
(粗)
粗面岩 二三五
(唾)
唾腺 二四六
唾液 二四三
(閉)
閉殼筋 三九六
閉花受精 三九六
(規)
規那樹 七四
(梨)
梨 三一四
(推)
推骨 二七九
(排)
排泄器 三四二
排泄腔 三四二
排泄作用 三四二
(釣)
釣爪猴類 一一八
(動)
動脈 三〇一
動脈血 三〇一
動物學 二九五

動物界　二九五
動菌植物　二九二
動物地學　二九六
動物植物　二九六
動物質食物　二九五
動物系統學　二九五
動物學類別　二九五
(鳥)
鳥類　二八一
鳥頭　三〇九
鳥貝　三〇九
鳥媒花　二八一
(野)
野猫　三三四
野兎　三三四
野猪　四七八
野豌豆　三六二
野蠶蛾　四五三
(魚)
魚類　八〇
魚師　三九五
魚虎　三六四
魚狗　四九
(淡)
淡竹　三五五
(淚)
淚液　三一八
淚腺　四六八
淚骨　四六八
淚管　四六八
(深)
深山鳥　四三七
(涉)
涉禽類　二二六
(淋)
淋泡　四六七
淋線　四六八
淋巴管　四六七
淋巴管　四六七
(蛋)
蛋白石　二五四
(頂)
頂芽　二六六
(常)
常山　一二四
(犀)
犀　一三六
(豚)
豚鼠　二八八
(脛)
脛　一九七
(脚)
脚　三
脚端類　七八

(脛)
脛骨　一〇八
(脫)
脫皮　二四七
(通)
通草　一
(透)
透皮　二九四
(異)
異柱類　一九
異花受精　一六
(紫)
紫菜　二
紫杉　一九
紫陽花　三
紫雲英　一一五
紫水晶　四四四
紫藤又藤　二九〇
(蛇)
蛇類　三九九
蛇舅母　四九
蛇紋石　一七〇
(蛆)
蛆　二四
(蚯)
蚯蚓　四三五
(偕)
偕老同穴　三八
(側)
側金盞花　三八八
(假)
假根　四五
假肋骨　五八
假組織　四七
(偶)
偶蹄類　八七
(偃)
偃松　三六〇
(條)
條痕　二八一
(曼)
曼陀羅花　二八一
(袋)
袋鼠　三九一
袋蜘蛛　三九一
(鹿)
鹿　一五三
鹿角菜　二七六
(基)
基本組織　七六
(隅)
隅角　八六
(陽)
陽遂類　九二

(御)
御形　一二四
御土　四三一
(硅)
硅華　一〇七
硅石　一〇八
硅化木　一〇七
硅藻　一〇八
硅藻土　一〇八
硅板石　一〇九
硅藻植物　一〇八
(莨)
莨菪　三五二
(莖)
莖　八七
莖幹　三九
莖の肥大組織　八七
(莢)
莢蒴　一四八
(荳)
荳科植物　二九三
(等)
等脚類　二九二
等軸晶系　二九三
(趾)
趾骨　一五六
(盗)
盗汐　一六四
(寄)
寄生蝦　四五二
(密)
密柑　四二七
密腺　四三一
密蜂　四三二
(雀)
雀　一九七
(彗)
彗星　二〇三
(軸)
軸　二二八
(旋)
旋花　三八四
旋風　三三一
(帶)
帶狀組織　二三六
(組)
組織　二三四
組織　二三四
組織學　二三四
(終)
終結宿主　一五二
(細)
細菌　一三六
細胞　一三七

細嘴類　一三七
細胞膜　一三八
細胞液　一三八
細胞分裂　一三八
細胞含有物　一三八
(宿)
宿主　一七二
(寄)
寄生根　七一
寄生火生　七一
寄生動物　七一
(第)
第一頸椎　二三五
第二頸椎　二三九
(甜)
甜菜　二四二
(章)
章魚　二四四
(殼)
殼蛾　一二四

十二畫

(備)
備前水母　三七〇
(側)
側線　二三三
側軸　二三三
側葉部　二三三
(循)
循環器　一七四
(菩)
菩提樹　四〇八
(塩)
塩　四五七
(菎)
菎蒻　四〇〇
(菱)
菱形筋　四六四
(菜)
菜木　一四一
(草)
草履蟲　一四一
(萵)
萵苣　二六一
(菟)
菟葵　一八
(黄)
黄蜂　九一
黄金　四七二
黄銅　四七四
黄楊　二七三
黄麻　二七四
黄鼬　二八七
黄精　三一九

黄鐵鑛 四七四
黄玉石 九六
黄道眉 四〇四
黄頷蛇 一〇
黄銅鑛 四七四
黄精葉的吻 三〇三
(華)
華臍魚 一一
(菎)
菎麻 二四二
(萊)
萊菔 二三六
(蒋)
蒋草 一五五
(菌)
菌絲 八四
菌根 八四
菌植物 八五
菌類植物 八四
菌の部分 八六
菌狀乳頭 八五
(菊)
菊 六九
(萍)
萍蓬草 五〇
(葉)
葉序 三二一
葉尖 三二一
葉脚 三二一
葉枕 三二一
葉肉 三二一
葉絲 三二一
葉絲體 三二二
葉脚類 三一一
(筋)
筋肚 八五
筋肉 八五
(筍)
筍 二四四
(筮)
筮頭菜 一九六
(接)
接合子 二三四
接合法 二三四
接合生殖 二三四
接觸變質 二三六
(掴)
掴發性 七四
(椋)
椋鳥 四三九
(鄉)
鄉子 四五一
(椚)
椚 九〇

(椎)
椎茸 一六二
(棕)
棕櫚 一七四
(棱)
梭木 二七三
(植)
植物學 一七九
植物原器 一八〇
植物分類 一八三
植物養分 一八三
植物質食物 一八〇
植物生殖法 一八〇
植物の成分 一八二
植物の運動 一八一
植物の分布 一八二
植物營養機管 一八〇
植物生理作用 一八一
植物の成育斯 一八二
植物蕃殖機管 一八三
植物養分吸取法 一八三
植物の二大區別 一八二
植物の生存競爭 一八二
(游)
游水類 一三
(湯)
湯花 四五五
(測)
測角器 二三三
(滋)
滋養料 一六五
(滑)
滑石 一〇三
(喉)
喉脚類 一一八
喉鰓類 一一八
喉鰾類 一二一
(喇)
喇叭蟲 四九九
(喜)
喜蛛 二八六
(距)
距骨 八〇
(跗)
跗骨 三九二
(越)
越橘 一二五
(犂)
犂頭鯊 一四一
(猴)
猴類 一四八
(猩)
猩々 一六五
(猬)
猬 三六四

（猪）
猪籠草 二四
（猫）
猫 三二九
猫猿 三三〇
（脾）
脾臓 三六九
（腓）
腓 一三〇
腓骨 三六八
（腱）
腱 一一四
（腕）
腕 二五
腕骨 四七六
（皺）
皺芽 三〇
（腔）
腔腸動物 一一九
（絲）
絲瓜 三九六
絲狀體 一五八
絲狀乳頭 一五八
（結）
結晶 一一一
結腸 一一三
結晶系 一一一
結晶質 一一一
結晶體 一一二
結晶軸 一一二
結晶織 一一三
（絨）
絨毛 一五三
（靭）
靭帶 一九二
靭皮部 一九三
（腎）
腎門 一九三
腎臓 一九〇
（硫）
硫黄 四五五
硫化鉛 四六〇
（硬）
硬度 四二
硬度計 四二
硬骨類 四〇
硬鱗類 四〇
硬鰭類 四〇
硬顎類 三八
（硝）
硝石 二一〇
硝子の製造 五七
硝子樣液 二一〇
硝子の種類成分 五六

（隕）
隕石 四七八
隕鐵 四七八
（隈）
隈笹 九一
（隔）
隔膜 四五
（黒）
黒竹 九四
黒松 九四
黒炭 一二四
黒魚 三五一
黒干 四〇六
黒雲母 九四
黒曜石 一二四
黒猩々 二七一
黒汁瓶 四〇六
黒死病菌 三九七
（虚）
虚足 八〇
（蛙）
蛙 五二
蛙の變態 五二
（蛭）
蛭 三八三
蛭石 三八四
（蛔）
蛔蟲 三
（蛞）
蛞蝓 三一八
蛞蝓魚 三一八
（彭）
彭賊 三〇九
（象）
象 一三九
（酢）
酢漿草 四八
（朝）
朝顔 二
朝鮮松 二八一
朝鮮五葉 二八一
（晶）
晶群 一六五
晶族 一六六
（進）
進化 一八七
進化論 一八八
（單）
單形 二五一
單葉 二五〇
單眼 二五〇
單化類 二五一
單化頸 二五一
單純林 二五二

單性花　二五二
單子房　二五二
單性岩　二五二
單柱類　二五三
單尾類　二五四
單被花　二五四
單雌蕊　二五一
單子葉莖　二五一
單為生殖　二五六
單斜晶系　二五二
單體雄蕊　二五三
單細胞動物　二五一
單子葉植物　二五一
單瓣花植物　二五四

(雲)
雲雀　三七八

(瑞)
瑞香　二七〇

(琥)
琥珀　一二七

(斑)
斑蝥　四二九
斑驢　四二三
斑岩　三六五

(發)
發芽法　三五六
發散流　三五六
發生學　三五七
發散作用　三五六

(惡)
惡蝨　四
惡鬼貝　四一八

(晝)
晝夜　二五九
晝間遊食類　二五七

(無)
無機物　四三九
無煙炭　四三八
無柄葉　四四二
無尾類　四四二
無蹄類　四四二
無足類　四四二
無舌類　四四二
無名骨　四四四
無限花序　四四〇
無性生殖　四四一
無性世代　四四二
無復鰭類　四四二
無鉤條蟲　四四〇
無限維管束　四四〇

(短)
短條　二五三
短舌類　二五三
短翼類　二五五

(黍)
黍　四四九

(雁)
雁齒　四四七

(最)
最大花　一三七
最長樹　一三七
最大植物　一三七
最大動物　一三七

(斜)
斜長石　一七〇
斜方晶系　一七〇

(蚱)
蚱蜂　四五三

(掌)
掌骨　一六五

(貽)
貽貝　一六

(貯)
貯藏根　二七〇
貯藏澱粉　二七〇
貯藏物質　二七〇

(聒)
聒々兒　九〇

(喬)
喬木　一〇九

(栗)
栗　四

(紫)
紫竹　六四

(雄)
雄花　一二
雄器　四五四
雄花　四五四

(雲)
雲　九一
雲母　二九

(裂)
裂蹄　四七〇
裂舌類　四七〇
裂殖植物　四七〇
裂頭條蟲

十三畫

(塊)
塊狀岩　一二
塊狀組織　一三

(微)
微晶　三七〇

(傳)
傳書鳩　二七一

(椴)
椴背椴　三〇六

(楡)

楡樅 三二六
（椿）
椿象 四〇四
（楮）
楮 四二
（稜）
稜 四六四
（稗）
稗 三六七
（獅）
獅猴 一五七
獅子 一五六
（猿）
猿猴 二八六
（新）
新生代 一九二
新羅松 二八一
新火山岩 一八六
新陳代謝 一九三
（幹）
幹 四二八
幹螺 二七八
（煉）
煉瓦の製法 四七〇
（煙）
煙草 二四八
（煇）
煇石 七一
（鉤）
鉤頭類 一二〇
（鉛）
鉛 三一七
（腦）
腦膜 三一三
腦髓 三一二
腦神經 三一二
（腹）
腹筋 三八七
腹歩類 三八九
腹神經鎖 三八九
（腰）
腰帶 三〇
腰椎 三〇
（膃）
膃肭臍 四八〇
（腺）
腺組織 二三〇
（睡）
睡蓮 三七三
睡眠運動 二〇三
（絹）
絹猴 七四
（綿）
綿羊 三七二

（跟）
跟骨 一三三
（裙）
裙帶菜 四七五
（鳩）
鳩 三〇七
鳩鴿類 三五七
（蜂）
蜂 三五三
蜂雀 三五五
蜂巣胃 四〇四
（蛹）
蛹 四五六
蛹 一四六
（蛾）
蛾 三五
蛾類 五八
（蜆）
蜆 一五八
（馴）
馴鹿 三〇七
（嗅）
嗅神經 六七
嗅覺器 六七
嗅感器鼻 一五二
（濕）
濕法 一六一
（試）
試金石 一五五
（滿）
滿牙類 一一八
（雉）
雉 七〇
（群）
群體 一〇七
群棲類 一〇七
（頑）
頑癬菌 二五〇
（解）
解剖學 三六
（飯）
飯匙倩 三六〇
（瑇）
瑇瑁 二四〇
（雌）
雌花 一五六
雌器托 一五五
雌雄異株 一七一
雌雄淘汰 一七二
雌雄生殖 一七一
雌雄異體 一七一
雌雄同樣 一七二
雌雄同體 一七二
（痰）

痰	二五〇
（嗉）	
嗉囊	二三四
（裝）	
裝飾石	一四〇
（雹）	
雹	三九六
（零）	
零餘子	四三八
（電）	
電氣性	二八八
電氣石	二八八
（鼠）	
鼠	三三〇
鼠婦	四七六
鼠頭魚	一八四
鼠麴草	三六〇
（貿）	
貿易風	四〇四
（蜀）	
蜀葵	二四六
蜀黍	二五〇
（遂）	
遂石	二〇四
（運）	
運積土	二九
運動神經	二九
（遊）	
遊星	一三
（感）	
感應作用	五九
（圓）	
圓窓	四七九
圓口類	四七九
圓蟲類	四七九
（落）	
落葉	四五八
落葉松	五七
（葉）	
葉	三三五
葉開度	三六〇
（葛）	
葛	八九
葛松	一三
葛藤・野葛	二七四
葛上亭長	七
（葡）	
葡萄	三九四
（葱）	
葱	三二九
（萩）	
萩	三四七
（蓼）	
蓼	四四

（慈）	
慈姑	一〇五
（裏）	
裏白	二九

十四畫

（榊）	
榊	一四一
（種）	
種子	一七二
種子	一七三
（槌）	
槌骨	二七九
（榧）	
榧	五五
（槐）	
槐	四七九
（槲）	
槲	四六
（榎）	
榎	三一
（榛）	
榛	三五二
（蝀）	
蝀	七九
蝀蝀	七八
蝀鰕魚	一四
（銀）	
銀	八三
銀杏	二〇
（銅）	
銅	二九〇
（漆）	
漆	二九
（漏）	
漏斗	四七一
（精）	
精蟲	二〇七
精子	二〇六
（鼓）	
鼓室	二二五
鼓動	二二六
鼓膜	二二九
（對）	
對生	三三七
對稱	三三七
（僧）	
僧帽筋	一四一
僧帽瓣	一四一
（聚）	
聚形	一七一
聚繖分枝	一七一
（瑪）	
瑪瑙	四四六

(珠)
珠心　一七二
(熩)
熩炭　二三〇
(裸)
裸莖　四五八
裸花　四五八
裸子菌　四五八
裸子植物　四五八
(磁)
磁氣性　一五四
磁鐵鑛　一六一
磁器の製法　一五五
(蜻)
蜻蜓　四五四
蜻蛉　三一〇
(蜈)
蜈蚣　四三八
(蜥)
蜥蜴類　三〇二
(蜘)
蜘蛛膜　二六二
蜘蛛類　九二
(蝸)
蝸牛　四七
蝸螺　三二六
蝸牛殼　四四
(網)
網目　四三
網膜　四二一
網玉石　三九
網狀脈　四二〇
(縫)
縫合　四〇四
縫匠筋　四〇四
(綿)
綿馬　四四七
(維)
維管束　四七七
(褐)
褐炭　四八
褐鐵鑛　四八
(腿)
腿　四五〇
腿口類　二三五
(膊)
膊　四七
(熊)
熊　九一
(酸)
酸漿貝　四〇五
(鳳)
鳳梨　四
鳳仙科　四〇五

(鼻)
鼻　三五七
鼻猴　三五九
鼻骨　三六九
(蜚)
蜚蠊　四三三
(蒟)
蒟蒻　一三五
(蒲)
蒲公英　二五五
(蒸)
蒸發作用　一七五
(管)
管牙類　一〇五
(魁)
魁蛤　一
(疑)
疑冬　三八六
(監)
監膚木　三九二
(翡)
翡翠　四三七
(廣)
廣鼻猴類　九七
(鳶)
鳶尾　一九
(腐)
腐敗　三九五
(豪)
豪猪　四五二
(齊)
齊墩果　三〇

十五畫

(樟)
樟　八九
(槻)
槻　二七二
(槙)
槙　二〇
(模)
模式花　四四八
(樅)
樅　四四九
(槲)
槲樹　四四九
(橄)
橄欖石　六五
(撫)
撫子又瞿麥　三一五
(稷)
稷　七四
(稻)
稻　二一

(輝)
輝安鑛　六六
輝銀鑛　六八
輝コボルト鑛　七〇
(襞)
襞葉　三八七
襞眼　三八七
襞毛　三九一
襞花頸　三八七
襞子房　三八八
襞雌蕋　三八八
襞成岩　三八九
襞細胞動物　三八八
(綠)
綠岩　四六四
綠柔礬　四四九
綠泥石　四六五
綠玉石　四六四
綠色藻類　四六五
(線)
線金蟲　三六四
(腸)
腸　二六五
腸液　二六六
腸骨　二六六
腸腺　二六七
腸感膜　二六六
(緩)
緩步類
(膜)
膜翅類　四二一
(膝)
膝　三六九
膝蓋骨　一六〇
(鴇)
鴇　五六
(魴)
魴鮄　三四七
魴魚　三四七
(皺)
皺胃　一五三
皺曲　一九五
皺胃　一九五
皺波　一九五
(駒)
駒鳥　一二九
(駝)
駝鳥　二四七
(餇)
餇兎　三一九
(鋤)
鋤骨　一八四
(噴)
噴門　三九五

噴火口　三九五
(彈)
彈尾　三六〇
彈絲　二五一
彈力纖維　二五五
(蝦)
蝦類　三一
蝦蛄　一六九
蝦蟇　二七四
蝦夷松　三〇
(蝴)
蝴蝶　一二六
蝴蝶骨　一二六
(蝮)
蝮蛇　四二六
蝮蛇　三六二
(蝶)
蝶類　二八七
(螳)
螳螂　二六一
(蝗)
蝗　二〇
(蝙)
蝙蝠　五〇
(輪)
輪生　四六七
輪郭乳頭　四六六
(潛)
潛伏芽　二三一
(睫)
睫毛　四二四
(蓮)
蓮　三五五
蓮根　四七一
(隨)
隨意筋　一九九
(適)
適當食物　二八五
適者生存　二八五
(節)
節　二三三
節　三九二
節甲類　二二四
節根竹　三五一
節肢動物　二二四
(蔓)
蔓脚類　四二七
(蕁)
蕁菜　二〇
(蓴)
蓴菜　一七五
(瘢)
瘢　五八
(瘤)

瘤胃	四六一
瘤狀芽	四六一
(蝱)	
蝱	一八五
蝱蠅	一八五
(齒)	
齒	三三六
齒式	一五七
齒嘴類	一五八
(蝦)	
蝦	一五二
(漿)	
漿膜	七八
(劈)	
劈	三九七
(熱)	
熱兎	三一九
(敫)	
敫子	四六
(盤)	
盤指類	三六五

十六畫

(蕪)	
蕪菁	五二
(蕃)	
蕃椒	二四二
蕃杏	二七九
(蕎)	
蕎麥	二三五
(蕨)	
蕨	四七六
(燕)	
燕	二七六
燕子花	四四
燕雀類	三二
([illegible])	
[illegible]	三一四
(整)	
整齊花	二〇六
(錐)	
錐面	二〇五
(鋼)	
鋼鐵	四二
(錫)	
錫	一九六
(鋸)	
鋸齒條蟲	八〇
鋸緣	三三四
(靜)	
靜脈	一六六
靜脈血	一六六
(膵)	
膵液	一九九

膵臟	二〇二
(縞)	
縞木兎	一六四
(燐)	
燐蟲類	一四六
(篩)	
篩骨	一五六
篩板	一六二
(頸)	
頸	九〇
頸椎	一〇八
(頭)	
頭垢	三九二
頭蓋骨	二九一
頭步類	三〇〇
頭部骨骼	二九五
(頰)	
頰	四〇四
(颶)	
颶風	九一
(凝)	
凝結	七八
凝灰岩	七八
(龜)	
龜	五四
龜鱉類	七六
(器)	
器官	六九
(鴨)	
鴨	五四
鴨兒芹	四三二
鴨跖草	二七八
(澱)	
澱粉	二八八
(膽)	
膽汁	二五二
膽囊	二五四
膽管類	二五二
(擔)	
擔腕類	二五五
(遺)	
遺傳	四七七
(劍)	
劍尾類	一一六
(壁)	
壁蝨	二四七
壁蝨類	二四八
(鮎)	
鮎	八
(隱)	
隱花植物	一三
(螻)	
螻蛄	二六
(螃)	

螃蟹	一七二
(踵) 踵	四三
(蹄) 蹄	三七三
(路) 路駝	四五八
(擬) 擬蠍類	六八
(摺) 摺	三七七
(撓) 撓骨	二四二
撓脚類	二〇九
(橫) 橫隔膜	四七二
橫地性	四七一
橫日性	四七三
橫紋筋纖維	四七五
(樹) 樹懶	三一五
(穆) 穆	三六七
(輻) 輻狀相稱	三八八
(輸) 輸尿管	四五五
(鴝) 鴝	三九一
(鳴) 鳴	一五四
(奚) 奚	四二九
(導) 導	二九三
(螢) 螢	四〇八
螢石	四〇九
螢烏賊	四〇八
(燈) 燈形類	二九三
(龜) 龜裂	八二
(龍) 龍蝦	一七
龍眼	四六〇
龍腦	四六一
龍骨突起	四六一
(頴) 頴	五〇

十七畫

(翼) 翼	二七六

翼手類	四五六
翼步類	四五六
(瞳) 瞳孔	二九三
(糜) 糜粥	三六九
(衞) 衞星	四七九
衞生學	四七九
(總) 總苞	三三三
總狀分枝	三三二
(擘) 擘	一三一
擘帶	二〇七
(錫) 錫石	一六八
鍛鐵	二五四
(獮) 獮猴	一四八
(瓢) 瓢簞	三九六
瓢胡	三九六
(猾) 猾曲	二八〇
(濶) 濶背筋	一〇三
(繇) 繇斯	二〇
(避) 避	五四
避日類	三七〇
(磯) 磯松	一八
(優) 優勝劣敗	一三
(鮭) 鮭	一四四
鮪	一六二
鮥	四二二
(鮫) 鮫類	一四七
(螻) 螻蛄	一一四
(蟋) 蟋蟀	一二九
(燐) 燐光	四六六
(壓) 壓條	三〇九
(鴻) 鴻	三六九
(擬) 擬態	七二

(螺) 螺 四五七
(寶) 寶石 三四六
(薔) 薔薇 三六三
(薊) 薊 二
(薏) 薏以參 三五七
(薇) 薇 二三一
(鴿) 鴿骨 二二九
(薄) 薄荷 三四八
薄鰓類 三四八
(霜) 霜 一六四
(薹) 薹 三九五
(臂) 臂 三六九
(檝) 檝 三八一
(檜) 檜 三七六
檜柏 三八二
(槲) 槲寄生 四五二

十八畫

(櫛) 櫛水母類 八八
(環) 環節 一〇五
環蟲類 一〇六
環狀管 一〇五
環節器 一〇五
(題) 題蓋 一三六
題脚 一
(鎮) 鎮骨 一四四
(臙) 臙骨 一八四
(髀) 髀臼 三六八
(顏) 顏面骨骼 六五
(軀) 軀幹骨 八七
(雙) 雙晶 一四〇

雙翅類 一四〇
雙髻鯊 一七四
雙子葉苗工 一三九
雙子葉植物 一三九
雙子葉植物 一六四
(雜) 雜性花 一四五
(雞) 雞 三二六
(鵝) 鵝 二四七
(鯉) 鯉 一二七
(蹠) 蹠車魚 四二七
(瞬) 瞬膜 一七五
(臍) 臍 三九七
(蛾) 蛾 二四三
(蟬) 蟬 二二六
(蟲) 蟲獲蓮 四四一
蟲樣垂 二五九
蟲媒花 二五八
(繖) 繖形科植物 三〇三
(檔) 檔眼兒 四四六
(鵠) 鵠 三五一
(鞭) 鞭毛蟲類 四〇三
(齋) 齋 三一五
(黎) 黎 一
(藍) 藍藻 四六〇
([illegible]) [illegible] 四五三
(藩) 藩荷 四四五
(鶩) 鶩 八二
鶩鳥 三八六
(叢) 叢絲葉 二三三
(斷) 斷口 二五一
斷層 二五三

斷層地震 二五三
(鼬)
鼬鼠 一八
鼩鼱 二六四

十九畫

(羅)
羅漢柏 三七七
(蹲)
蹲踞 二七四
(蟹)
蟹 四九
(蟾)
蟾蜍 三六九
(蟻)
蟻 九
蟻植物 九
(螳)
螳螂 五三
(蠍)
蠍類 一四四
(蠅)
蠅 三六一
蠅虎 三六一
蠅取草 三六一
蠅取草 三六二
(鼈)
鼈蓋 三五三
(蠖)
蠖 四五七
(蠟)
蠟石 四五九
(鏈)
鏈石 二七一
(類)
類緣 四六九
(壚)
壚坶 四七二
(藍)
藍 一〇
(藤)
藤 三九三
藤蔓 三九三
藤袴 三九四
(櫟)
櫟木類 三六六
(檳)
檳榔子 三八五
(櫨)
櫨木 二五〇
(蟖)
蟖下 三三
(羆)
羆 一五五

(襟)
襟細胞 八四
(離)
離片萼 四六一
離瓣花植物 四六一
(醱)
醱酵 三五六
(醫)
醫 三九三
(鬍)
鬍 三二
(鶉)
鶉 二四
鶉鷄類 一七四
(鶇)
鶇 二四
鶩 五
(鯰)
鯰魚又鮧魚 三一七
(鯢)
鯢魚 一五〇
(鯨)
鯨鬚 九〇
鯨腦油 一〇九
(鯛)
鯛 二四九
(鯱)
鯱 一四一
(鯡)
鯡 三二四
(鯧)
鯧魚 四二五
(鯔)
鯔魚 四一九
(麒)
麒麟 八二
(關)
關節 一〇五

二十畫

(櫨)
櫨 三五二
(蘇)
蘇木 一九八
蘇鐵 三三四
蘇鐵類 三三四
(蘚)
蘚類 四五〇
蘚植物 三三三
(鰓)
鰓蓋 一七二
鰓動
鰓舌類 三三〇
鰓形動物 三三八

(蠑)
蠑螈 四七八
蠑螺 一四四
(蟹)
蟹 二七九
(辮)
辮 四〇一
辮膜 四〇三
辮脚類 四〇〇
辮鰓類 四〇一
(殼)
殼 八
(礫)
礫岩 四六九
礫熔性 四七〇
(觸)
觸角 一七六
觸覺 一七六
觸唇 一七七
觸脚類 一七七
觸接刺戟性 一七七
(鐙)
鐙骨 二九三
(鐘)
鐘乳石 一七五
(罌)
罌子粟 一〇九
(懸)
懸猴 九一
(鰈)
鰈 五八
(鰐)
鰐魚類 四四
(鰓)
鰓 三二
鰓 一三六
(鰛)
鰛 二三
(鰊)
鰊 三二四
(鰒)
鰒魚 二〇五
(鰤)
鰤魚 三九四
(鰕)
鰕虎魚 三五二
(鰧)
鰧魚 四二五
(鰐)
鰐魚類 四七五
(鶚)
鶚 四二八
(鼯)
鼯鼠 四四一

二十一畫

(灌)
灌木 一〇六
(櫻)
櫻 一四二
櫻草 一四三
櫻桃 四二八
(櫸)
櫸 一一四
(鐵)
鐵 二八五
鐵砲百合 二八六
(鶯)
鶯 二三
(響)
響尾蛇 五六
(齧)
齧齒類 一五六
(纖)
纖毛 一三一
纖維 一三三
纖毛室 一三二
纖毛蟲類 一三一
(麝)
麝 一六七
麝香鼠 一六七
(獾)
獾 四
(蘚)
蘚類 二三二
蘚苔植物 二三〇
(蘭)
蘭 四五九
(露)
露 二七八
露兜樹 二四五
(癩)
癩病菌 四五七
(驅)
驅蟲菊 四四一
(鰣)
鰣 三九五
(鰭)
鰭 三八四
(鷄)
鷄冠 一〇九
鷄心螺 四三三
鷄兒腸 四五七
(鶴)
鶴雞 四二五
(鷂)
鷂鴿 二三三

蠕虵 二七

(齧)
齧齒類 一一二

二十二畫

(蘚)
蘚胚 三一三
蘚蟲 三一三
蘚綱類 三一一

(聽)
聽感器 二六六

(鑄)
鑄鐵 一七三

(鑛)
鑛花 九六
鑛床 九六
鑛染 九六
鑛泉 九七
鑛物 九七
鑛脈 九八
鑛物界 九七
鑛物鑑法 九七
鑛物の分類 九八
鑛物の生因 九八
鑛物の變化 九八
鑛物質の循環 九八

(鷸)
鷸 二七八

(鼴)
鼴 一五四

(鷗)
鷗 五五

(鰻)
鰻 二五

(鰾)
鰾 二三
鰾口類 三九六

(鰶)
鰶魚 一二七

(鰷)
鰷魚 三四七

(鰺)
鰺 三

(鼷)
鼷 三六七

二十三畫

(變)
變種 四〇一
變態 四〇二
變形葉 四〇〇
變形枝 四〇一
變成岩 四〇一
變形菌類 四〇一

(顯)
顯花植物 一一四

(髓)
髓 一九九

(體)
體腔 二三六
體裂 二三七
體幅 二三九
體溫 二四一
體循環 二三七
體溫調節 二四一

(鱒)
鱒魚 四二二

(鱘)
鱘魚 二八六

(鱚)
鱚 四九

(鱗)
鱗 二九

(鷺)
鷺 四七五

(鷦)
鷦鷯 四二九

(鼹)
鼹鼠 三五六

(鼴)
鼴鼠 四三九

二十四畫

(鷹)
鷹 二四三

(鷿)
鷿鷉 三三六
鷿鷈 四三九

(鹽)
鹽吹貝 一六三

(釀)
釀母菌 一六六

(鱟)
鱟魚 五二

(鱗)
鱗翅類 四六六
鱗狀葉 四六六

(黴)
黴菌 五〇

(靈)
靈猫 六九

(蠶)
蠶 五〇

(蠼)
蠼 三五二

(齲)
齲齒 四四一

二十五畫

◎(二十五畫)鸐、鑷、顱 ◎(二十六畫)鑷 ◎(二十七畫)鱸、顴、顳 ◎(二十八畫)鼺、鸚 ◎(二十九畫)鸛

(鸐)
鸐雉 四五三
(鑷)
鑷甲 三九八
鑷甲蜂 三九八
(顱)
顱頂眼 四七二
顱頂骨 四七二

二十六畫

(鑷)
鑷 一九七

二十七畫

(鱸)
鱸 一九六
(顴)
顴骨 一二五
(顳)
顳顬骨 一六六
顳顬筋 一六六

二十八畫

(鼺)
鼺鼠 四五〇
(鸚)
鸚哥 一二三
鸚鵡 一二五

二十九畫

(鸛)
鸛 一二一

索引了

正誤表

頁	段	行	誤	正
三十六	上	六	鴟鵂	鵩鵂
四十一	上	十六	かろしるゐ	かふしるゐ
四十一	下	十八	かろじやうなんとつ	かふじやうなんとつ
四十一	下	十八	(甲牀軟骨)	(甲狀軟骨)
四十二	下	十	かうど(二度)	かうど(二硬度)
五十八	上	十四	かれい	かれひ
七十七	下	二	きやうせい(共生)	きようせい(共生)
七十七	下	八	きやうせい(共棲)	きようせい(共棲)
七十七	下	十一	きやうどうとつかく	きようどうとつかく
七十七	下	十四	きやうどうにく	きようどうにく
七十八	下	一	きようけつ	きようけつ

◎正誤

八十	下	七	きよしてふちり	きよしでうちり
百九	下	二	げぢげぢ	げぢげぢ
百十四	下	十六	けんく　しよくぶつ	けんくわしよくぶつ
百二十一	下	十八	とりへんさいはふ	とりへんさいはり
百二十八	上	十	とひげゐ（　）	とひげゐ（小鬚脳）
百四十	上	八	（裝飾石）	（裝飾石）Ornamletstone
百五十六	上	十一	じくわ	しくわ
百五十七	下	十	しゝきる	しゝざる
百六十三	上	十六	（死生寄生）	（死物寄生）
百七十五	上	六	じゆんさひ（薺）	じゆんさい（薺菜）
百七十六	下	十六	綿狀物	線狀物
百七十七	上	七	觸角類	觸脚類
百八十	上	八	（植植物原器）	（植物原器）
百八十五	上	二	しらさぎ（鷺）	しらさぎ（白鷺）

◎正誤

百八十八	下	四	（神輕系）	（神經系）
二百三十八	上	十六	（大腸と小腸の異）	（大腸と小腸の差）
二百四十七	下	四	だてふ	だでう
二百七十	下	十	ちんすゐけい	ちんすゐかり
二百七十三	下	三	つきみさふ	つきみさう
三百二十二	上	十五	なんてつ	なんてん
三百二十三	上	十六	にらすゐくわん	にふすゐくわん
三百二十四	下	十四	チキニシ	カキニシ
三百二十四	下	十四	イワニシ	イハニシ
三百二十七	下	一	山茶豆	山茶豆
三百二十九	上	一	ねりどり	ねりだり
三百三十一	下	十一	ねのきりしゆさよう	ねのきふしゆきよう
三百四十一	下	五	（脊日性）	（背日性）
三百四十二	下	十六	（脊地性）	（背地性）

三百六十六	上	十七	はんみよう	はんめう
三百六十六	下	七	アメハンミヨウ	アメハンメウ
三百六十六	下	八	チハンミヨウ	チハンメウ
三百六十九	下	九	ひじく	びじく
四百	下	十四	へんけいたう	へんけいたふ
四百二十六	下	十八	まるびきしなう	まるびきしなう
四百二十六	下	十八	（マルパキ氏巫）	（マルピキ氏巫）
四百二十九	上	四	みりさゞひ	みりさゞい
四百四十三	上	十五	むへいたう	むへいたふ
四百四十九	下	七	ものあらひかひ	ものあらひかひ
四百五十三	上	二	やまこほふ	やまこばう
四百五十四	下	二	（雄器）	（雄器托）
四百五十四	下	十三	ゆず 頭	ゆず（柚子）頭
四百六十一	下	四	S Inus	S guirrel

四百六十二	上	一	（兩形）	（兩形）
四百六十二	下	十六	諸骨と に	諸骨と共に
四百六十三	下	十三	腎臓 び	腎臓及び
四百六十八	上	九	淋 を	淋巴を
四百六十九	上	十五	れいひやう	れいべう

明治四十年一月十五日印刷
明治四十年一月二十日發行

著作權所有

著作者 三餘學寮

大阪市南區安堂寺橋通四丁目二三四番屋敷
發行者 大塚宇三郎

大阪市南區安堂寺橋通四丁目二四二番屋敷
發行者 田中太右衛門

大阪市西區阿波座四番町一七四番屋敷
印刷者 吉田由治郎

新刊學生參考書類

神戸英語學校長ジョージ、バント先生
三餘學寮主小林杖吉先生共著

日英新會話

洋装新形 上製全一冊
定價金參拾五錢
郵送費金四錢

日英新同盟成り、彼我の交情益々親密の度を加へんとす。この際、學生諸君は勿論。實業家、交際家諸氏にとりて、日英會話の必要なることは、辯を竢たず。本書は、夙に我が國に渡來し、大に私學校を興し(外國人にして私學校を設立したる權輿)、育英に從事せる英國人ジョージ、バント氏並に英學界に名高き三餘學寮主小林杖吉氏の共著に成れり。内容は、單純なる會話篇にあらずして、理想的に英語の智識を養成せしめんことを期し、各種の方面に亘りて、あらゆる事項を網羅し、教訓、諧謔、滑稽軍事の新題をも加味調和したり。これ本書を題して THE IDEAL GUIDE TO A KNOWLEDGE OF ENGLISH. と名けたる所以なり。諸君、就いて内容を檢せられよ。

言文一致 普通學表解全書

洋裝小形 全二十冊

定價壹冊金拾貳錢　郵送費各金貳錢

表解全書

著者

ア…淺野寅次郎先生
イ…岩本錠次先生
　　伊藤博先生
ク…久保田採先生
コ…小林杖吉先生
サ…坂本哲郎先生
ナ…永田赳二先生
ヤ…山口國三郎先生
　　八木龍三郎先生
ヲ…小野辰太郎先生

（十專門家分擔執筆。）

內容

一 普通學……要領を示摘す＝一覽徹底＝科目は次頁に揭ぐ。
二 最新學說……科學界の進步に伴ひ最新學說をも揭ぐ。
三 連絡……敎授要目に據り敎科書との連絡を保つ。
四 記憶筆記……每頁餘白を存し隨意備忘書入に便にす。
（三・四）教室用に適す。

特色

五 挿圖……挿入の密圖は電氣銅版に成れり。
A 文體……平易なる言文一致体を用ゐたり。
（五・A）獨習用に適す。
B 印刷……新鑄の活字最良のインキを用ゐて印刷せり。
C 紙質……光澤を有する舶來硬質の純白紙を用ゐたり。
D 製本……最新小形に製し頗る攜帶に便ならしめたり。
　　　　　最も裝釘を堅固にし改良本綴を採用したり。
E 表紙……表紙の裝飾に意匠を凝し体裁甚だ優美なり。

欠

MISSING

研究會著作

新編國語

中學作文資料

この書は文部省訓令中學教授要目を適用し國語研究會多年の經驗に依り編纂せられたるものなれば中學校師範學校高等女學校などは勿論これと同程度なる公私學校の生徒諸君には一日否一刻も缺くべからざる寶典たりその內容記事敍事論說解記などの數門に別ちて數多の作例を示し尙且和歌新體詩など首め和文漢譯、漢文和譯、和文英譯、英文和譯、及び和歌英譯、英詩和譯など頗る多岐に亘り上欄には英文作例を掲げて好材料を供し附錄には日本文學史の概要を問答體に記述して受驗者に至便を與へたるなど用意周到遺す所なし而して散文韻文兩體に通じて材料豐富溢るゝが如く眞に無盡藏と稱すべきなり世の學生子女必ず一本を坐右に備へて作文の新資料を得られよ

洋裝上製 全一冊　定價金參拾五錢　郵送費金六錢

日本東洋

歷史大年表

最新版 和裝全一冊　定價金六拾錢　郵送費金六錢

本書は、上古より現代に亘れる歷史大年表にして、東洋の大立物たる日本、支那の二大帝國に我が保護國なる韓國と、我が同盟國の領地なる印度との二國を併せ、我が神武紀元を基とし、これに西暦年紀を配し兩々相對照せしめ、記事は簡明を主として、細大漏らすことなく、悉く網羅して、この一冊に收め、毫も間然する所なし。されば、中學、師範、その他あらゆる公私學校の學生諸子には、缺くべからざる空前の良參考書なり。

6た-1

大阪府師範學校教諭　小野田伊久馬著作

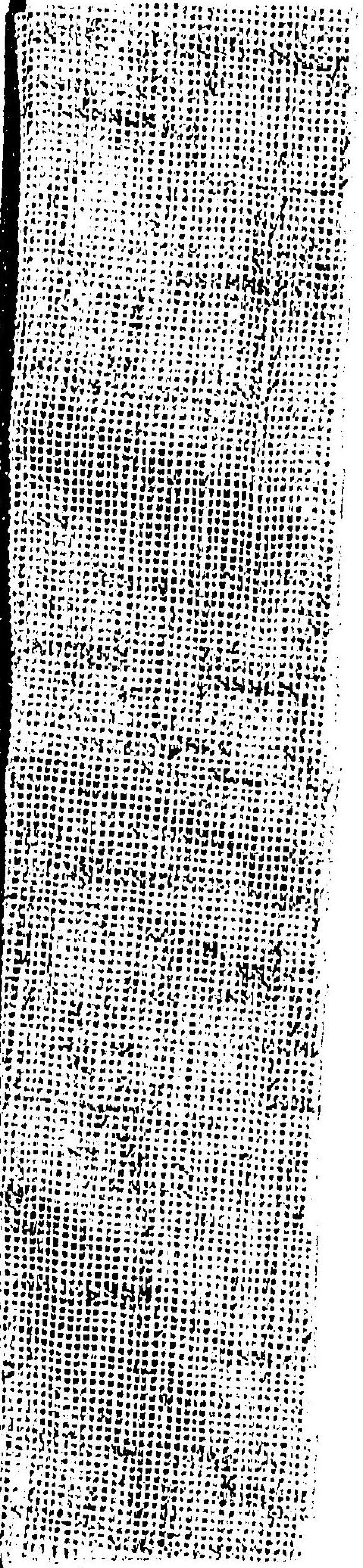
普通動物圖說

洋裝菊判形　上製全一册

定價金八拾錢　郵送費金八錢

本書は生物界に於ける普通動物を蒐集し、一々その圖解を施せるものなり。所謂普通動物とは、猿猴類、游水等の高等動物をはじめ、水母類、珊瑚類、海綿類等の下等動物に至るまで、各類に亘りて、無慮**六百有餘種**を網羅し、これを門、綱、目、科、屬、種に分類したるものなり。而して、挿入の圖譜は、鮮明なる石版刷に成り、悉く、實物を欺くの觀あり。且、その形態、習性、並に、人生との關係を詳説して遺す所なく、更に、一段の活氣を紙面に添へたり。されば、師範、中學、高等女學校をはじめあらゆる中等諸學校に於ける**學生諸君**には**動物研究上の良參考書**たるべく、小學校教員諸君には、**理科教授上の好資料**たるべく、併せて、**動物採集上**無二のGuide bookとなすを得べし。實に、中等程度に於ける、この種の刊行は、本書を以て、その嚆矢となす。乞ふ、如何に本書が、學界に貢獻するかは、これを内容に徵せよ。

發行元　大阪市南區心齋橋通安堂寺町南へ入（電話東一七七四番）　田中宋榮堂



6F-1

505
29

057132-000-1

35-191

博物新辞典

三余学寮／編

M40

CAP-0208

明治四十年一月十五日印刷
明治四十年一月二十日發行

著作權所有

著作者 三餘學寮

大阪市南區安堂寺橋通四丁目二三四番屋敷
發行者 大塚宇三郎

大阪市南區安堂寺橋通四丁目二四二番屋敷
發行者 田中太右衛門

大阪市西區阿波座四番町一七四番屋敷
印刷者 吉田由治郎

新刊學生參考書類

神戸英語學校長ジョージ、バント先生
三餘學寮主小林杖吉先生共著

日英新會話

洋裝新形 上製全一册 定價金參拾五錢 郵送費金四錢

日英新同盟成り、彼我の交情益々親密の度を加へんとす。この際、學生諸君は勿論。實業家、交際家諸氏にとりて、日英會話の必要なることは、辯を竢たず。本書は、夙に我が國に渡來し、大に私學校を興し(外國人にして私學校を設立したる權輿)、育英に從事せる英國人ジョージ、バント氏並に英學界に名高き三餘學寮主小林杖吉氏の共著に成れり。内容は、單純なる會話篇にあらずして、理想的に英語の智識を養成せしめんことを期し、各種の方面に亘りて、あらゆる事項を網羅し、教訓、諧謔、滑稽、軍事の新題をも加味調和したり。これ本書を題して THE IDEAL GUIDE TO A KNOWLEDGE OF ENGLISH と名けたる所以なり。諸君、就いて内容を検せられよ。